

雷雨報告

中央氣象台編

自昭和八年
至同和八年



始



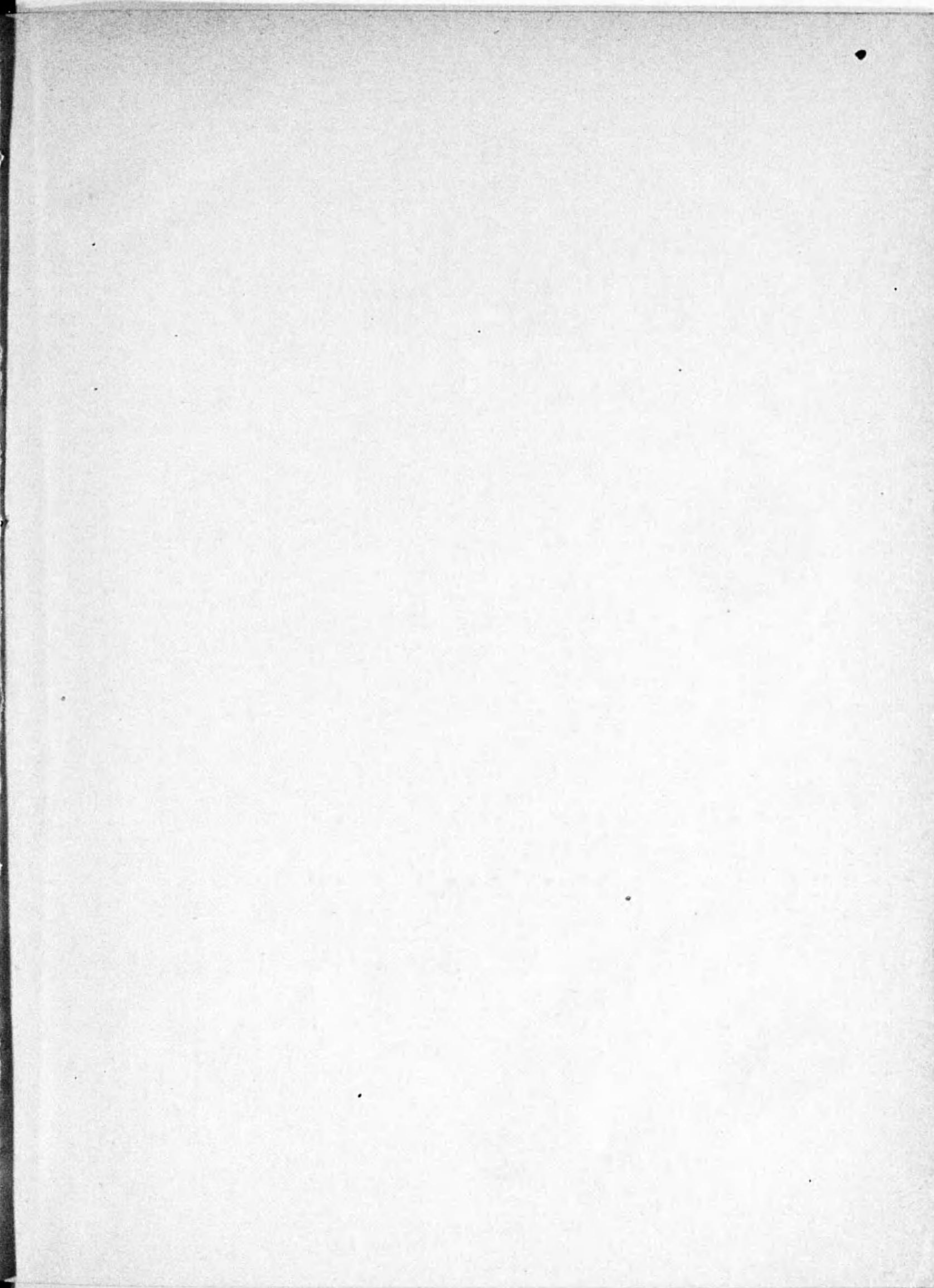
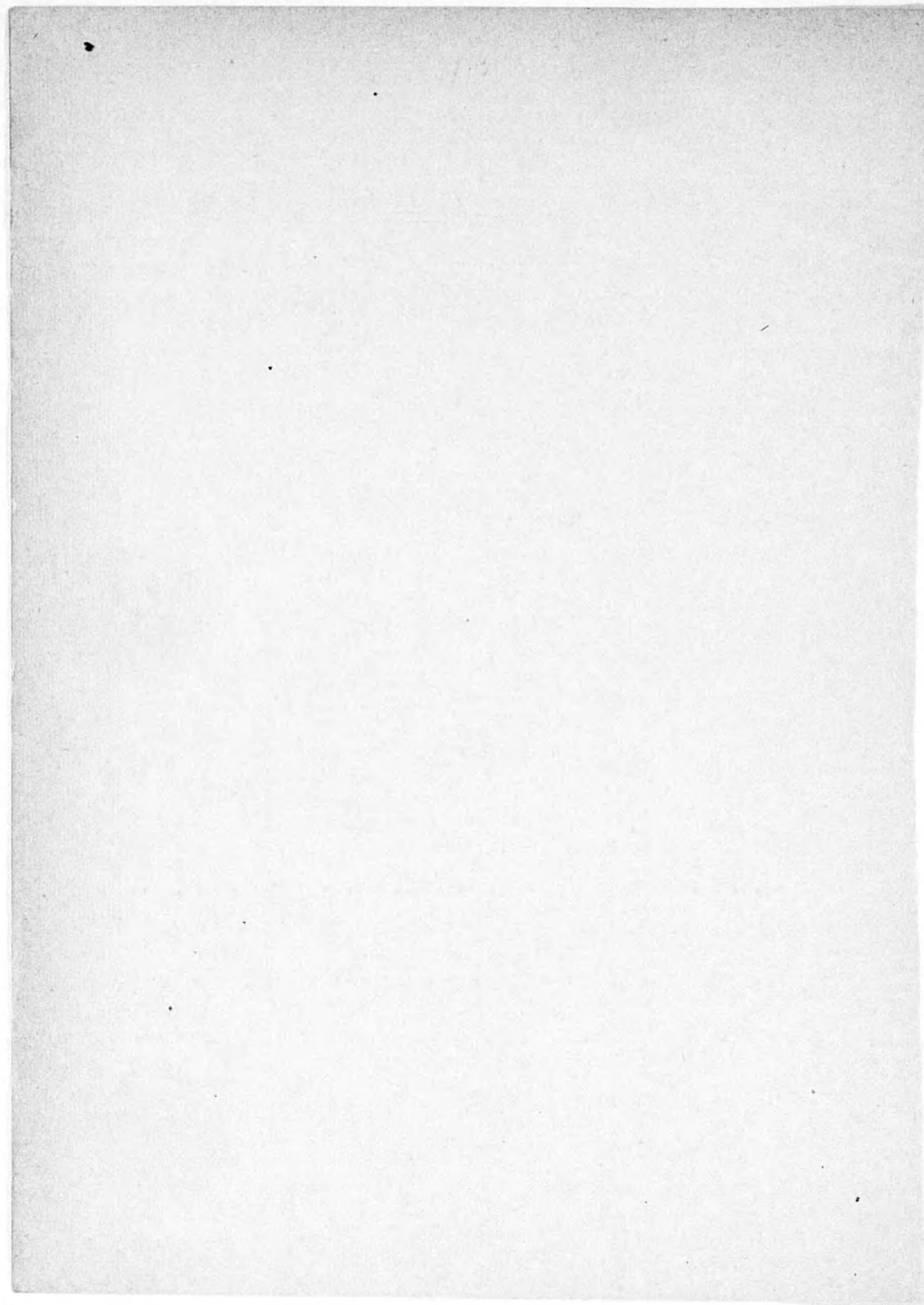
146-
276

雷 雨 報 告

自 昭 和 四 年
至 昭 和 八 年

中 央 氣 象 臺

昭 和 十 年 三 月 刊 行





雷 雨 報 告



自 昭 和 四 年
至 昭 和 八 年

發行所寄贈本

中 央 氣 象 臺

昭和十年三月刊行



14.6-276

自昭和四年
至昭和八年 雷雨報告

目次

總 說 1

第一篇 顯著雷雨解說 2

第二篇 顯著及稍顯著雷雨一覽表 25

第三篇 諸表

 第一表 降雹を伴ひたる雷雨回数 46

 第二表 落雷を伴ひたる雷雨回数 48

 第三表 降雹箇所數 50

 第四表 落雷箇所數 52

 第五表 燒失家屋及震死者數 54

 第六表 全國雷雨日數 55

附 錄 (自大正十五年至昭和五年雷雨統計) 62

 第一表 月別雷雨發現回数 63

 第二表 時刻別雷雨發生回数 (春季) 64

 第三表 時刻別雷雨發生回数 (夏季) 65

 第四表 時刻別雷雨發生回数 (秋季) 66

 第五表 時刻別雷雨發生回数 (冬季) 67

 第六表 時刻別雷雨發生回数 (全年) 68

 第一圖 時刻別雷雨發生回数 69

 第二圖 月別雷雨發現回数 71

自昭和四年
至昭和八年



告

總

1. 本報告は昭和四年より昭和八年に至る5年間に本邦及びその附近に發現せる雷雨を調査せる結果にして各測候所、警察署、市町村役場、中、女、小、師、農、商、蠶業、水産等の各學校、農事、水産、蠶業の各試験場、專賣局、皇室林野管理局、燈臺の各役員、其他篤志觀測者並に東京電燈株式會社に於ける發電所、變電所、變壓所、保線係等の事務員の熱誠なる觀測報告を基とせるものなり。茲に熱心なる觀測者諸氏に深く謝する次第なり。

2. 本報告は分ちて三篇となし、顯著と思はるゝ雷雨及び相當優勢なる雷雨に就きての概要及び二、三の統計結果を掲げたり。

第一篇に於ては顯著雷雨のみに就きてその状況を比較的詳細に月別に記述せり。但し顯著と見做すべき雷雨の發現せざりし月は記載せざりき。

第二篇に於ては稍、顯著なる雷雨をも含めてその状況を表記せり。されど觀測所の稠密ならざる地方、又は觀測所稠密なるもそれ等よりの報告を十分得ざりし地方、即ち支那、樺太、南洋等にありては、顯著なる雷雨あるも之を逸したる場合もあるべし。本表も月別に表記せるものにして顯著又は稍、顯著雷雨の發現せざりし月は記載せざりき。第二篇に於ては各顯著又は稍、顯著雷雨に就きて、その發現時刻、發現場所、進行方向、經過道筋、範圍、消失時刻、消失場所、雷雨の強弱、性質、被害記事等を掲げたり。進行方向中括弧を以て示せるは、進行性雷雨にありては主進行方向、擴大性雷雨にありては主擴大方向（此等を表示する時は括弧を用ひず）に亞ぎて進行又は擴大せる方向を意味するものなり。雷雨の強弱は強、中、弱に分ち各雷雨中の最強のものを採用する事とせり。雷雨の性質は、進、擴、停に分ち、進は進行性雷雨を、擴は

擴大性雷雨を、停は停滯性雷雨を示す事とせり。記事
中▲8とあるはその雷雨に伴ひ降電筒所8筒所あり
たるものを意味し、▲8+Nとあるは8筒所以上あり
たるものを意味す。落雷の場合は▲の代りに多なる
記號を用ひたり。唯Nなる文字を用ひたるは、降電
又は落雷が回数の判然とせざるもの數回ありたる事
を意味せり。雷雨に伴ふ豪雨は普通50mm以上の降雨
ありたる場合を探り、59.8(6.00)の如く記せり。括弧
内の數字は降水時間にして括弧前の數字はその間の
總降水量なり。降水時間の不明のものは括弧内に不
明の文字を入れたり。

第三篇に於ては、降電、落雷を伴ひたる雷雨回数
(第1,2表)降電、落雷筒所數(第3,4表)燒失家屋
數、震死者數(第5表)及び本邦及びその附近の各測
候所、觀測所、出張所、支所並びに中央氣象臺各支臺
の雷雨日數の表(第6表)及び圖(第36圖)を掲げ
たり。以上の諸表に於て使用せる地方別方法は臺灣、
樺太、九州、四國、山陽、山陰、奥羽、北海道は通常謂
ふ所の地域を表はし、朝鮮北部は黃海道、平安南、北
兩道、咸鏡南、北兩道、朝鮮南部は慶尙南、北兩道、全
羅南、北兩道、忠清南、北兩道、京畿道、江原道、州南
諸島は沖繩縣八重山列島以東鹿兒島縣奄美大島諸島
迄、近畿は五畿内及和歌山、滋賀兩縣、關西は三重、愛
知の兩縣と美濃、遠江の二國、本州中部は信、飛、甲、
駿、豆、北陸西部は福井、石川兩縣、同東部は富山、新
潟兩縣、關東は武、相、兩毛、房總及常陸、支那中部は
北緯35°以南、同北部は北緯35°以北及滿洲、南洋
は小笠原諸島及び「マリアナ」、「カロリン」兩群島
を表はす。小笠原諸島を南洋に入るゝは多少當を得
ざる如く見ゆれども、觀測所は小笠原諸島には父島、
「マリアナ」群島には「サイパン」、「カロリン」群島

には「ボナベ」、「パラウ」の僅か4箇所なれば此等の観測によりて調査せる雷雨を南洋に起りたる雷雨とせり。第1, 2表の降雹, 落雷を伴ひたる雷雨回数中例へば5とあるは、それに相當する地方に於て降雹又は落雷を伴ひたる雷雨が5回發現し、その中2回は他地方に發生せる雷雨にして該地方にまで及びたる事を意味するものなり。統計の欄に於ても發

現數と發生數とを區別し、發生數とは各地方に始發したる雷雨に就きてのみ合計せるものにして、發現數とは他地方に發生し該地方に及びたるものも加算して合計したるものなり。第3, 4表の降雹, 落雷箇所數中例へばS+Nとあるは8箇所以上の降雹又は落雷ありたる事を示す。第5表の燒失家屋數及び震死者數に於て後者は括弧内の數字にて示せり。

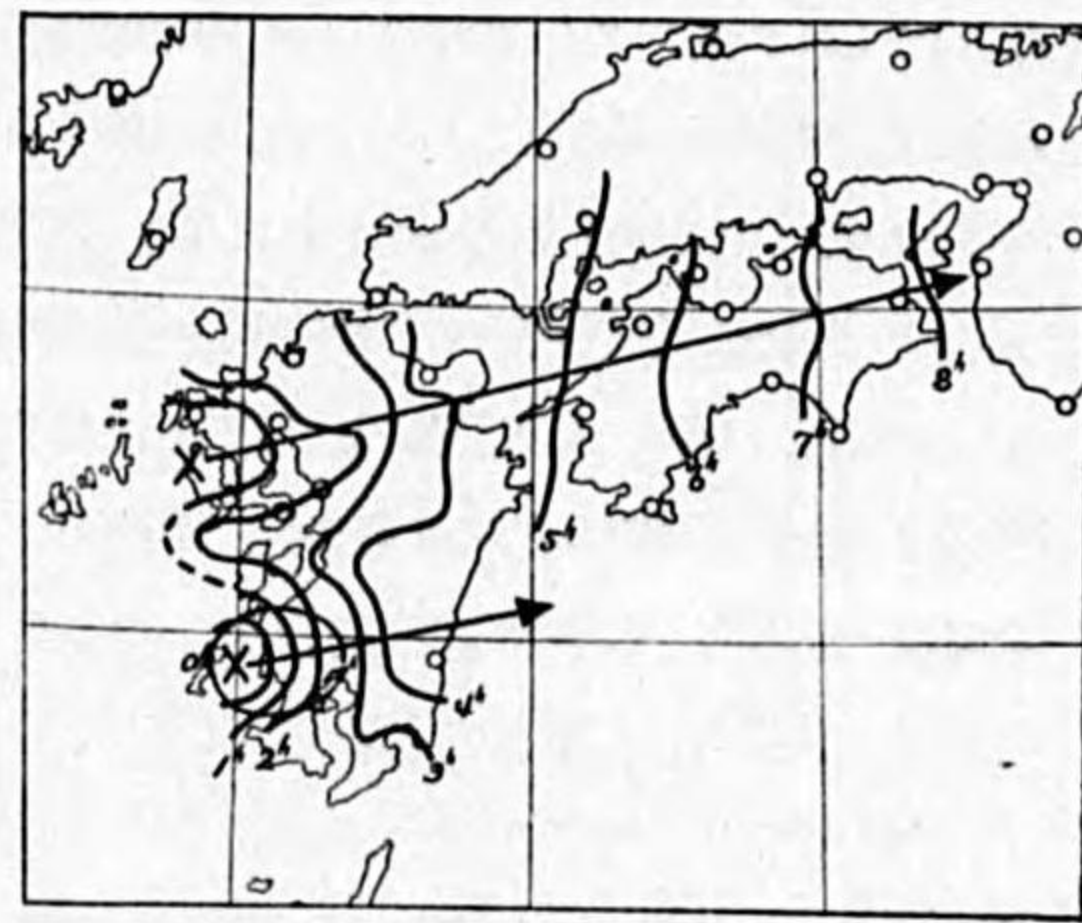
第一篇 顯著雷雨解説

昭和4年度分

3 月

18日より19日に亘る四國・九州の雷雨 18日18時には高氣壓は太平洋上及び西比利亞に、低氣壓は沿海州及日本海上にあり。日本海上の低氣壓の中心より出でたる一不連続線は南西方に走り朝鮮南部地方を横斷して支那東海に至り、臺灣地方に達す。

第1圖 同鳴線及び進路



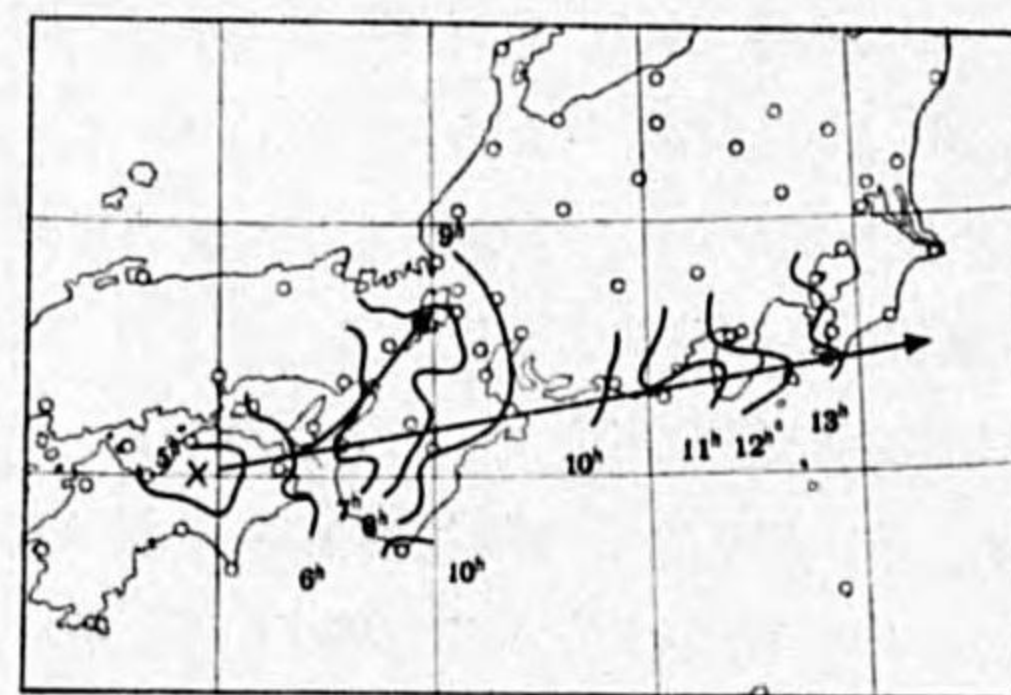
18日—19日に亘る四國・九州の雷雨

此の日19時頃九州五島列島大瀬崎南方海上に始發したる雷雨は擴大しつゝ毎時28軒の速度にて北東に進み、19時頃大瀬崎に、21時頃長崎縣野母崎に、23時半頃鹿児島縣釣掛崎に上陸し、九州西部海岸地域に翌19日に亘りて相當強雷鳴あり、尚北東に進み、福岡・大分縣界の海岸地方にて前雷と同所に後刻發生したる雷雨と合し四國を通過し紀伊水道に達せり。又19時過頃鹿児島縣西北部海上に發現したる雷雨は翌0時過頃迄停滞したるまゝ雷鳴し、

4 月

7日 四國より東海道に亘る雷雨 本日氣壓の配置複雑なれども6時には大體に於て高氣壓は太平洋上と西比利亞にありて内地は低壓部となれり。低氣壓は四國及び中國附近にありて一不連続線は北海道東方上の低氣壓中心より津輕海峡を通り日本海に出で、山陰より岡山、高知市附近を経て土佐灣に出で、沖繩島南西海上に至る。正午には低氣壓はカムチャツカ附近と關西方面に移動せり。天氣は全國曇又は降雨中に一般に風強し。

第2圖 同鳴線及び進路



7日 四國—東海道に於ける雷雨

此の日4時頃四國吉野川上流域地方に始發したる雷雨は進路を東北東に取り毎時60軒の速度にて進み、6時頃迄四國東部地方に雷鳴し、6時過頃より紀伊水道を渡り、7時頃急に幅員を擴げ近畿一帯を襲ひ琵琶湖北部地方にては8時半迄、潮岬附近にては10時半頃迄雷鳴し、9時半頃迄

州洋に出で、11時頃駿河灣に到り、12時過相模灣を渡り房總半島に出で、14時半頃同半島南方近海にて消失せり。此の雷雨の際三重縣上野町に降雹ありたれども被害なかりき。(第2圖)

11日 九州の雷雨 18時頃天草洋に始發したる勢力相當大なる雷雨は毎時35軒の速度にて東に進み、18時過頃長崎縣野母崎に、19時頃鹿児島縣釣掛崎に上陸せり。此の雷雨は幅員を擴げ九州全土を襲ひ20時頃福岡市附近と阿蘇山及び薩摩半島南端を結ぶ線上に至り、福岡縣英彦山附近にては19時半頃、大分縣中部地方にては22時頃、宮崎縣諸塚山附近にては22時頃、鹿児島縣屋久島にては翌1時半頃終聲せり。此の雷雨の際、鹿児島縣枕崎町に小指頭大の降雹ありたるも被害なかりき。

5 月

11日 本州各地の雷雨 本日高氣壓は日本全土を掩ひ、低氣壓は支那大陸と太平洋とにあり、一不連続線あり、12時には北海道渡島より本州に入り、中央部を通り本州中部に到り、18時に至りて之は日本海より因幡國を通り淡路島附近より瀬戸内海に出で、それより紀伊半島を横切り熊野川附近にて太平洋上に出す。此の本州に數回の雷雨ありたり。

(a) 13時過埼玉縣西北部縣境利根川支流合一地點附近に發現したる雷雨は勢力相當強く毎時25軒の速度にて東南東に進み、14時頃筑波山、埼玉縣中央部、甲武信岳の線上に進み、15時頃水戸市西方、埼玉縣東部、東京市中央部、甲府市東方に進み、16時頃水戸市西方、霞ヶ浦西部、東京市南方、富士山東方に進み、17時頃銚子市、横濱市、沼津市に進み、18時頃千葉縣中央部、三浦半島、相模灣、伊豆半島南端部に進み、19時頃安房國南部、相模洋、伊豆半島南東海上に進み、安房の布良にては20時過、大島にては20時半頃まで雷鳴を聞きたるもその後は不明なり。此の雷雨の際埼玉縣南北兩埼玉郡(各一箇所)秩父郡(二箇所)に大豆大の降雹ありたりも被害なかりき。

(b) 長野縣飯田町南東地蔵峠附近に15時過頃發現したる雷雨は毎時30軒の速度にて南に進み、黒法師岳、八高山を経て遠州洋に18時頃出でその後は不明なり。此の雷雨は遠江國の大部分に蠶豆大乃至小豆大の降雹ありたるも被害なかりき。

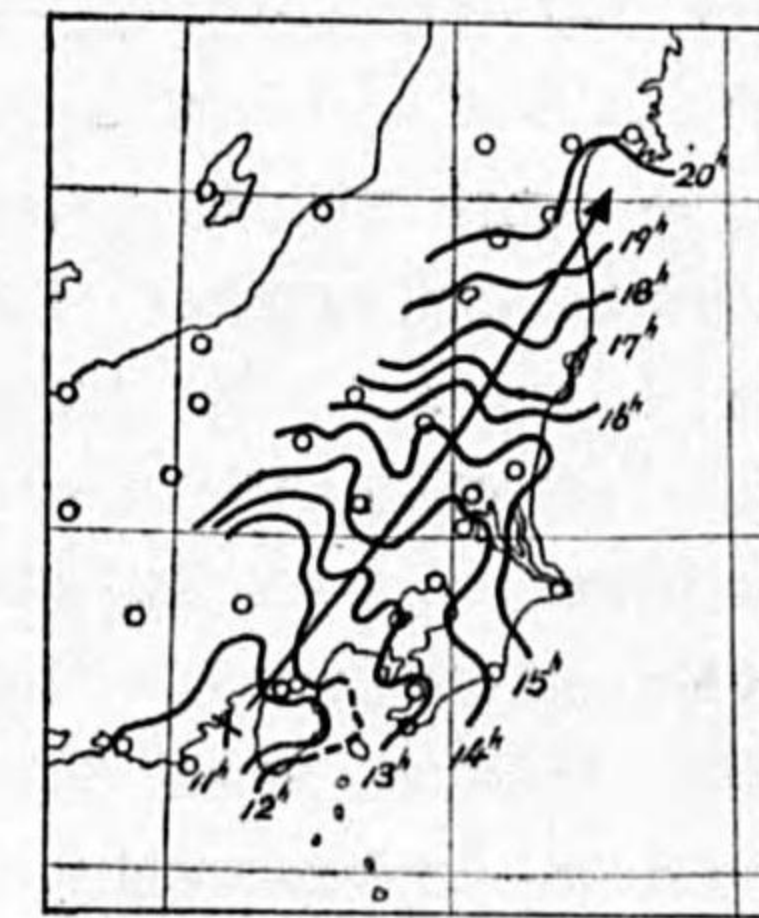
(c) 岐阜縣高山町北東附近に8時半頃發現したる雷雨は四方に擴大し北東方の新潟縣高田市にては16時前頃、北方富山縣伏木町にては14時半頃、南方美濃國北東地方にては16時前頃まで雷鳴を聞き、尚長野縣北東部地方にては12時前頃その地方に發生したる雷雨も合して終聲時は不明なるも16時前後まで雷鳴ありたる模様なり。此の雷雨の際長野縣北東部、富山縣伏木町、岐阜縣高山町南部地方に大豆大の降雹ありたるも被害なかりき。

(d) 琵琶湖北部に12時半過頃發生したる相當優勢なる雷雨は毎時30軒の速度にて東南東に進み、14時、15時頃掛斐川中流域に進み、16時頃愛知縣中央部に進み、17時頃靜岡・愛知縣界地方、渥美灣に進み、その後は(b)雷雨と合したる模様なり。此の雷雨の際滋賀縣滋賀郡北小松、岐阜縣本巢郡根尾村、養老郡養老村、愛知縣海部郡津島町、西加茂郡小原村、碧海郡安城町、名古屋市に降雹ありたるも被害なかりき。

23日 關東地方一帯に亘る雷雨 本日高氣壓は西比利亞カムチャツカ方面にあり、一つの優勢なる低氣壓は本邦南方にありて東北東に進行中にして進行速度毎時50軒程度なり。正午にはその中心の示度742耗位にして伊豆半島の南方に至る。此の低氣壓の爲め關西、本州中部、北陸、關東地方は降雨中にして風強し。

此の日10時前頃靜岡縣安倍川下流域に發現したる雷雨は低氣壓の進行と共に東北東に進み、11時頃伊豆半島を横切り相模洋に出で、進行方向を北東に變じその範圍を擴大して長野縣東部より關東全體に及び、13時頃横濱市附近に進み、14時頃群馬縣

第3圖 同鳴線及び進路



23日 靜岡—宮城縣に於ける雷雨

20時頃石巻灣に進み、其處にて21時前頃消失せり。此の

雷雨は通過地一帯に豪雨を齎し、河川は増水し浸水したる所ありたり。此の進行速度は毎時 45 軒にして範圍は靜岡、山梨、福島、宮城縣及び關東一帯にして豪雨を齎し相當被害ありたり。此の雷の際の被害は 16 時半頃千葉縣東葛飾郡手賀小學校は落雷の爲め全焼し、14 時頃東京市牛込區原町在郷軍人會本部、小石川區林町は瓦十數枚破損し、鐵道省大船鎌倉開閉器二個及び戸塚程ヶ谷間同様焼失し、茅ヶ崎東電變電所六萬ボルトの碍子二個破損、湘南地方は停電せり。(第 3 圖)

24日 近畿地方の雷雨 13 時頃岡山縣南東部吉井川中流域に發現したる雷雨は毎時 50 軒の速度にて東南東に進み、和氣郡、兵庫縣赤穂郡赤穂町附近に母指頭大の降電を齎し農作物に相當甚大なる被害を與へ尙東南東に進み 14 時頃兵庫縣加古川流域に進み、15 時頃滋賀縣南東部山脈地方、奈良縣北部に進み、15 時 40 分頃三重縣中央部にて消滅せり。此の雷の際兵庫縣武庫川上流域、滋賀縣南部に大豆大の降電ありたるも被害なく、又岡山縣上道郡に落雷したるも被害なかりき。

25日 近畿・中國兩地方の雷雨 18 時には高氣壓は西北利亞と太平洋とにありて、北海道は風強く降雨中なり。内地以外の所は曇天の所多く風餘り強からずして不連続線は水戸市附近より沼津、濱松市附近を通過して紀伊半島を横切り四國北部を通過して九州北部に至る。

(a) 琵琶湖淀川流域に 18 時頃始發したる雷雨は近畿、山陽、山陰及び關西西部地方を襲ひ、岐阜市にては 19 時 30 分、名古屋市にては 23 時 25 分、津市にては 22 時 45 分、奈良縣大臺ヶ原山にては 21 時 40 分、和歌山市にては 23 時 10 分、神戸市にては 22 時 8 分、但馬國豐岡町にては 21 時 40 分終聲せり。

(b) 廣島縣太田川上流縣境附近に 16 時頃始發したる雷雨は北東及び南西に擴大しつゝ南東に進み、廣島縣江見川流域地方にては 22 時前、山口縣佐波川上流域地方にては 19 時前、岡山縣大川下流域地方にては 22 時半頃終聲し、20 時より 21 時の間に瀬戸内海を渡り、高知縣白髮山附近にて 22 時頃消滅せり。此の雷の際廣島縣蘆品郡岩谷村に落雷ありて住家一棟全焼、損害見積 1,100 餘圓なり。尙廣島市北、東方附近地方にては大豆大の降電ありたるも被害なかりき。

30日 北海道の雷雨 13 時頃北海道常呂川中流域に發

現したる雷雨は東南東に徐行しつゝ擴大し、根室町にては 17 時頃、釧路町にては 18 時半頃、帯廣町にては 15 時頃、網走町にては 15 時半頃まで雷鳴せり。

大邱測候所降電報告

本道は例年の如く五月頃降電の被害を見るも本年五月の如く激甚を極めたるは全く未曾有のことなり。即ち本年五月中に於ける降電は 10 日、18 日、23 日、24 日、25 日の五日間に於ける降電區域廣汎なり。特に 23 日より 25 日に至る三日間の如きは所に依り鶏卵大の降電あり。農作物の被害激甚を極めたり。下表に各地に於ける降電を記す。

23日の降電		
郡名	降電の繼續時間	電の大小
盈徳	16時08分より約4分	指頭大
榮州	17時頃より7分	直徑1寸
安東	17時20分頃より約8分	〃 3握
青松	18時頃より約20分	〃 8分
英陽	15時30分より2時28分	〃 2.5-5分
尙州	15時30分頃より2分	不明
迎日	18時頃より約2分	〃
24日の降電		
盈徳	17時頃より約10分	指頭大
開慶	18時頃より約7分	直徑5分
永川	22時05分より3分	〃 1.8分
星州	20時37分より1分	大豆大
英陽	16時40分より9分	直徑5分-1寸
	17時21分より4分	〃
	17時40分より10分	〃
	19時17分より5分	〃
慶州	夜 5分間	不明
醴泉	18時頃	〃
迎日	19時頃より約2分	〃
義城	18時20分より8分	直徑1寸(大なるもの)
25日の降電		
榮州	0時10分より13分	直徑7分
安東	13時55分より4分	〃
醴泉	13時25分より15分	〃
星州	15時40分より2分	大豆大
善山	14時45分より8分	不明
漆谷	16時頃より約3分	小指-拇指大
義城	14時35分より13分	直徑1寸

降電被害地は 17 箇郡に及び内 11 箇郡は激甚にして農作物被害面積 12615.7 町、見積金額 455,690 圓なり。以上の面積及び金額は主要農作物の被害にしてその他のものを加算すれば或は倍加するやも圖り難し。

而して今回の降電區域中最大被害地方は多く洛東江の流域なり。此の地方は昨夏最も旱害の脅威を受けたる地方にしてその創傷未だ癒えざるに又今回の降電被害を受け困窮の極に達し、兒童の教育さへもなし得ず退學するもの多數に上れり。(寫眞参照)

5月23日安東に於ける降電



麻被害状況 (大なるは鶏卵大)

同日安東面市街に於ける降電



6 月

16日 四國より近畿地方に至る雷雨 1 時半頃山口縣西部地方に發現したる雷雨は毎時 80 軒の速度にて東に進み、3 時頃瀬戸内海を縦斷し、4 時頃香川縣西部地方に、5 時頃淡路島に進み、6 時頃和歌山市附近を通過し、7 時頃奈良縣南部地方を通過し熊野灘に出てたるもその後の模様は不明なり。此の雷雨の際岡山縣御津郡宇垣村、小田郡吉田村、英田郡檜原村、神戸市等に落雷せり。

19日 奥羽北部の雷雨 2 時頃秋田縣西方日本海上より押し寄せたる雷雨は男鹿半島より上陸して東北東に進み、4 時頃岩木川流域、秋田・岩手縣境に、6 時頃青森縣東部

地方、岩手縣北部地方に進み、其處にて 7 時前後に消滅せり。此の雷雨の際青森市北西方、秋田縣鹿角郡毛馬内町に數箇所落雷し電燈、電話の故障續出せり。

24日 奥羽地方の雷雨 正午には高氣壓は太平洋上、支那内陸にあり、低氣壓は奥羽東方海上、支那南部沿岸地方にあり。天氣は日本海沿岸、奥羽及北海道は降雨中にして他は曇天又は晴天なり。

此の日 11 時頃新潟縣不動山附近に始發したる雷雨は毎時 35 軒の速度にて北東に進み、12 時頃信濃川中流域に進み、14、15 時頃阿賀野川流域を通過して、17 時頃阿武隈川上流域地方に、18 時頃宮城縣南部地方に進み、同縣を縦斷し、21 時頃北上川下流域に於いて終聲せり。

27日 中部地方の雷雨 6 時には高氣壓は本邦東方洋上にあり、低氣壓は南滿洲にありて、東高西低の氣壓配置にして關東及本州中部地方に稍、低き所あり。

此の日 12 時頃長野縣松本市南方地方に發現したる雷雨は毎時 25 軒の速度にて東北東に進み、關東を西より東に横斷し、18 時頃茨城縣西部地方にて消滅したり。尙 17 時頃前の雷雨と同じ所に發現したる雷雨は毎時 80 軒の速度にて北西に進み、19 時頃能登半島中央部にて消滅せり。

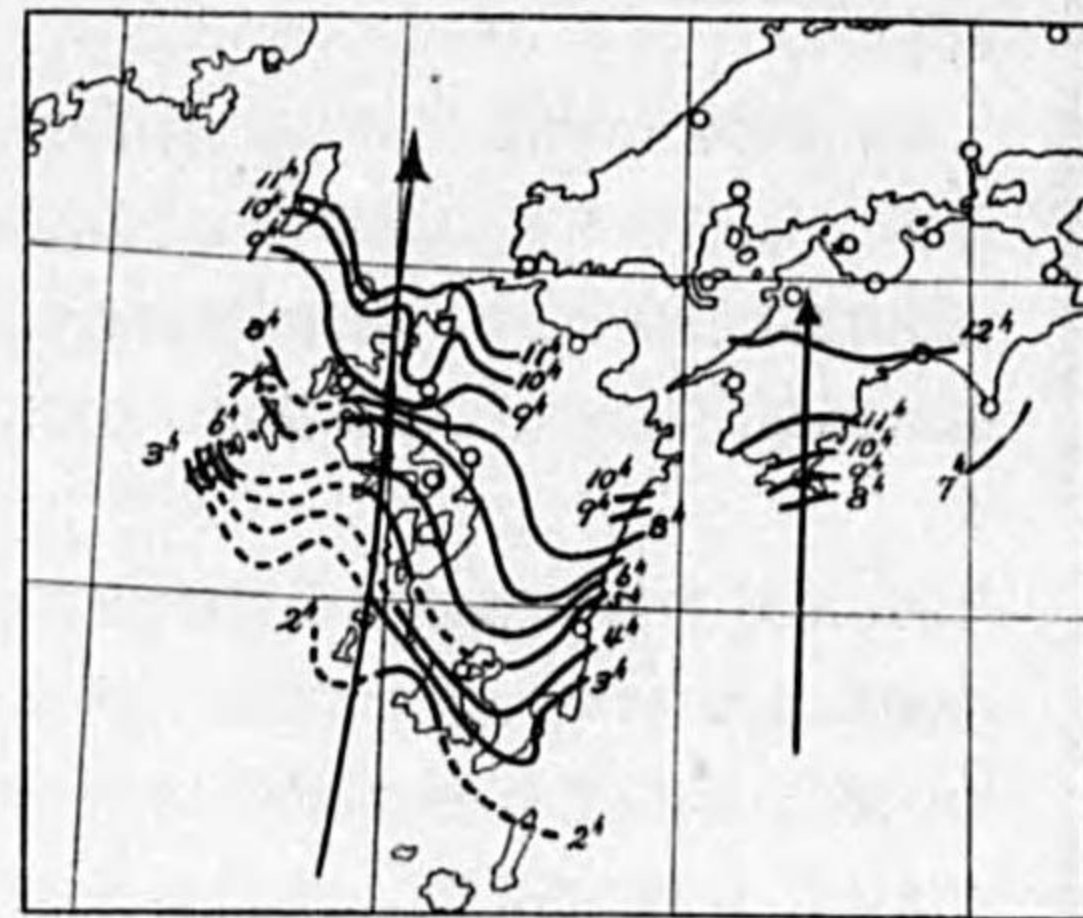
7 月

8日 九州一帯の雷雨 7 日 18 時には高氣壓帯は父島東方より日本海に連り、颱風は臺灣南東方にありて、不連続線は四國より九州北部を貫きて西に走る。8 日 6 時には颱風は北西方に進みたり。此の日鹿兒島縣南方海上より押し寄せたる雷雨は毎時 25 軒の速度にて北方に進み、1 時半頃薩摩半島に上陸し、漸時北方に進み、大分縣を除く外九州全部を襲ひ、最も遅くまで雷鳴のありたるは玄海灘の鳥帽子島にして終雷時刻は 13 時なり。又一方四國にては足摺岬に 8 時 30 分過到若しそれより四國の南半を襲ひ、松山市にては 13 時 43 分まで雷鳴ありたり。

此の雷雨を鹿兒島市にては 6 時 54 分、宮崎市にては 4 時 15 分、長崎市にては 5 時 25 分、福岡市にては 9 時

57分、佐賀市にては10時7分、高知、松山市にては12時55分始めて観測せり。此の雷雨に際して鹿児島縣下に一箇

第4圖 同鳴線及び進路



8日 九州・四國に於ける雷雨

所、長崎縣下に三箇所の落雷ありて長崎縣にて震死者一名、焼失家屋一棟を出したり。(第4圖)

26日 本州西部の雷雨 6時には低気圧は西比利亞にあり、颱風は南洋方面にあり、高気圧は本邦東方遙か洋上にありて本邦はその勢力範囲内にあり。

此の日本州中部地方以西全部に相当多数の雷雨あり。その中割合大なるものを記す。

(a) 16時頃遠賀川中流域に發現し、12時頃よりその附近にありたる雷雨と合し、19時頃まで九州北半を襲ひたり。此の雷雨は福岡縣の八女郡に1箇所、三浦郡に1箇所(即死1名、人事不省1名)、田川郡に13箇所以上(牛1頭即死)、浮羽郡に1箇所(即死1名)、大分縣日田郡に3箇所以上(即死1名)、速見郡に2箇所(家屋半焼)、大野郡に1箇所、佐賀縣小城郡に1箇所(家屋2棟全焼)、杵島郡に3箇所以上(即死1名)、西松浦郡1箇所(家屋半焼)に落雷し被害を與へたり。

(b) 13時頃大分縣大野川上流域に發現したる雷雨は17時頃まで繼續し、大分縣速見郡に1箇所、玖珠郡に數箇所、熊本縣阿蘇郡に2箇所(即死1名、變壓器1箇所)に落雷したり。

(c) 11時頃廣島縣北東部無毛山附近に發生したる雷雨は中國西部全體に擴大し、14時過まで強襲し、廣島縣佐伯郡に10箇所(家屋3棟全焼)、沼隈郡に7箇所(即死1名、家屋6棟全焼)、雙三郡に1箇所(家屋1棟全焼)、世羅郡に2箇所(負傷1名、家屋1棟全焼)、廣品郡に2箇

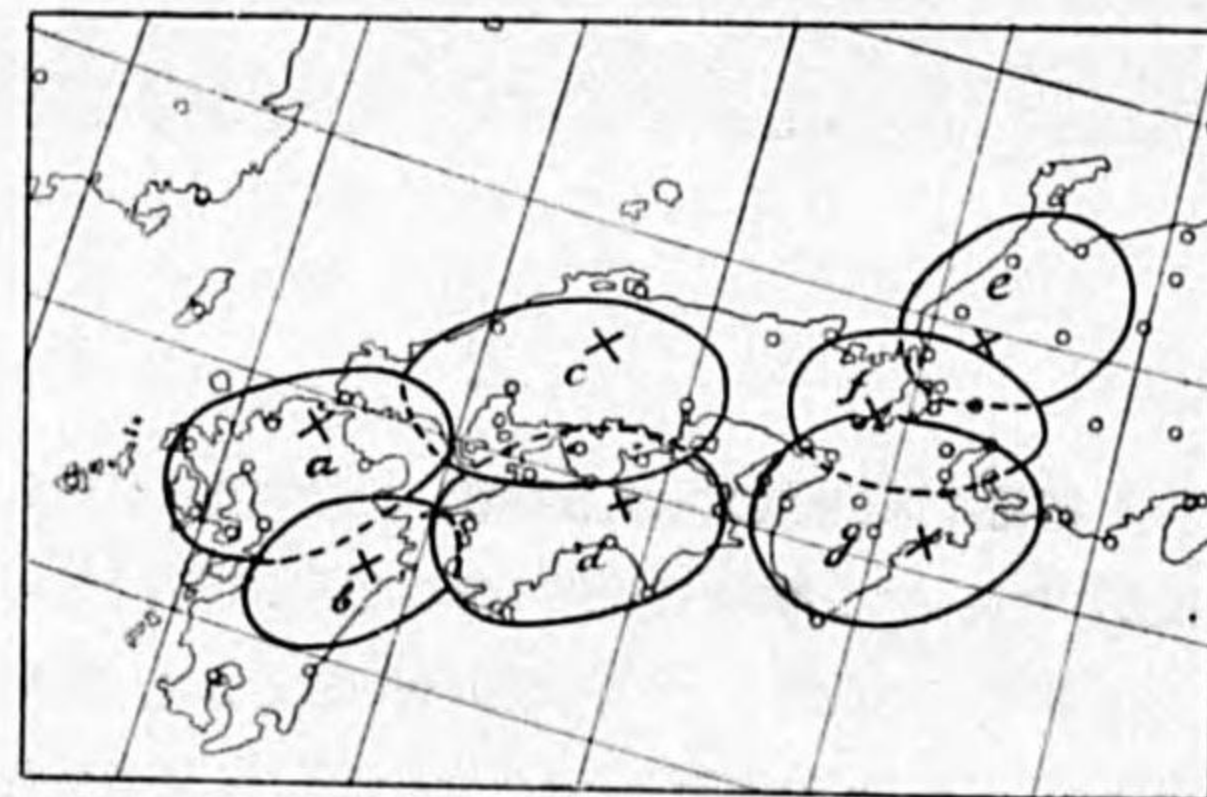
所(負傷1名、家屋1棟全焼)、御調郡に1箇所(即死1名)、豊田郡に3箇所(即死2名、家屋1棟全焼)、比婆郡に2箇所(家屋2棟全焼)、高田郡に4箇所(負傷1名)、廣島市内に3箇所、岡山縣真庭郡に1箇所落雷し被害を與へたり。

(d) 9時半頃徳島縣吉野川上流域に發現したる雷雨は主に西方に擴大し四國全體に及び、室戸岬にては13時40分、足摺岬にては15時25分、宇和島町にては15時4分、松山市にては16時32分、多度津町にては14時半まで雷鳴あり、香川縣綾歌郡、三豊郡に數箇所、高知縣香美郡に數箇所、高知市外に數箇所(即死2名)、松山市内に數箇所落雷したり。

(e) 12時頃福井、岐阜縣境權現山に發現したる雷雨は擴大し、美濃、越前、近江北部、加賀、越中、飛騨國に及び、岐阜市にては18時14分、敦賀町にては16時5分、福井市にては16時、金澤市にては16時38分、富山市附近にては15時頃、高山町にては17時まで雷鳴し、富山縣射水川上流域に5箇所落雷したるも被害僅小なりき。

(f) 16時頃琵琶湖南部地方に發現したる雷雨は擴大性のものにて京都府、滋賀縣、兵庫縣東部、奈良縣北部、三重縣北部、名古屋市附近、揖斐川中流域に及び、大垣市にては19時前後に終聲したる模様なり。此の雷雨の際名古屋市附近にては9箇所、滋賀縣栗太郡に1箇所、犬上郡に1箇所(即死1名)、蒲生郡に1箇所(人事不省1名)、三

第5圖 雷雨の範圍



26日 本州西部に於ける雷雨

重縣一志郡に2箇所、神戸市に2箇所、明石郡に2箇所、奈良縣高市郡に2箇所、南葛城郡に3箇所、宇陀郡に1箇所落雷せり。

(g) 5時20分頃鳥羽半島に發現したる雷雨は擴大性にして、名古屋市にては6時27分、津市にては8時19

分、潮岬にては9時5分、和歌山市にては12時10分、京都市にては11時15分まで雷鳴せり。(第5圖)

28日 本州中央部の雷雨 6時には高気圧は本邦東方洋上にあり、その足は本邦より黄海にまで及び、低気圧は西比利亞東部にあり、颱風はフィリッピン群島の東方洋上にありて全國晴天なり。

此の日9時頃赤城山に發現したる雷雨は急激に擴大しつゝ東南東に毎時15軒の速度にて進み、關東全體及福島縣南部に及び、大體利根川沿ひ銚子沖に17時頃出たり。此の雷雨の際茨城縣新治郡に3箇所(變電器2萬圓、鶏舎焼失、15羽焼死)、久慈郡に1箇所(家屋2棟焼失、馬1頭焼死)落雷せり。尙此の日には次の如き雷雨ありたり。

(a) 8時半頃秋田縣能代川西方日本海上に發生したる雷雨は停滯し、北海道渡島國爾志郡熊石町にては9時10分、青森縣西南部海岸地方にては10時25分、秋田市にては11時43分まで雷鳴したり。

(b) 10時40分頃福島、山形縣境吾妻山に發現したる雷雨は東西に擴大し新潟市東部地方にては16時頃、阿武隈川下流域にては16時前、福島縣石城郡小名濱町にては16時20分まで雷鳴し、新潟縣中條地方に數箇所、福島縣伊達郡に1箇所(寺焼失)、双葉郡に6箇所落雷したり。

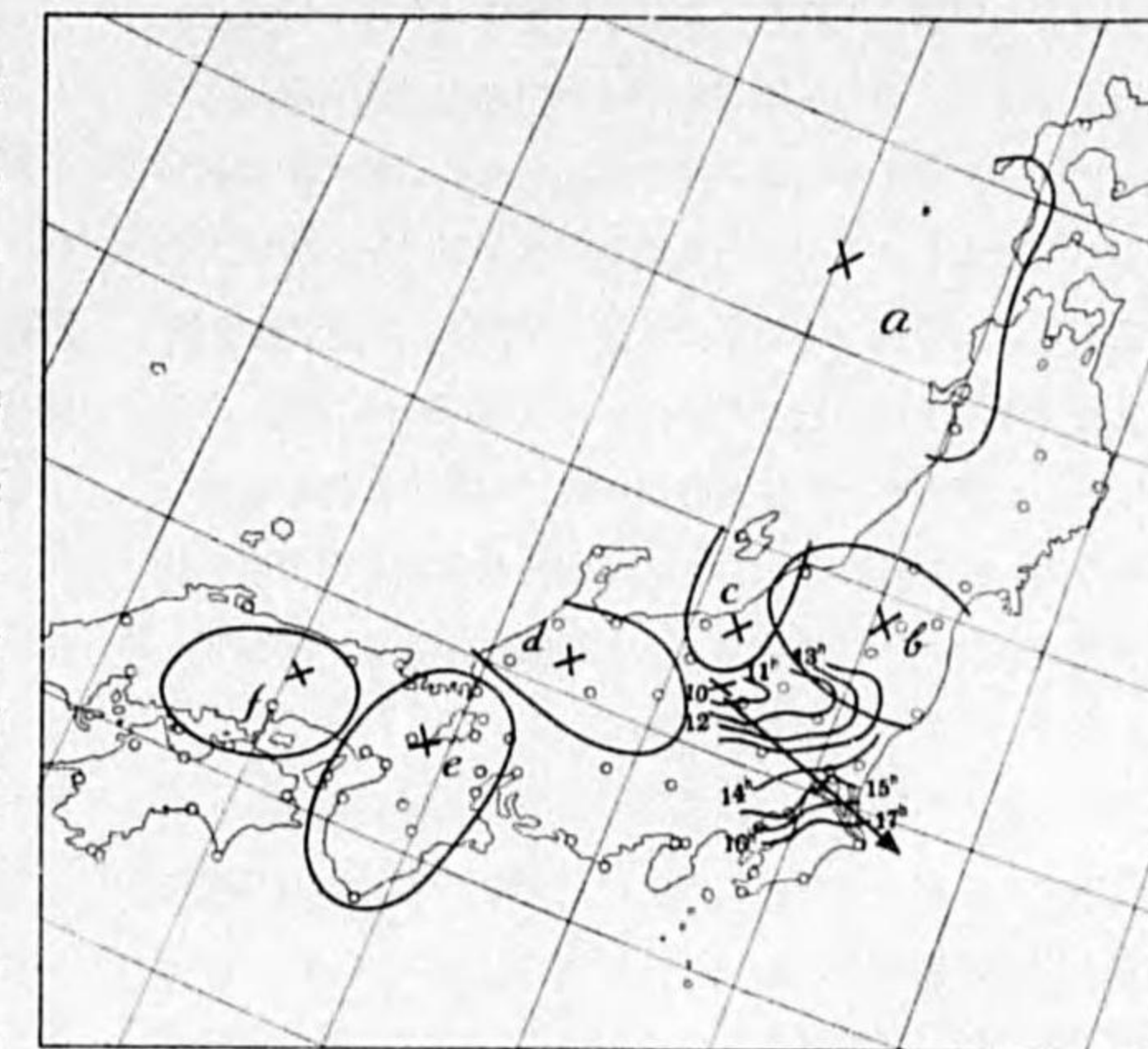
(c) 8時半頃新潟縣中央部信濃川下流域に發現したる雷雨は12時頃その地方にて終聲せり。此の雷雨の際三島郡に4箇所(牛3頭焼死)、北魚沼郡に1箇所落雷せり。

(d) 16時頃富山縣西部射水川上流域に發現したる雷雨は東西に擴大し、長野市にては20時44分、駒ヶ岳北方地方にては20時43分、石川縣南部地方にては19時頃まで雷鳴せり。此の雷雨の際富山市に1箇所、同縣婦負郡に1箇所、下新川郡に1箇所、上新川郡に1箇所(即死1名、人事不省4名)落雷したり。

(e) 12時半頃京都市東方山地に發現したる雷雨は擴大して近畿全體に及び、京都府宮津町にては16時14分、琵琶湖北部にては18時半過、三重縣南部にては18時頃、和歌山縣潮岬にては17時10分、淡路島洲本町にては19時20分、神戸市にては16時45分まで雷鳴し、京都市に1箇所、同府葛野郡に5箇所、船井郡に2箇所(全焼2棟、半焼2棟)、兵庫縣寶塚町に2箇所落雷したり。

(f) 13時過頃、岡山縣津山市北方地方に發現したる雷

第6圖 同鳴線及び範圍

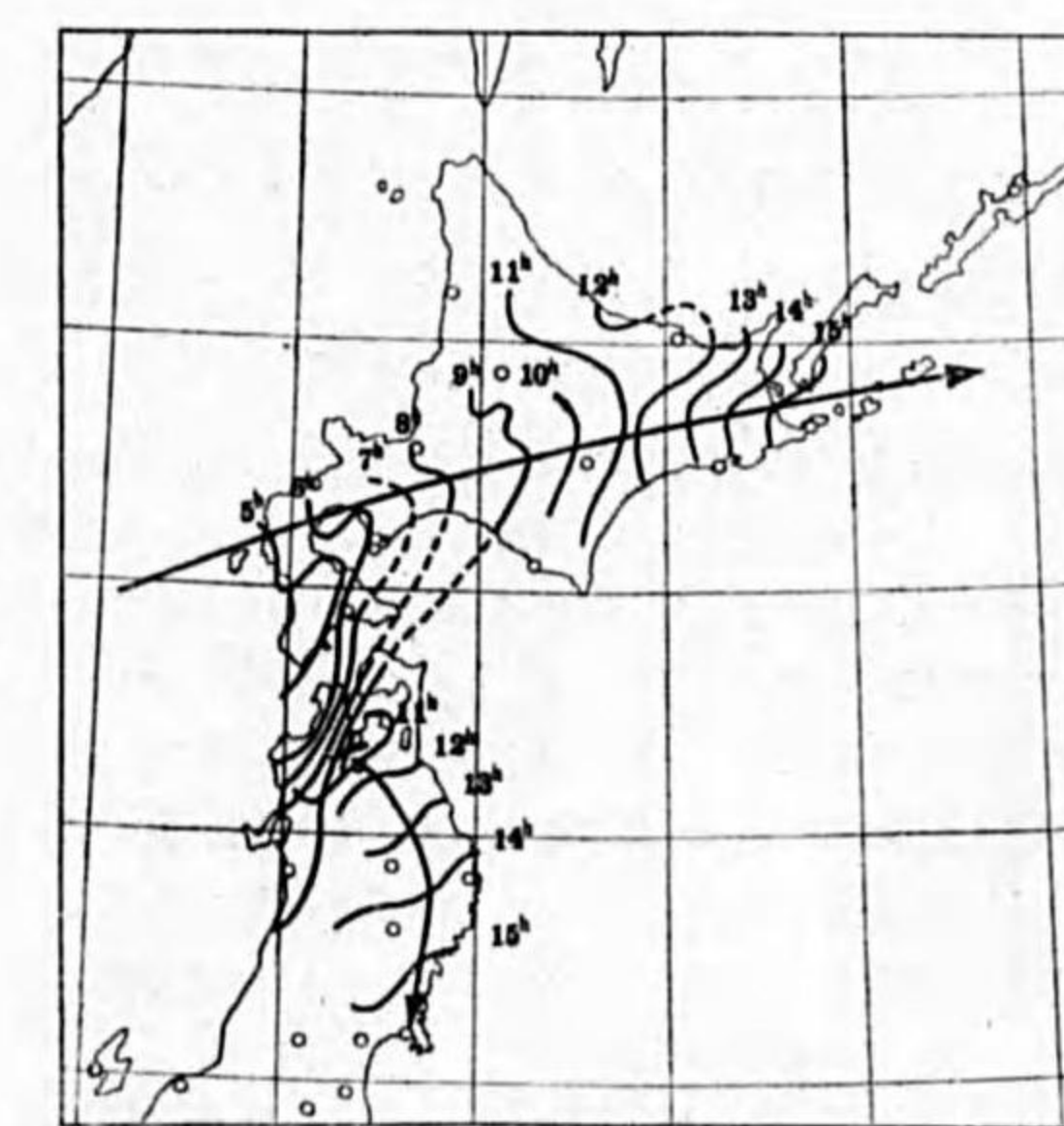


28日 本州中央部に於ける雷雨

雨は南西に擴大し、廣島縣北東部にては21時30分、南東部にては16時半過、香川縣多度津町にては16時50分、岡山市にては16時50分まで雷鳴せり、此の雷雨にて岡山縣阿哲郡に3箇所(工場1棟全焼、人事不省1名、家屋1棟全焼)、勝田郡に1箇所(家屋1棟半焼)落雷せり。(第6圖)

29日 北海道一帯其他各地の雷雨 6時には高気圧は本邦東方洋上、本邦全體にあり、低気圧は西比利亞の東部にありて颱風は臺灣南部にあり、北西に進行中なり。

第7圖 同鳴線及び進路



29日 北海道一帯に於ける雷雨

此の日5時頃北海道南西日本海上より押し寄せたる雷雨は5時前奥尻島に上陸し、東北東に毎時43軒の速度にて北海道南部海岸地方を通過し、15時半過千島列島南部より洋上に出でたるもその後の模様は不明なり。此の雷は北海道としては大なるものにて北見國斜里郡斜里村に大豆大の降雹あり、向十勝川中流域に4箇所落雷し、家屋2棟全焼、電話機、變壓器を破損せしめたり、又10時30分頃青森縣八甲田山に發現したる雷雨は南々東に毎時45軒の速度にて進み、北上川下流域にて17時頃消滅せり。此の雷雨の際宮城縣栗原郡に1箇所落雷せしも被害なかりき。(第7圖)

此の日には尙次の如き雷雨ありたり。

(a) 零時半能登半島西方日本海上より押し寄せたる雷雨は毎時65軒の速度にて東北東に進み、零時半過能登半島中央部を横切り、北陸の海岸沿ひに走り、6時50分頃信濃川下流域にて消滅せり。此の雷雨の際富山縣東礪波郡に1箇所(家屋半焼)、下新川郡に1箇所、富山市に1箇所(家屋1棟全焼)、新潟縣西蒲原郡に4箇所(即死1名)、長岡市に1箇所落雷せり。

(b) 12時過頃榛名山北西に發現したる雷雨は毎時17軒の速度にて、南東利根川沿ひに進み、埼玉縣大里郡に1箇所落雷し、同縣東部地方にて19時頃消滅せり。

(c) 12時半頃千葉縣安房郡中央部に發現したる雷雨は毎時20軒の速度にて北々西に進み、14時より15時の間に東京灣を渡り、16時半頃埼玉縣東部地方にて(b)雷雨に合したる模様なり。

8 月

22日 北海道の雷雨 10時30分頃石狩半島北東方に發現せる弱雷は時速30—50軒にて南東に進み15時過ぎまで繼續せり。その際網走地方は稀に見る雹害を蒙りたり。

網走測候所報告 22日11時10分頃沛然たる豪雨至り約20分後俄然礫の如き降雹に變じ30分間にして小雨となり積量實に4.5寸に達せり、雹塊を調査するに小は鉛玉大より大は拳大に及ぶ、落下せる區域一帶の農作物は僅々30分間内外にして全く一物をも收穫し得ざる状態に一變し山野の草木亦悉く葉柄を失ひ樹皮を傷き苹果の如きは樹間に片影を止めず。柵屋根は礫の如き雹塊に所々打ち抜かれたるもの如く、又頭部を負傷せる者、鶏の即死せるもの等ありて天地晦冥に等しく、人々は失神の状態なり。置戸村、美観町の被害を下記す。

村名	置戸村	美観町
被害區域	340町歩	280町歩

被害戸數人員	81戸520餘人	—
農作物被害	收穫皆無—7割減以上	〃
損害見積額	69,051圓	37,000圓

27日 本州全部の雷雨 6時には高氣壓は小笠原の南東洋上、支那中部、支那東海、日本海西部、北海道西方海上、津輕海峽にありて、一不連続線は支那東海の低氣壓より九州北部を通り裏日本海岸沿ひに津輕海峽及北海道西方海上の低氣壓に達す。九州北部、北陸、北海道渡島國は已に雷雨にして山陰、北海道、樺太は降雨中なり。

此の日は相當顯著なるもの多數ありたれば順次に記す。

(a) 2時頃頃對馬西方海上に發現したる雷雨は毎時33軒の速度にて南東に進み、4時頃より幅員を縮小し大分縣、宮崎縣北部を通り、11時より再び擴大し、宮崎縣南部、鹿児島縣を襲ひ日向洋に去りたり。此の雷雨の際福岡縣糸島郡に二箇所、山門郡に二箇所以上、佐賀縣佐賀郡に一箇所、佐賀市に一箇所、杵島郡に一箇所(即死2名)、東松浦郡に三箇所(馬1頭震死)、熊本市に二箇所に落雷せり。

(b) 12時過頃兵庫縣北部須留ヶ峯附近に發現したる雷雨は毎時45軒の速度にて東進し、京都府の北部地方を通過し琵琶湖中央部を横断し揖斐川下流域に達しその附近にて16時40分消滅せり。此の雷雨の際愛知縣東春日井郡に二箇所、岐阜縣武儀郡に一箇所、滋賀縣愛知郡に一箇所落雷せり。

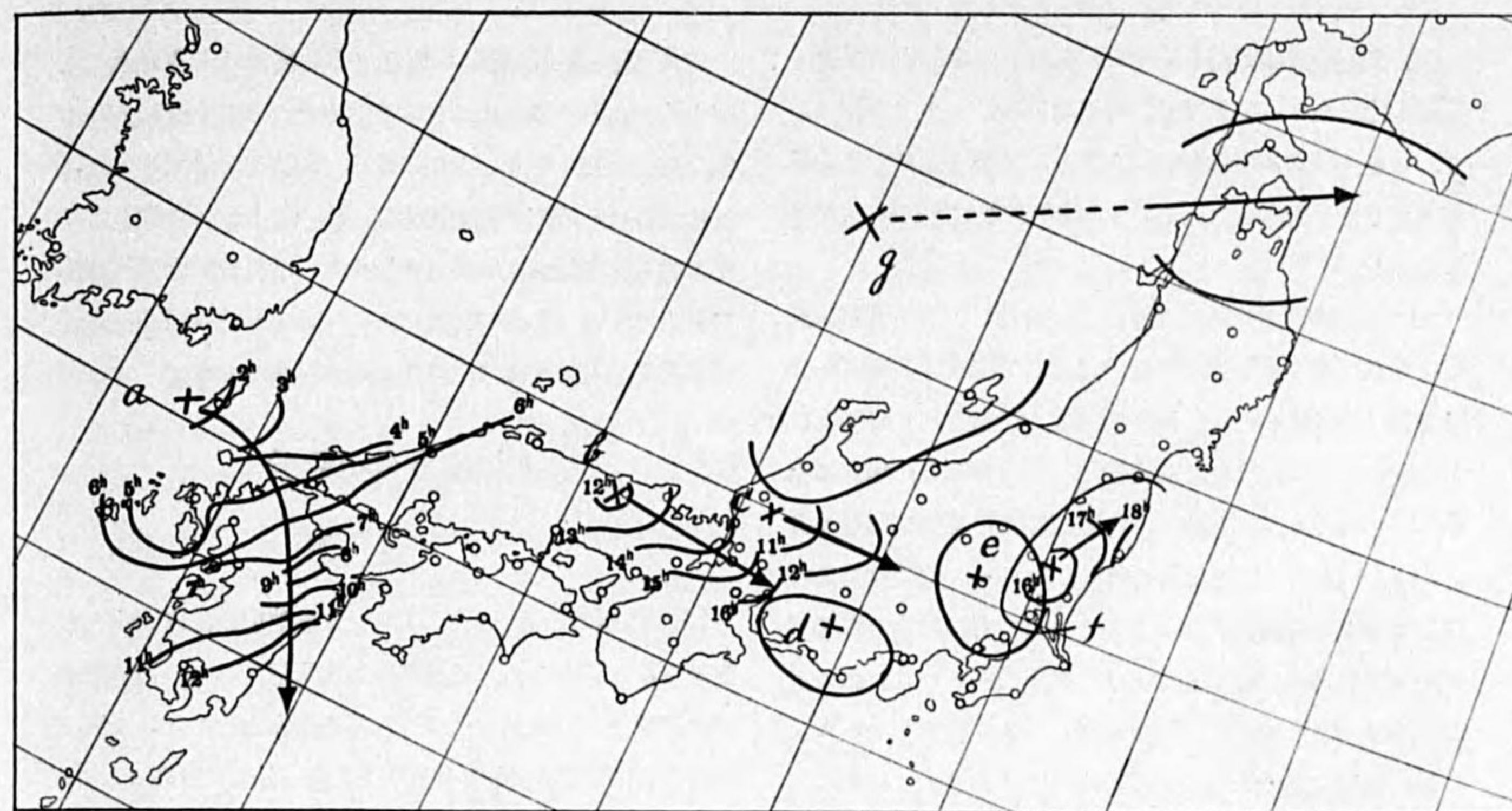
(c) 10時半頃福井縣九頭龍川上流域に發現したる雷雨は毎時50軒の速度にて東進し、飛騨の南部を通り長野縣中央部杖突峠附近に進み、15時半頃その附近にて消滅せり。

(d) 14時頃長野、愛知縣境附近に發現したる雷雨は南方に擴大し、静岡縣引佐郡鎮玉村に降雹したるも被害なく、静岡市附近にては18時頃、御前崎にては19時頃、濱松市にては18時頃、愛知縣渥美半島にては18時頃まで雷鳴せり。

(e) 14時頃埼玉縣秩父地方に發現したる雷雨は四方に擴大し、宇都宮市にては15時頃、榛名山附近にては16時頃、荒川上流域地方にては16時半頃、東京市にては15時過、神奈川縣相模川中流域地方にては15時まで雷鳴せり。

(f) 16時頃那珂川中流域に發現したる雷雨は毎時40軒の速度にて北東に進み、17時頃阿武隈川上流域に達し其

第8圖 同鳴線及び範圍



27日 本州・九州に於ける雷雨

所にて19時20分頃消滅せり。

(g) 5時頃能登半島北方海上に發現したる雷雨は漸次擴大し、石川縣南部地方にては9時頃、富山縣射水川中流域にては11時頃、佐渡島にては8時半頃まで雷鳴を聞きたり。尙東北東方に進行したるものは、5時より6時半頃までに津輕海峽を通過し、太平洋に出で消滅したる模様なり。(第8圖)

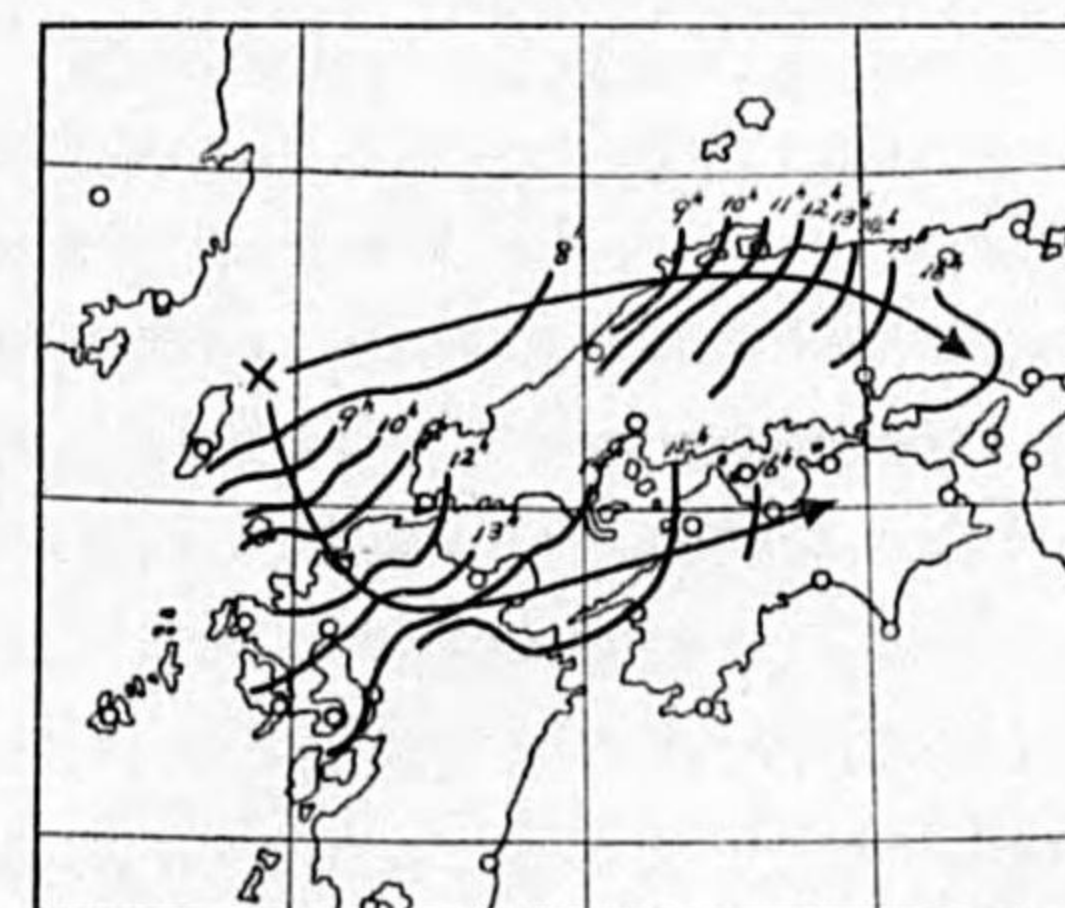
28日 北海道南半の雷雨 此の日10時過頃北海道西方日本海上より押し寄せたる雷雨は10時半頃後志國南部より上陸し毎時60軒の速度にて東南東に進み、内浦、膽振灣を通過し太平洋に去りたり。此の雷雨の範圍は割合に廣大にして北海道南半及青森縣北半に及びたり。

31日 中國・四國・九州地方の雷雨 6時には低氣壓は日本海、西比利亞にあり、高氣壓は小笠原の東方洋上、千島にあり。不連続線は日本海低氣壓中心より朝鮮海峽を通り上海沖に達す。全國風弱く曇天なり。

此の日7時過頃對馬北東海上に發現したる雷雨は優勢なるものにして東及南東に別れ進み、南東に進みたるものは毎時45軒の速度にて進み、11時過九州北部海岸地方に上陸し、13時過頃福岡縣中央部に進路を東北東に變じ、大分縣の北部地方を通過し、14時半頃豊後水道を渡り、15時

頃愛媛縣中央部に上陸し、16時頃四國の中央部に達し、18時頃頃吉野川上流域にて消滅せり。尙東進したるものは9時頃頃島根縣神戶川口附近より上陸し、毎時30軒の速度にて東南東に進み、鳥取縣西部地方、岡山縣北部地方を通過し、兵庫縣南西海岸地方にて20時頃消滅せり。此の雷雨

第9圖 同鳴線及び進路



8月31日 中國・四國・九州に於ける雷雨

の際岡山縣川上郡に1箇所、福岡縣大牟田市に1箇所、佐賀縣佐賀郡に2箇所(即死2名)、長崎縣東彼杵郡に2箇所、南高來郡に2箇所(人事不省1名)落雷し、福岡縣遠賀川口に降雹(小豆大)ありたり。(第9圖)

2日 九州一帯の雷雨 6時には高気圧は本邦南方洋上、支那大陸にあり。低気圧は黒龍江中流域、オホツク海にあり、一不連続線は朝鮮東部海上より福岡縣を通りて長崎縣南部地方より支那海に至る。12時の気壓配置には大なる變化なし。

此の日3時頃壹岐島南方近海上に始發したる強雷雨は進路を南東に取り、毎時30軒の速度にて進み、3時15分頃鳥帽子島及長崎縣北松浦郡北部地方に進み、4時頃山口縣北部海岸地方、九州北部海岸地方、五島列島中通島に上陸し、6時頃有明海を渡り、7時頃熊本市及同縣海岸地方に進み、9時頃宮崎縣及鹿兒島縣に入り、10時頃鹿兒島縣西部地方より宮崎縣北部地方まで幅員を擴げ、12時過頃宮崎・鹿兒島縣度海岸地方より日向洋に去りたり。此の雷雨の際長崎南松浦郡に2箇所落雷したるも被害なかりき。

3日 朝鮮北部の降雹 3日鴨綠江下流域地方に局部的に雷雨あり、その際同地方には甚だ大なる雹降り、次の如き被害を起せり。

龍巖浦測候所降雹報告 3日14時頃より16時頃迄の間に本道龍川、鐵山、宣川、定州の四郡に亘りて直徑四寸程度の雹降り被害額60餘萬圓に上る稀有の現象を齎せり。

降雹の中心となりたる地方の農作物は實に慘狀を極め減收七、八割より收穫皆無に達したる箇所あり。就中水稻は各作物を通じて最も被害多き模様にて、その他粟、大豆、果樹之れに次ぐ。人畜の方としては收穫に従事する鮮人農婦1名、通學中の兒童2名が負傷し、又畜牛數頭も負傷せり。家鶏の如きは圍場に於いてその儘斃死せるもの多數ありたり。尙雹は平地にては4、5寸、軒下吹き溜り易き場所にては1尺より1尺4、5寸も堆積したり。

20日 四國・近畿兩地方の雷雨 7時半頃四國南方遙か洋上に發生したる雷雨は擴大し、宮崎縣海岸地方は9時頃より10時半頃まで、高知縣にては7時半頃より13時半頃まで、徳島縣南方海岸地方、和歌山縣海岸地方にては12時半頃まで雷鳴せり。又11時前頃和歌山市附近に發現したる雷雨は毎時55軒の速度にて東北東に進み、12時頃大阪府中央部、和歌山縣北部地方を通り、13時頃大阪府北部、奈良縣北部に進み、14時頃京都府南東部、滋賀縣南部、三重縣北部、知多半島に及び、伊勢灣にて14時過頃消滅せり。

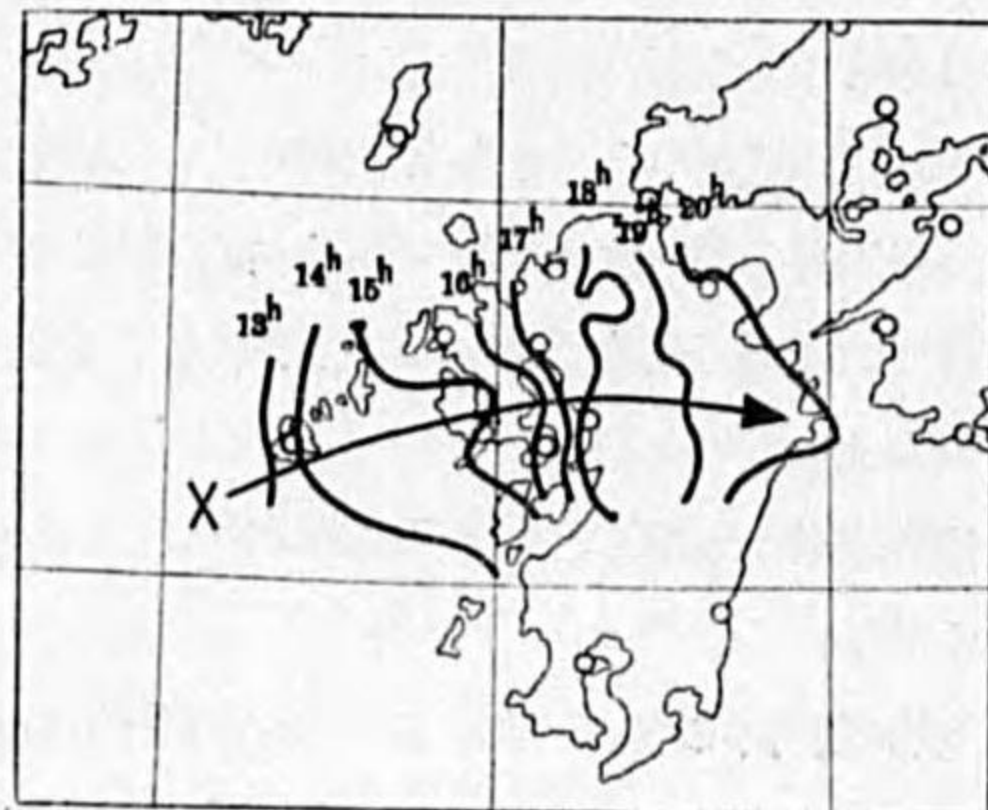
17日 北海道の雷雨 6時には高気圧は本邦東洋上、支那大陸にあり、低気圧は日本海の中央部及び北部にありて東北東に進行中なり。本州の北半、北海道は降雨中なり。

此の日12時頃北海道西方日本海上より徐々に押し寄せたる雷雨は北海道西半一圓に擴大し、北見國紋別郡北部海岸地方にては16時頃、旭川市にては16時前頃、後志國壽都郡壽都町にては16時半前頃まで雷鳴せり。

昭和5年度分

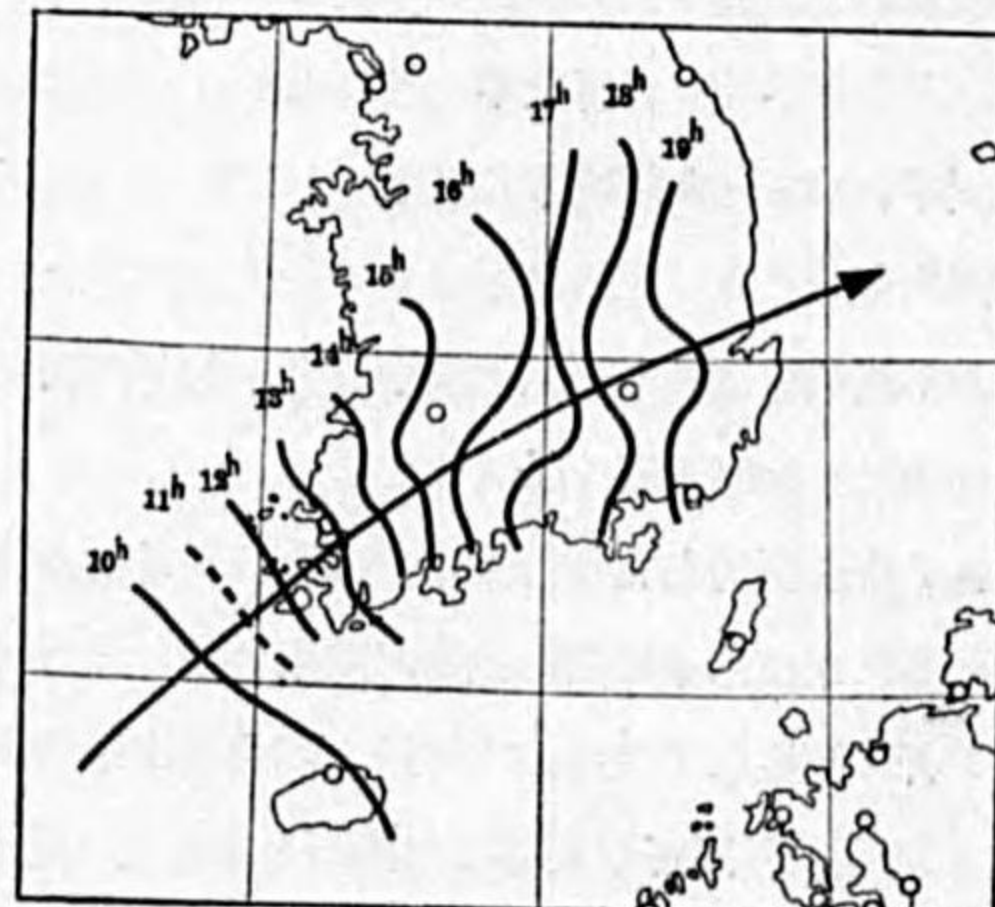
23日 九州の雷雨 本日12時には高気圧は支那大陸と小笠原島南方洋上とに、低気圧は黄海附近にあり、一不連続線は四國沖より奥羽沖に至る本邦東海上にあり。天氣は四國、九州及朝鮮は降雨中なれども他は曇天又は晴天なり。

第10圖 同鳴線及び進路



23日 九州に於ける雷雨

第11圖 同鳴線及び進路



23日 朝鮮南部の雷雨

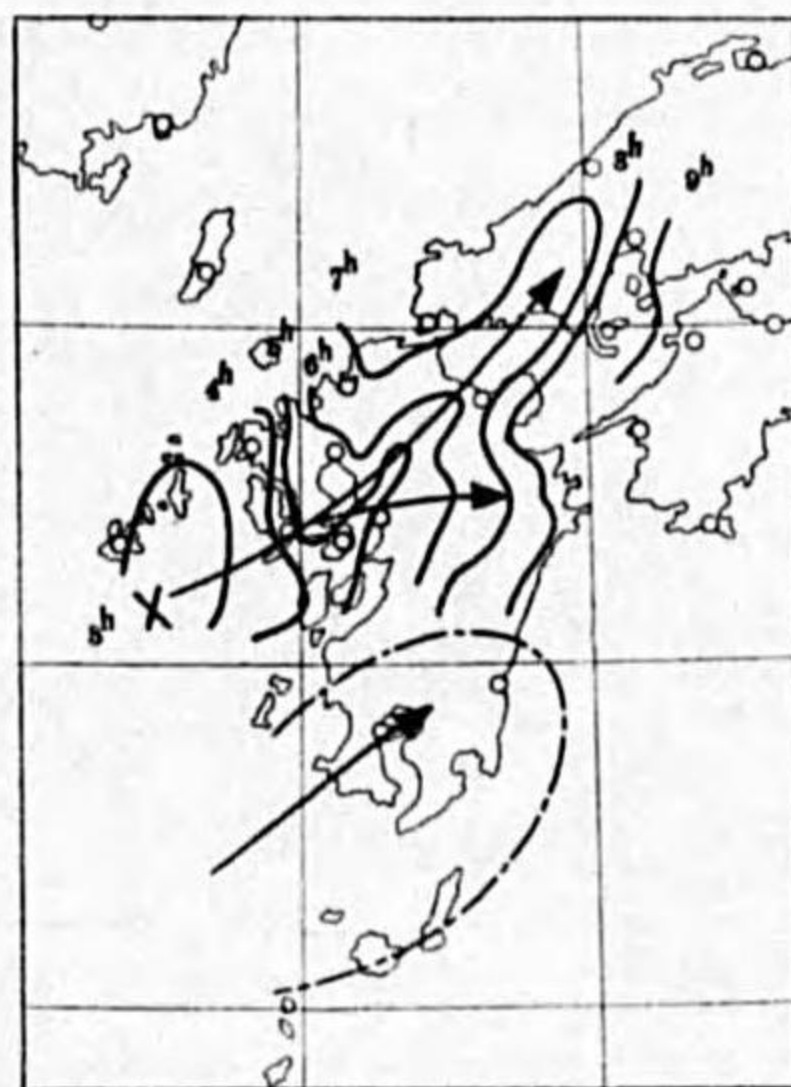
此の日長崎縣五島列島南西海上に發現したる雷雨は時速約40軒にて進路を東北東に取り、13時頃大瀬崎に上陸し五島列島南部地方一帯に雷鳴あり。15時頃より急に勢力を増し長崎縣下に強雷あり、17時頃有明海を渡り、18時頃福岡縣南部、熊本縣に至り、19時頃大分縣南部地方に達し、大分縣北部地方にては21時頃、豊後海峽海岸地方にては21時前頃終聲せり。此の雷雨にて長崎縣南高來郡深江村に落雷し積一頭斃死せり。(第10圖)

同日 朝鮮南部の雷雨 9時前頃濟州島西方沖合より押し寄せたる雷雨は時速平均約40軒にて北東に進み、10時頃より12時頃の間、全羅南道西南部諸島を襲ひ、13時頃より15時頃の間、全羅南北道を通過し、16時頃より18時頃の間、忠清北道、慶尙北道西部、同南道西部を通過し19時頃より20時頃の間、慶尙南、北道東部を通過し日本海上に去れり。(第11圖)

3日 九州の雷雨 6時には高気圧は西比利亞と太平洋上とにあり、低気圧は日本海にあり、一不連続線は日本海より南西方に走り九州北部を掠めて臺灣の附近に到り、他は潮岬近海より東北東に到る。

此の日五島列島南方海上に始發したる雷雨は2時過頃同列島に上陸し、時速平均約60軒にて進路を北東に取り、4時頃長崎縣を過ぎ、5時過頃有明海を渡り、北東と東に別れ進みたり。北東に進みたるものは6時頃福岡縣南部地方に達し6時半頃周防洋を渡り、7時頃山口縣東部地方に到り漸次消失せり。尙廣島縣吳市にては10時過頃まで雷鳴あり、愛媛縣松山市にても10時頃まで雷鳴

第12圖 同鳴線及び範圍



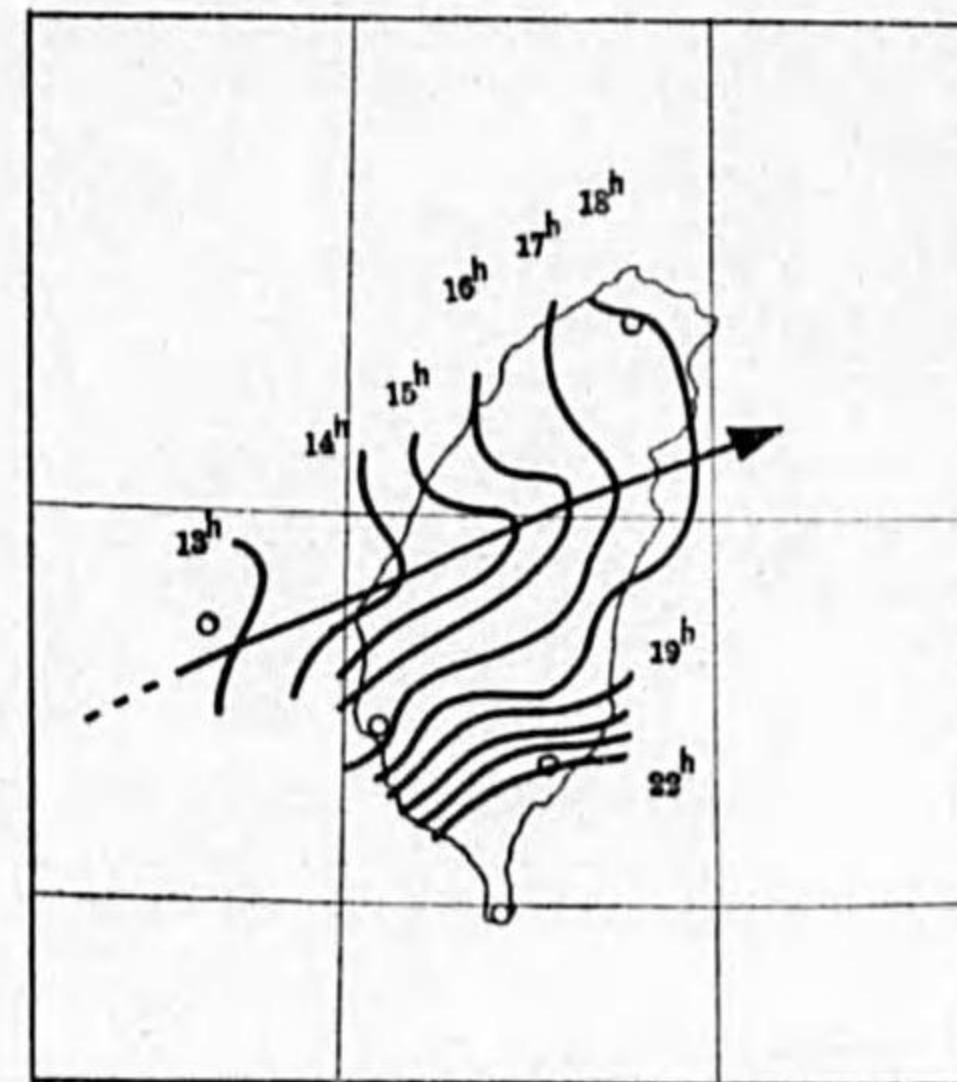
3日 九州の雷雨

を聞きたり。又東進したるものは時速30軒位にて6時頃阿蘇岳附近を過ぎ、7時頃大分縣西部地方に達しその附近にて9時頃消失したるも雷鳴は全縣及び宮崎縣北半部に及びたり。

次に6時頃鹿兒島縣南西方洋上より押し寄せたる雷雨は北東に進み菱田川上流域にて10時過ぎ消失せり。此の雷雨にて鹿兒島市に1箇所落雷したるも被害はなかりき。(第12圖)

27日 臺灣の雷雨 6時には高気圧は奥羽の東方洋上と北滿洲とにあり。低気圧は揚子江下流域にありて一不連続線は黄海より南西にその低気圧中心を通過す。天氣全國概して晴天なり。

第13圖 同鳴線及び進路



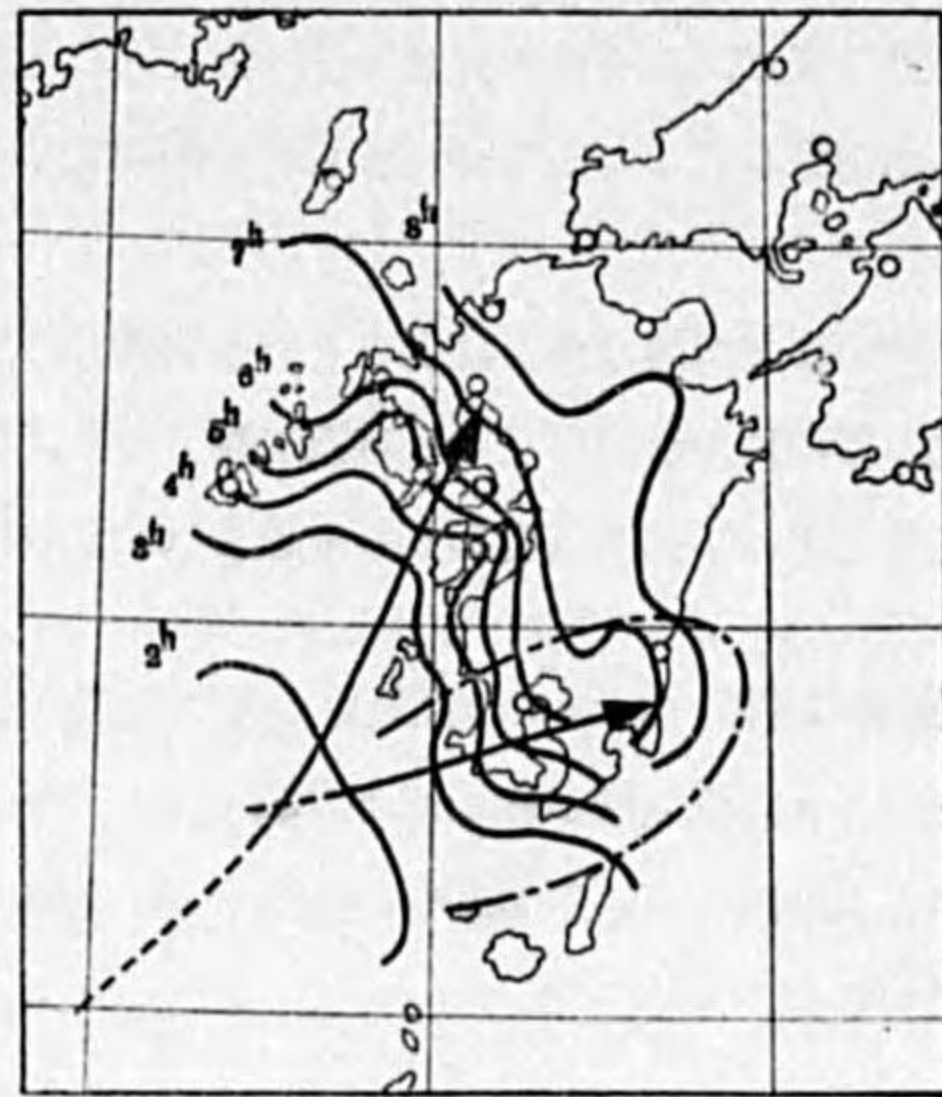
27日 臺灣の雷雨

此の日10時頃臺灣澎湖島南西海上より押し寄せたる雷雨は時速平均約50軒にて東北東に進行し、13時半頃澎湖島附近を通過し、14時過頃臺南州北部地方に上陸し濁水溪に沿ひ16時頃臺中州東部に到り、17時頃花蓮港廳北西部地方に到り、18時頃花蓮港附近より海上に去りたり。

此の雷雨は全島を襲ひ高雄州淡水溪上流に一箇所降雹(大豆大)したるも被害なかりき。尙高雄州にては翌9時頃まで雷鳴ありたり。(第13圖)

10日 九州の雷雨 6時には高気圧は本州北部地方と蒙古とにあり。低気圧は黄海及び西比利亞東部にあり。九州、朝鮮半島は降雨中にてその他は晴天なり。

第14圖 同鳴線及び進路



10日九州の雷雨

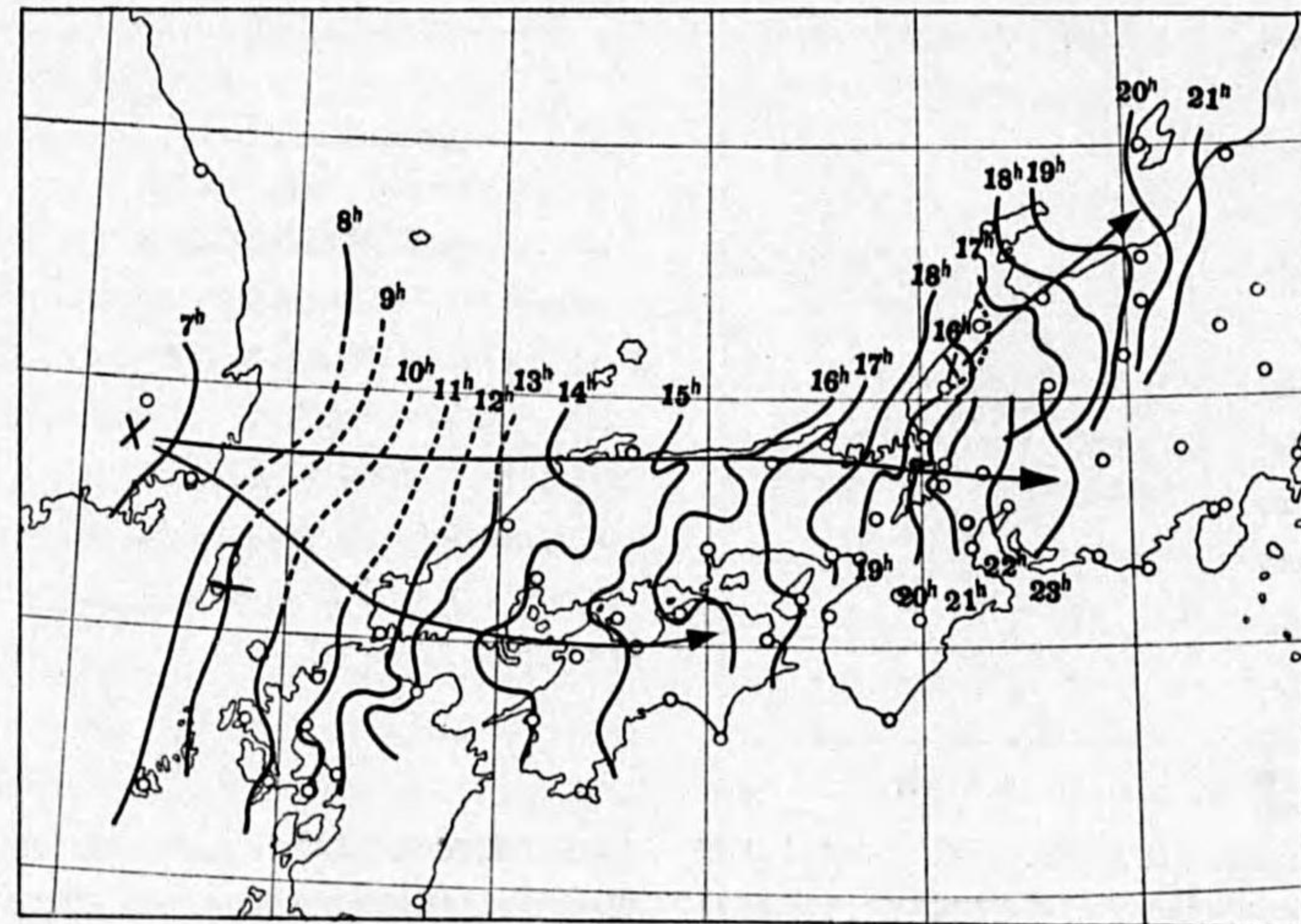
此の日2時過頃九州南西海上に始發したる雷雨は時速平均約40軒にて北々東に進行し、4時頃より西部海岸地方全體に上陸し、8時頃までに九州全體を襲ひ、福岡市附近にては9時半頃、大分縣中央部にては8時過頃、宮崎縣南部地方にては12時半頃終聲せり。此の雷雨にて宮崎縣北諸縣郡須木村に二三箇所、細野町に一箇所落雷したるも何れも被害はなかりき。又11時頃薩摩半島西方海上より押

し寄せたる雷雨は東北東に進み、14時前頃宮崎縣大淀川上流域に達し16時前頃その附近にて消滅せり。此の雷雨の際鹿兒島市に1箇所、同縣鴨嘴郡末吉町に1箇所(死者1名、人事不省1名)落雷せり。(第14圖)

20日 本州西部一帯の雷雨 6時には高氣壓は樺太より北海道東部と、小笠原とにあり。低氣壓は本州東方海上、朝鮮北部にあり。不連続線は朝鮮北部より山東半島に達するものと、元山沖より南々西に展び木浦沖に達するものとあり。12時には朝鮮の低氣壓は日本海に進み、低壓帯はそれより太平洋へ連り、一つの高氣壓は楔狀をなしてオホツク海より關東方面に突出す。氣壓傾度は急にして風強く概ね曇天なり。

此の日朝鮮慶尙南道洛東江下流域地方に6時半頃始發したる雷雨は毎時平均35軒の速度にて南東に進み、朝鮮海峽を越えて對馬北部を通り、北九州にては14時過まで雷鳴を残し、12時頃下關市附近に上陸し、13時より14時頃までに山口縣南部地方を通り、14時半頃愛媛縣松山市附近に上陸し、16時前頃香川、徳島縣境中央部に到り、その附近にて18時前頃消滅せり。又朝鮮海峽より東進したるものは海上を通り、14時頃島根縣日ノ御碕附近に上陸し、15時

第15圖 同鳴線及び進路



20日 本州西部一帯の雷雨

頃島取縣中央部を通り、16時頃兵庫縣北部地方を通り、17時頃より18時頃間に京都府北部地方を通り、20時頃琵琶湖北部を通り、22時頃岐阜縣東部揖斐川上流域に達しその附近にて23時半頃消滅したり。此の雷雨に伴ひ廣島縣沼隈郡鞆町沖合の漁船に落雷し、即死2名、人事不省2名、負傷2名を出したり。又京都府天田郡に1箇所(死者1名)、鳥取縣岩美郡に1箇所、岡山縣下に數箇所(人事不省1名、燒失家屋1棟)落雷したり。(第15圖) 尙降電に就きては各測候所の報告を記す。

岡山縣測候所報告 4月20日15時頃より22時頃迄全縣下に發したる廣範圍の雷雨は近年稍々顯著なるものなり。今回の如く各地に落雷したるは蓋し稀とす。降電區域は北部は阿哲郡の南部、川上郡の北部地方より東方に延び上房郡北部、眞庭郡南部を過ぎ津山市、藤田、英田兩郡の北部に亘りたるもの、及び眞庭郡中部より苫田郡北部に達したるもの、他は南部の小田郡、淺口郡の沿海地を過ぎ兒島郡の大部分と邑久郡南部に及び恰も3箇の帶狀を形成し、概ね本縣の西部より東部へ走れり。而して北部に於ては電の大き、稀に一錢銅貨大の地方もありたれども概して小なりし爲め、農作物に多少の被害を受けたるも著しからず。然れども南部に於ては廣區域に鶏卵大の降電あり、兒島郡兒島町、郷内村、津崎村、莊内村、八濱町、琴浦村の6町村の被害頗る甚大にして就中兒島町、郷内村の如きは電話線多數切斷され、屋根瓦、硝子窓、雨戸等の被害は固より、農作物の被害は主として麥作頗る慘害を蒙り收穫皆無の地も尠からず。其の他の農作物の被害等合計すれば大約280町歩なり。

京都府測候所報告 20日夕刻丹後北部及南部、丹波西部、天田郡地方及丹波北東部の一部に大雨雨に伴ひ近年稀な電が降り、其の大なるものは子供の掌大のものもあつて、農作物被害甚しく、又二、三の負傷者を見るが如き大電襲來した。同地方に於て斯る降電を認めたことは明治32年5月12日桃の實位のものが降つたことはあつたが之れ以外古老の言を辿るも今回の如き大きな電は知らないと言ふ位の珍らしい現象であつた。

降電區域は丹後北部、熊野郡の中央部より竹野郡の南半、中郡北部を経て與謝郡の北部に亘る一帯18.5軒平方、天田郡西部より加佐郡の大部分に亘る一帯に11軒平方及北桑田郡の北東部大野より鶴ヶ岡に至る一帯で孰れも東西に長く南北に狭き帶狀を呈し凡そ20軒の距りを持って平行して現はれてゐる。而してその激甚區域は竹野川中流附近、鳥取、深田、溝谷、丹波村の一圓6軒平方、與謝郡野間より筒川を経て本庄村に至る一帯4.4軒平方、天田郡夜久野村より下川口、加佐郡河守町、岡田上東雲を経て中舞鶴に至る舞鶴灣より由良川流域に沿ふた盆地東西46軒、南北5軒の地帯である、此の地帯に於ては二錢銅貨大より鶏卵大のものが降つて窓硝子を破壊し甚だしきは自動車の轆を突き抜き、又其の米片で頭部に負傷したるもの數人を出し、蔬菜類の如きは全滅した畑地も尠くなかつた。

岐阜測候所報告 20日15時前後に始り同夜半に及びし雷雨は北西濃地方より東進し北濃を経て飛騨南部に入りしが其勢稍々烈しく落雷を伴ひし外、其經路に當る各所に降電し本縣郡根尾村、山縣郡北山村、益田郡馬瀬村等にて其被害甚だ慘憺の狀を呈せり。
合計被害反別 185町7反 見積額 10,832圓

6 月

11日 關東地方の雷雨 淺間山と甲信武岳及び八ヶ嶽の中間信濃川上流域に15時前頃始發したる雷雨は毎時40軒の速度にて東南東に進み、16時頃より17時頃迄に埼玉縣を通過し、18時頃より千葉縣北部利根川に沿ひ香取郡に至り其所にて21時頃消滅したり。此の雷雨に伴ひて信濃川上流域、淺間山(大豆大)、茨城縣結城郡水海道町(大豆大)に降電ありたり。

22日 中部地方の雷雨 14時過頃京都府北部海岸地に始發したる雷雨は毎時平均約50軒の速度にて東に進み、15時頃まで福井縣下を襲ひ、16時頃石川縣南部、岐阜縣南部、滋賀縣北部に擴大し、17時頃岐阜縣を通過し長野縣南部に入り、18時頃富山縣、長野縣西部を襲ひ、それより方向を東南東に變じ、19時頃富士川流域地方に進み19時半頃愛鷹山附近に至り其所にて20時過頃消滅せり。此の雷雨の際靜岡縣富士郡富士町に落雷したるも被害なかりき。

30日 山陽道の雷雨 1時半頃吳市北方附近に始發したる雷雨は毎時平均約35軒の速度にて東に進み岡山縣を過ぐる迄は大體海岸地方を通り5時過頃岡山市南方附近を通り、それより6時より7時頃迄に播磨洋を通過し、8時頃淡路島北部を通り大阪灣を横斷し、9時前頃大阪府南部地方に達し其所にて9時半頃消滅せり。此の雷雨の際岡山縣兒島郡宇野町に落雷し土藏屋根一坪半を破損せしめたり。

7 月

2日 中部地方の雷雨 若狭灣北西方日本海上に5時過頃始發したる雷雨は7時頃福井縣海岸地方に上陸し、毎時平均約50軒の速度にて東に進み、8時頃福井縣を過ぎ9時頃漸次幅員を南東に擴げ、10時頃岐阜縣北東部長野縣境より揖斐川下流域の線に達し、11時頃淺間山、八ヶ嶽、長野縣南方地方、愛知縣中央部に達し、埼玉縣西部地方にては12時過迄、愛知縣東部地方にては12時半前頃迄雷鳴せり。此の雷雨の際愛知縣丹羽郡千秋村に1箇所(死者1名)、一ノ宮市に3箇所(家屋燒失1棟)落雷せり。

8 月

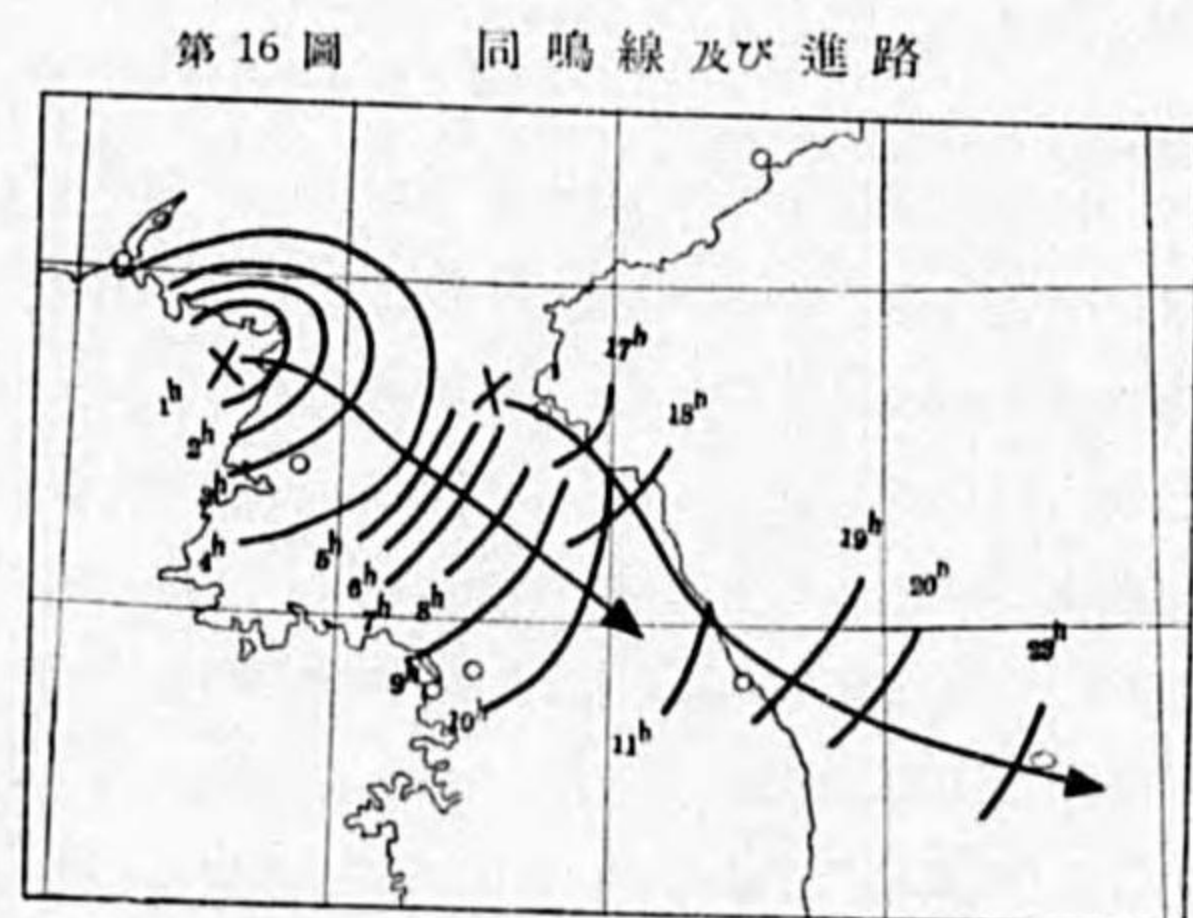
26日 奥羽地方の雷雨 秋田縣北西日本海上より押し寄せたる雷雨は1時頃青森縣、秋田縣、山形縣海岸地方を襲ひ、2時頃青森縣西部地方、秋田縣東部縣境、山形縣北部地方に達し、3時頃青森縣東部地方、岩手縣西部縣境地方、山形縣北東部地方に達し、4時頃岩手縣中央部、宮城縣北部地方に達し、7時半頃宮城縣北部地方にて消滅せり。此の雷雨の際能代川川口附近に2箇所、御物川川口に1箇所、子吉川川口附近に1箇所、最上川支流赤川中流域に2箇所落雷せり。

9 月

26日 關東地方の雷雨 14時頃前橋市南方地方に始發したる雷雨は毎時平均約30軒の速度にて東南東に進み、大體根川沿ひに15時より17時の間に埼玉縣、栃木縣南部を通り、18時頃印旛沼北方地方に達し、その附近にて20時半頃消滅せり。又15時頃山梨縣富士川上流東部地方に始發したる雷雨は毎時平均約40軒にて東南東に進み、東京府、神奈川縣、静岡縣東部地方を襲ひ、18時頃三浦半島より千葉縣安房郡に渡り、18時半頃その附近にて消滅せり。

27日 朝鮮北部の雷雨 6時には高氣壓は小笠原の東方洋上、支那中部及黑龍江下流域にありて支那中部のものと黑龍江のものととは黃海方面にて相連なり、低氣壓は南滿洲、本邦東方洋上にありて各中心を通り各、北東より南西に不連続線を形成す。

此の日0時過頃朝鮮平安南道沖合に始發したる雷雨は毎



27日 朝鮮北部の雷雨

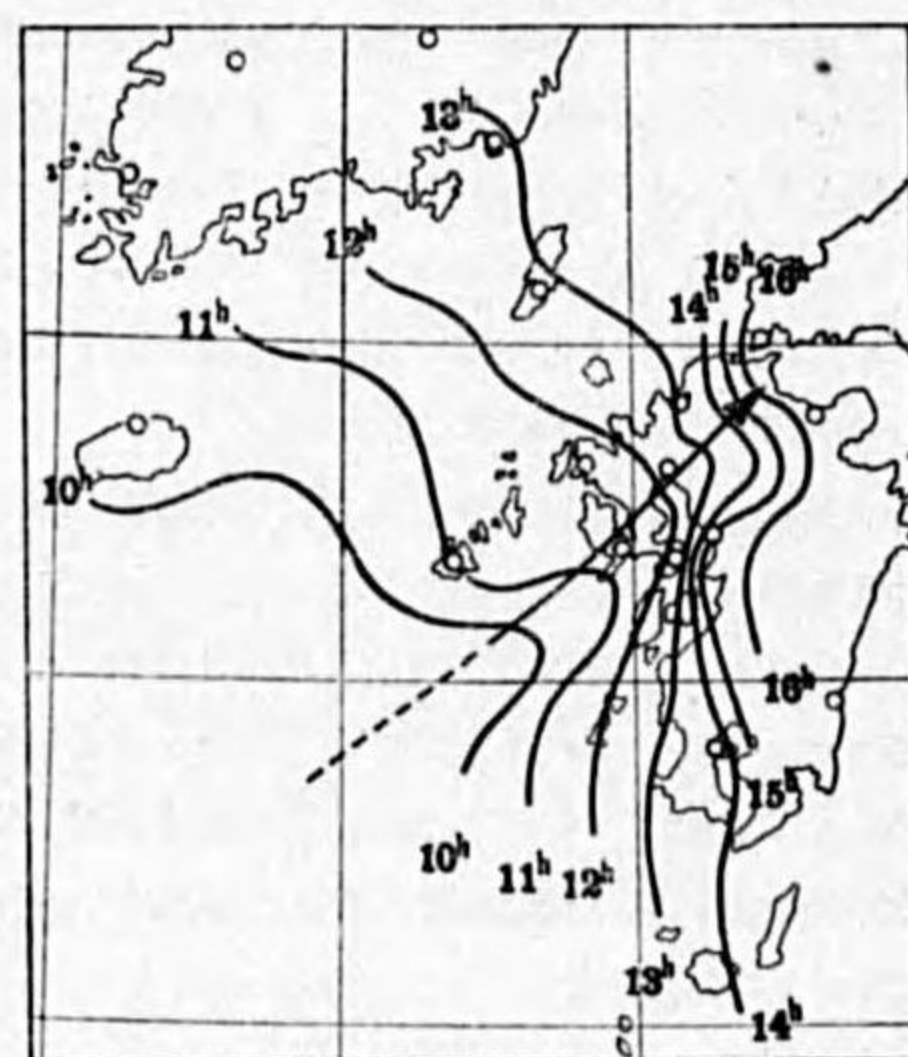
時平均約25軒の速度にて南東に進み、3時頃迄平安南・北道海岸地方を襲ひ、8時頃より江原道に入り臨津江、漢江上流域を通り11時頃同道中央部に達しその附近にて12時半頃消滅せり。此の雷雨の際平安南道平城、永柔、三登に梅實大乃至大豆大の降雹ありたれど被害なかりき。又16時半頃平安南道と咸鏡南道との道境南部地方に始發したる雷雨は南東に進み大體海岸地方沿ひに、18時半頃江陵北方地方より海上に出て28時過頃鬱陵島附近を通過したるもその後の模様は不明なり。鬱陵島にては翌0時半過頃迄雷鳴を聞きたり。(第16圖)

10 月

19日 九州地方の雷雨 12時には高氣壓は三陸沖に、低氣壓は濟州島西方沖及黑龍江附近にあり。而して濟州島西方沖のものは東北東に進行中なり。

此の日五島列島南方海上に始發したる雷雨は、毎時平均約40軒の速度にて北東に進み、9時過長崎縣南松浦郡女島附近に達し、漸時幅員を擴げ、朝鮮南部沿岸地方より鹿児島縣南方海上屋久島に及び、大分、宮崎兩縣を除く九州全土を襲ひ、馬關海峡にては16時半頃、熊本縣白川流域地方にては17時頃、鹿児島縣始良郡地方にては18時半頃消滅せり。(第17圖)

第17圖 同鳴線及び進路

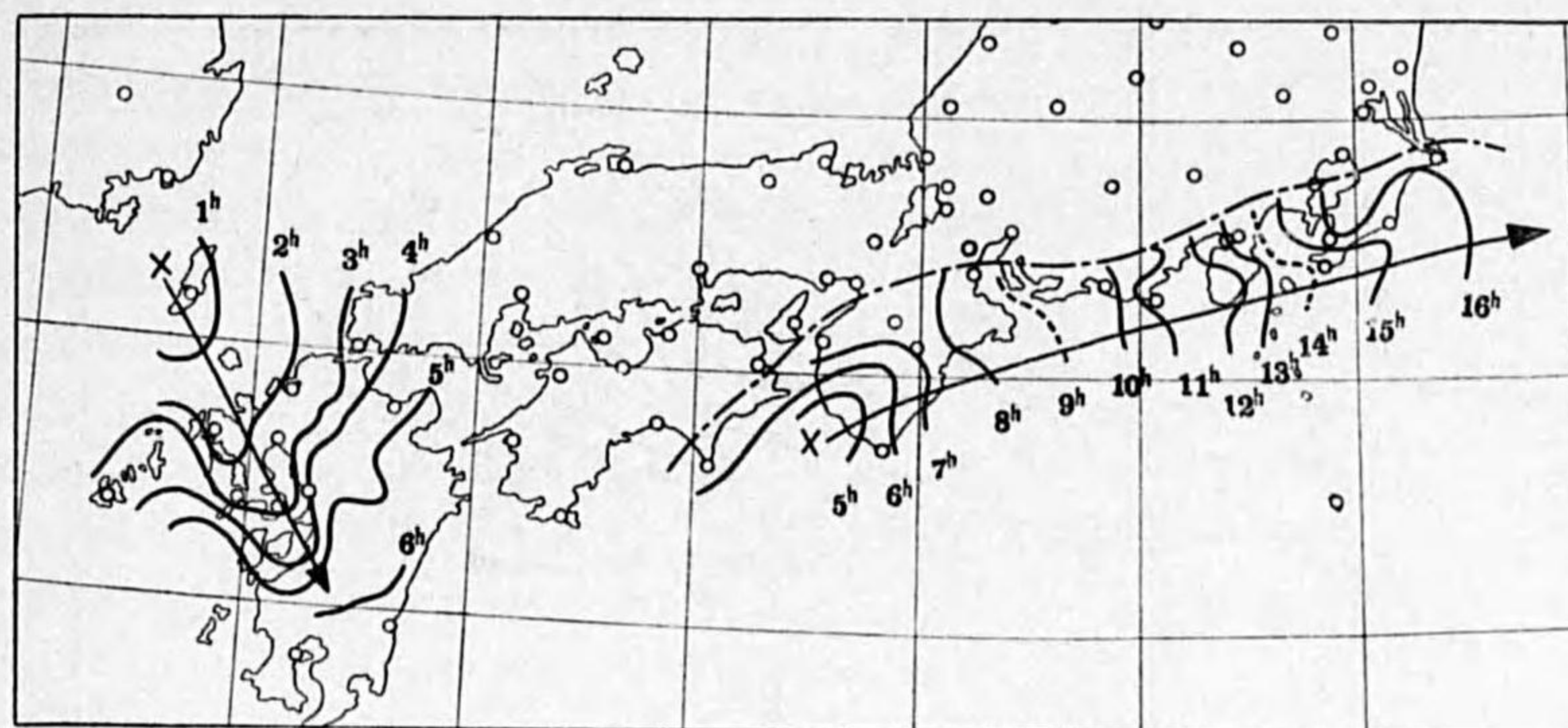


19日 九州地方の雷雨

11 月

16日 九州及び東海道の雷雨 6時には高氣壓は山東半

第18圖 同鳴線及び進路



16日 九州及び東海道の雷雨

島、小笠原東方洋上にあり。低氣壓は北海道の西方海上、潮岬南方、三陸東方海上にありて、後の二者間に不連続線あり。

此の日0時過頃對馬西方海上に始發したる雷雨は毎時平均約55軒の速度にて南東に進み、その中心は大體0時半頃對馬の南部を通過し、1時過頃堂岐を通り、2時頃佐賀縣を通り、3時頃有明之海を縦斷し、4時頃熊本縣海岸地方を襲ひ、5時頃同縣東部地方を通り、5時半頃同縣南東部に達しその附近にて6時半頃消滅せり。此の雷雨に伴ひ佐賀縣藤津郡嬉町に1箇所(物置小屋全焼)落雷したり。尚長崎縣北松浦郡柚木村、大野村附近に梅實大乃至大豆大の降雹あり、相當大なる被害を受けたり。

又4時頃和歌山縣南西海上より押し寄せたる雷雨は毎時平均約40軒の速度にて東北東に進み、5時頃和歌山縣中央部に上陸し6時頃同縣を越え、7時頃三重縣南部より熊野灘に出で、9時頃より11時頃間に遠江灘を通り、12時頃伊豆半島南端を通過し、13時半頃大島附近を過ぎ、15時頃千葉縣南方沖合を通過し洋上に去りたり。此の雷雨の際和歌山縣西牟婁郡に2箇所落雷し、同郡栗柄川村に(豌豆大)三重縣名賀郡名張町に(小豆大)、伊豆半島南端地方に(梅核大)、千葉縣鋸山附近に(大粒)降雹したるも何れも被害なかりき。(第18圖)

昭和6年度分

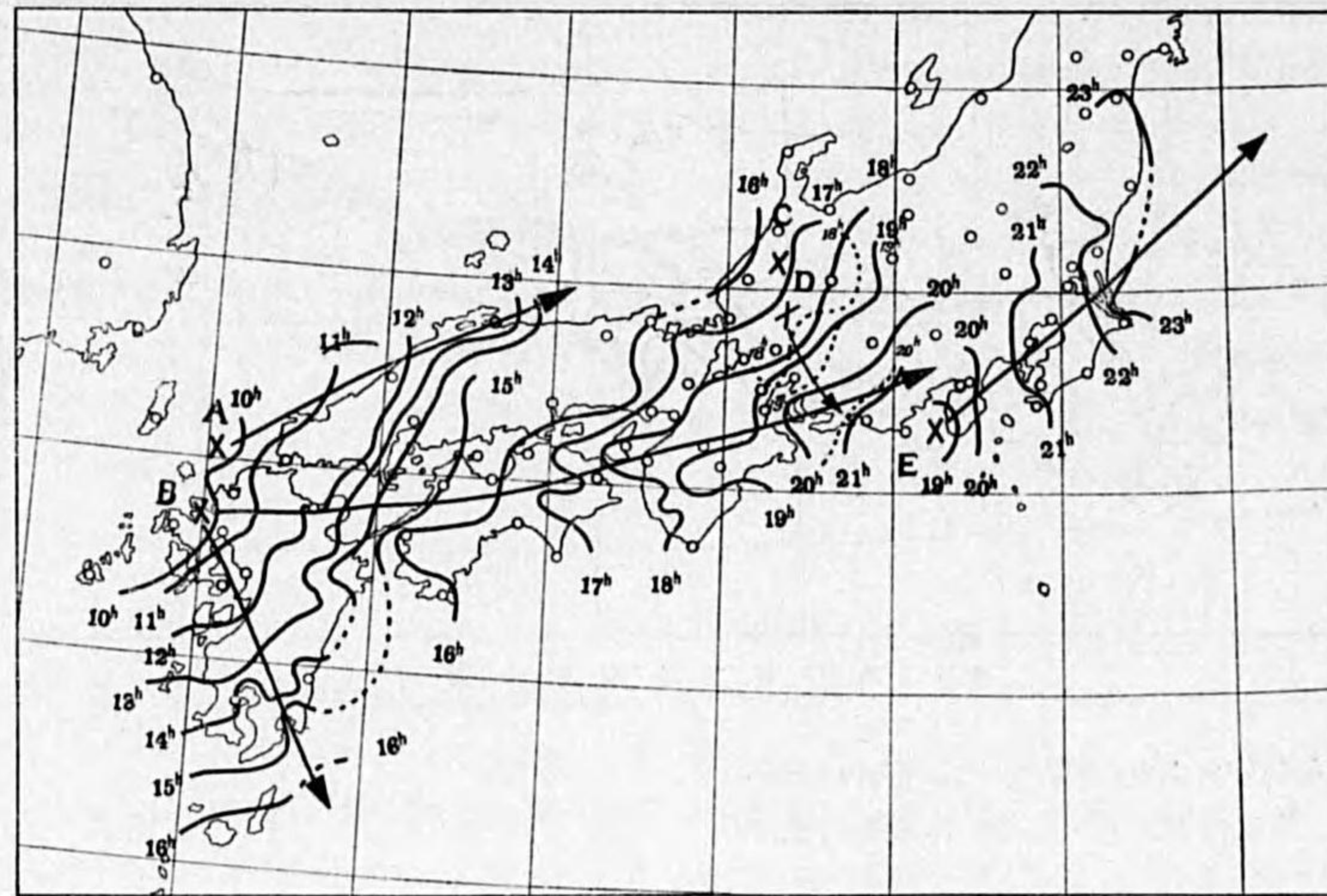
3 月

23日 九州より關東地方に及ぶ雷雨 6時には高氣壓は太平洋及中華民國に、低氣壓は能登半島北西日本海上にありて、一不連続線は樺太北部より日本海の低氣壓を貫き南西に走り、朝鮮南部釜山附近を通り楊子江河口に達す。

9時頃 A、B の雷雨が玄海灘に發生し、A は北東寄りに山陰地方に進み、B は南々東に九州を襲ひつゝ、A の進行に誘發され次第にその勢力を東方に移し、15時頃 B は A と合一して東北東進を持續し四國、中國、近畿の三地方を過ぎて19時頃中部地方に突入せり。之れより先、17時頃石川、岐阜の兩縣に夫々 C、D の雷雨が發生し、C 雷雨は石川、岐阜、富山縣に擴大し、D 雷雨は南々東に移動し20時頃愛知縣東部地方に消散したり。尚 B 雷雨は幅員を20時頃より狭め21時過頃静岡縣中央部に達し E 雷雨に勢力を移したる模様なり。E 雷雨は19時頃駿河灣に發生し北東に進み、關東東部を通り石巻灣沖に達し23時過頃消滅したる模様なり。(第19圖)

之等の雷雨の際、九州、紀伊半島及岐阜縣等に降雹、落雷ありたれど豪雨はなかりき。尙雷撃死亡者3名、重傷者3名、燒失家屋一棟を出せり。

第19圖 同鳴線及び進路



23日 九州より關東に及ぶ雷雨

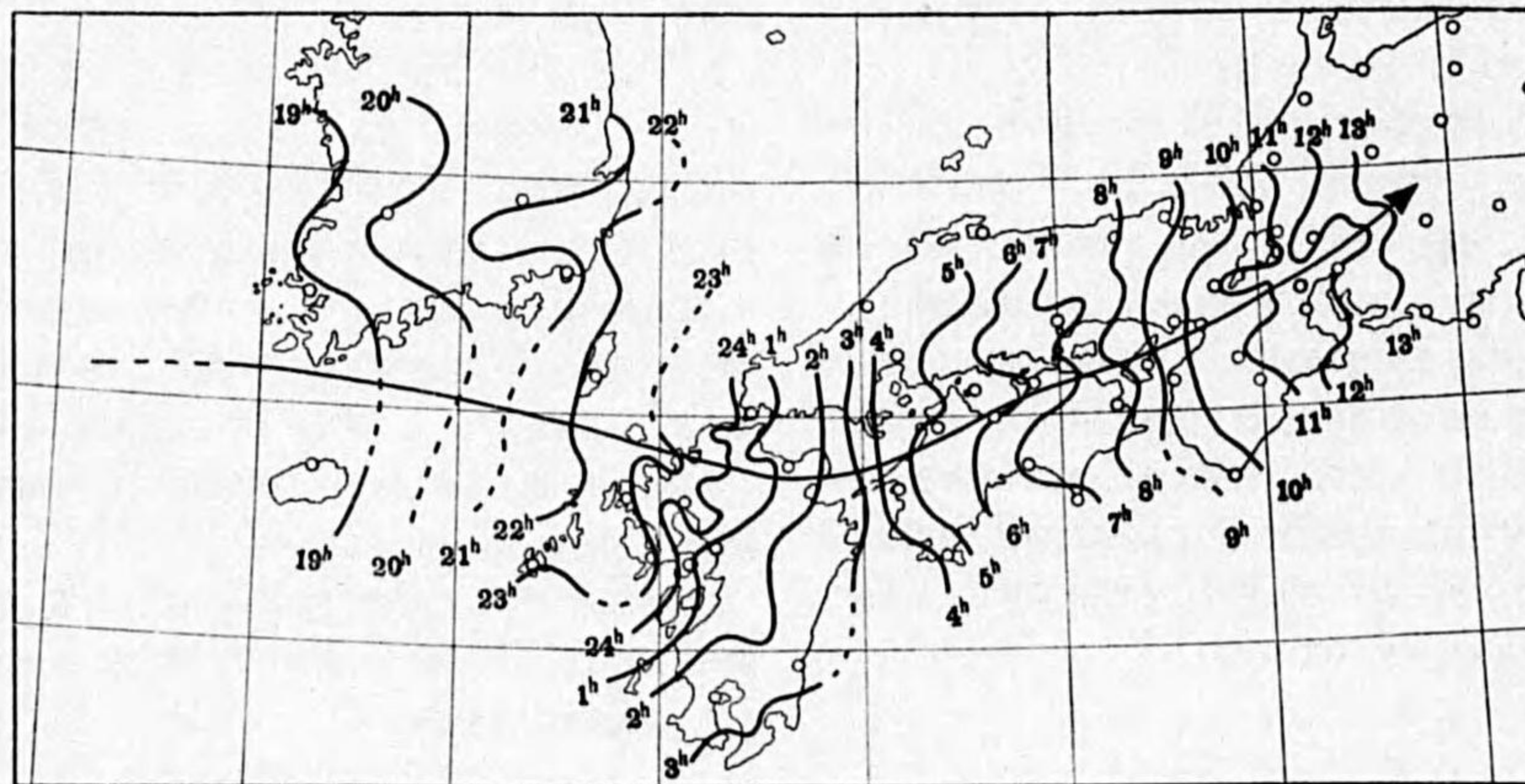
4 月

4, 5 兩日本邦西半部を襲ひたる雷雨 4日18時には高氣壓は太平洋にあり。低氣壓は朝鮮仁川の西方にあり、一不連続線は此の低氣壓より南方に走り支那東海に達す。

他の不連続線は此の低氣壓より日本海を通り樺太に達す。

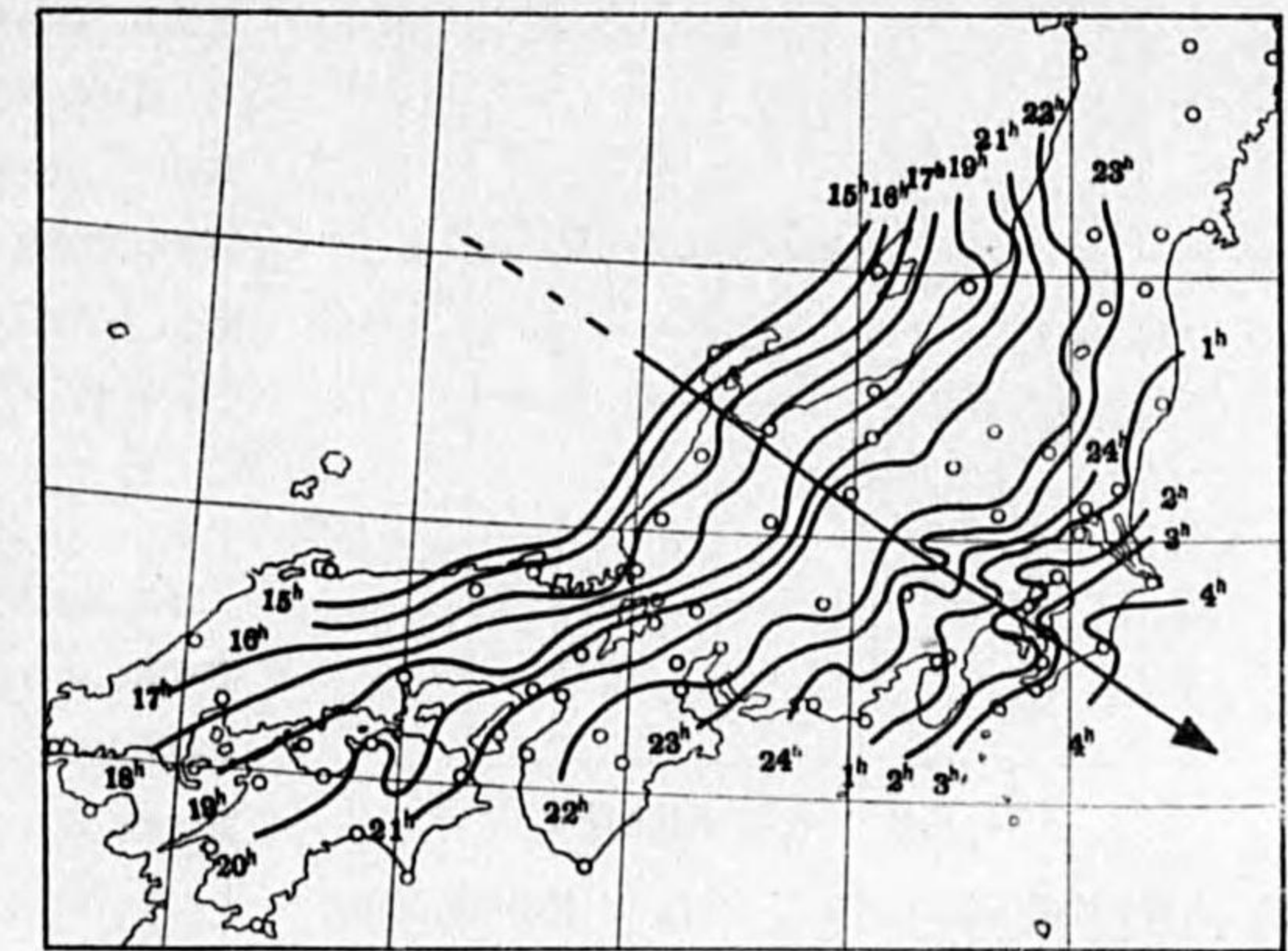
4日黃海に發生したる雷雨は朝鮮南部と濟州島の海上を東進し、18時過頃朝鮮南部地方に上陸し、次第に九州、四國、近畿へと東進して翌日13時過頃木曾川上流域山地にて消滅せり。

第20圖 同鳴線及び進路



4,5兩日本邦西半部に於ける雷雨

第21圖 同鳴線及び進路



28日 奥羽南部一九州・四國に於ける雷雨

範圍を襲ひ、その主軸は大體能登半島より關東地方に出で、19時頃千曲川上流域に發現したる雷雨と合し九十九里濱方面より太平洋に出でたり。此の雷雨は關西地方以西全體に降雹を齎らし相當の被害を與へ、尙岡山縣に於ては大なるは鷄卵大の雹を降らし被害反別9,800町歩、約60萬圓以上の損害を受けたり。(第21圖)

9 月

6日 九州の雷雨 本日九州北西部より支那東北部に不連続線あり、漸時東方に移動したる模様なり。此の日五島列島南西方海上に始發したる雷雨は最初九州北西部を襲ひ南東に進路を變更し、時速約20軒にて、その主軸は島原半島、熊本縣中央部、宮崎縣中央部を通過し、16時過日向洋に出で消滅せり。此の雷雨は宮崎市内外にて落雷10箇所以上ありて人事不省1名、斃死家畜1頭を出せり。

10 月

17日 奥羽・北海道の雷雨 本朝高氣壓は本邦東方洋上、支那北部にあり、颯風は南洋方面にあり、低氣壓は日本海北部にありて北々東に進行中なり。而して此の低氣壓より本邦の日本海沿岸地方を通り能登半島より四國沖に達するものと、同低氣壓より日本海を通り朝鮮海峡に達するものと、二不連続線あり共に低氣壓に連れて北東に移動せり。此の日6時頃北海道渡島半島中央部に始發したる雷雨の主

此の雷雨に伴ひて朝鮮南部(大豆大)、濃美平野及福岡縣(12箇所)、佐賀縣(2箇所)、長崎縣(3箇所)、熊本縣(2箇所)、大分縣(1箇所)、宮崎縣(1箇所)等大豆大又は小豆大の降雹を齎したれど被害なく、和歌山縣南部の降雹は(3寸大、70匁)4.5寸堆積し相當の被害を見、負傷者12名以上を出したり。落雷は福岡縣(1箇所)、佐賀縣(1箇所、馬一頭死亡)、宮崎縣(1箇所、家屋2棟焼失)、吳市(1箇所)、和歌山縣(2箇所)、愛知縣(2箇所)にありたり。尙此の雷雨と同時に5日1時22分頃福岡縣三井郡太刀洗村、朝倉郡三輪村方面に大旋風起りて被害甚大なり。(第20圖)

6日 中國・近畿の雷雨 19時過頃島根縣東部地方に始發したる雷雨は同縣及廣島縣全體を襲ひ東に進行したれど岡山縣及兵庫縣中央部を除き鳥取縣、兵庫縣北部及香川縣、兵庫縣南部に分れ襲ひ、京都市附近より鈴鹿山脈に至り翌3時半過頃消滅したる模様なり。此の雷雨は所々降雹したれども小豆大のものなれば被害なし。

12日 臺灣西部を縦斷したる雷雨 0時過頃臺北州北西淡水溪川口沖に始發したる雷雨は時速約70軒にて南々西に進み同島西部地方を縦斷し南西部高雄州東港沖に出で消滅したる模様なり。

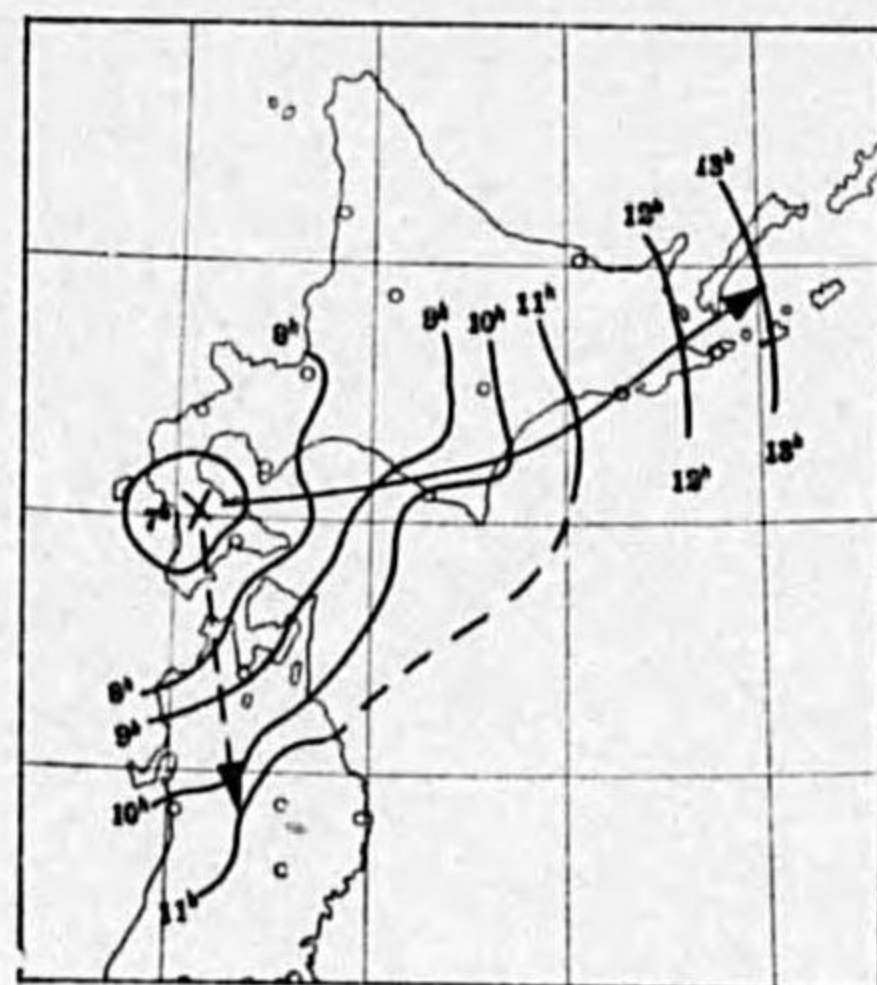
28日 九州・四國の雷雨 15時頃五島列島南海上に始發したる雷雨は時速平均50軒にて東北東に進み、九州の中央部を横斷し、22時過頃豊後水道を渡り愛媛縣中央部に達し翌1時頃消滅したり。此の雷雨の範圍は九州全體、四國西半に及びたり。

5 月

28日 奥羽南部地方以西全體の雷雨 6時には高氣壓は本邦東方洋上及滿洲にあり、低氣壓はウラヂオストック南方沖にあり、不連続線は樺太より沿海州を過ぎて低氣壓中心を南西に抜け朝鮮中央部を横斷し揚子江下流域に達す。此の低氣壓が漸次北東に進むに連れ不連続線も又北東に移動し雷雨を齎したり。

此の日14時頃能登半島北西沖より押し寄せたる雷雨は勢力大にして擴大し奥羽南部地方以西、中國・四國に至る

第22圖 同鳴線及び進路



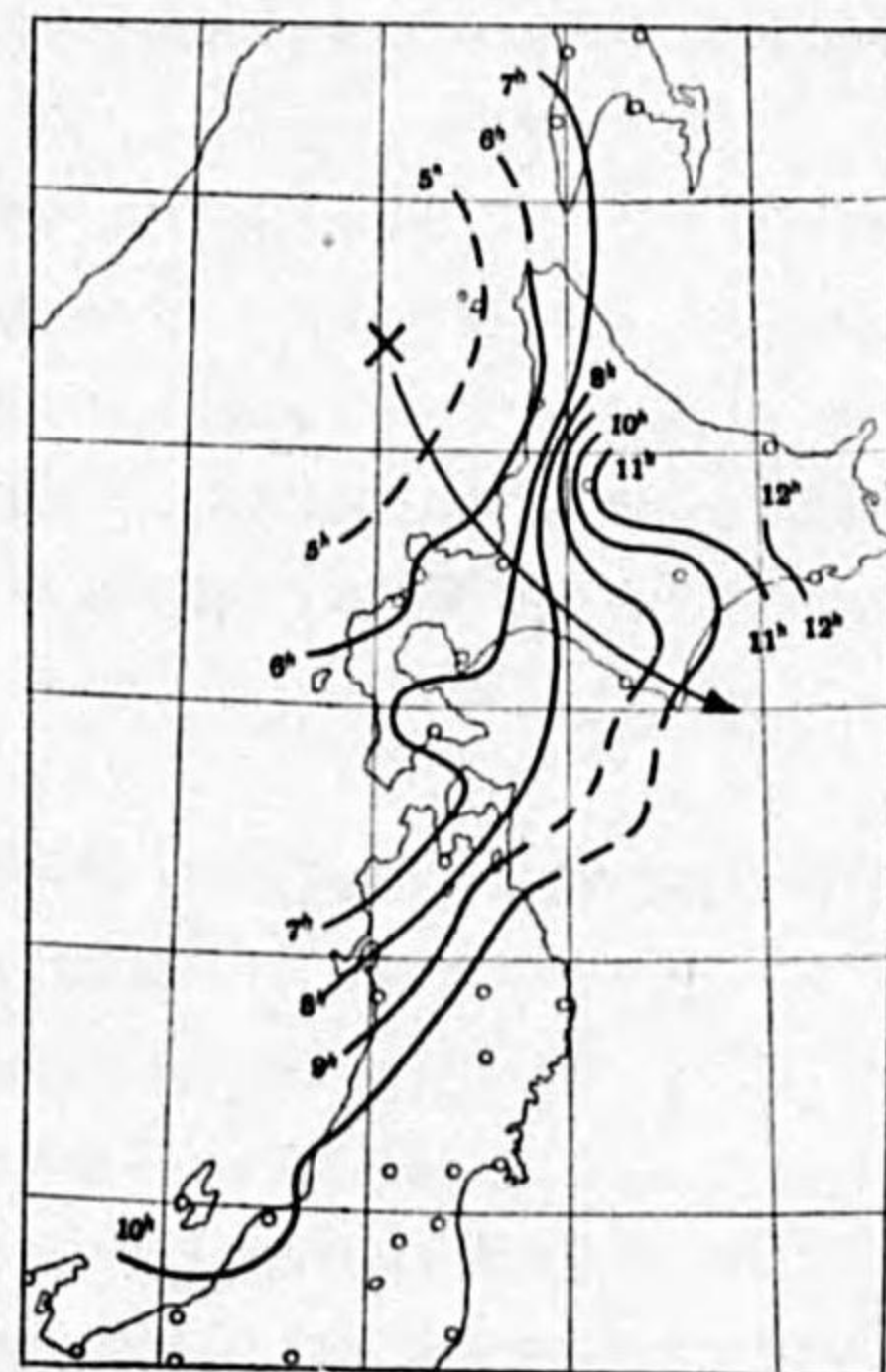
17日 奥羽—北海道に於ける雷雨

軸は大體東北東に時速約70軒にて進行し北海道南部地方を襲ひ、13時頃國後島南方沖に出で19時頃消滅したる模様なり。尙奥羽地方にも及び中央部真蓋岳地方にて14時頃消滅せり。(第22圖)

11 月

18日 樺太より北陸東部に亘る雷雨 18日朝低気圧は間宮海峡、北海道西部海上にありて、此の二つの低気圧中心を結ぶ一不連続線は南西に走り日本海東部を通り能登半島

第23圖 同鳴線及び進路



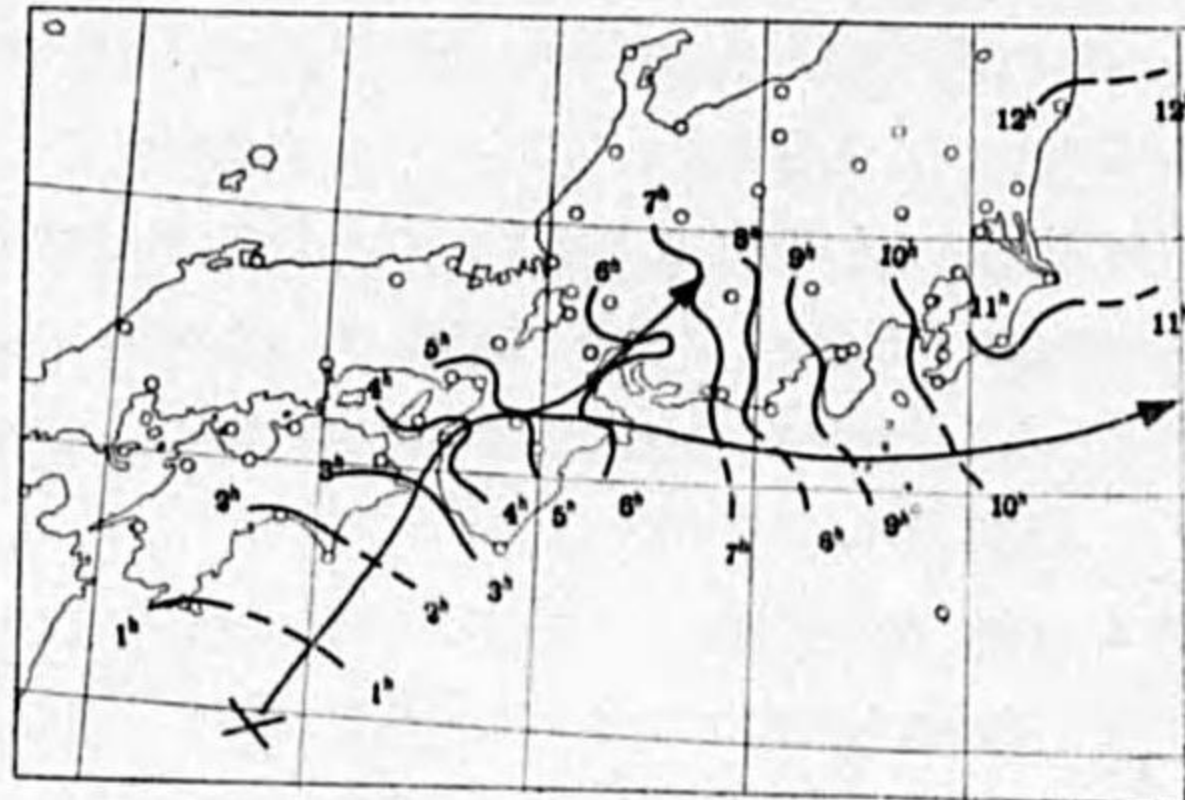
18日 樺太—北陸東部に於ける雷雨

沖に達す。而して兩低気圧が北東に進行するに連れこれも又北東に移動せり。此の日5時頃北海道西方海上に始發したる雷雨は能登半島より北陸東部海岸地方の廣範圍に亘り襲ひ、その主軸が北海道渡島半島の根元の地方を通りたる頃より漸時東方に寄りつゝ北海道南部及奥羽北部地方に擴大し、11時頃太平洋に出でたるもその後の模様不明なり。(第23圖)

12 月

28日 本邦南部を通過したる雷雨 27日夕木浦附近及支那東海にありたる低気圧は兩者間に不連続線を構成し共に東北東に進み0時頃兩者は日本海南部と四國沖に達し向北東に進行中なり。此の日1時頃四國足摺岬南方海上に始發したる雷雨は時速約80軒にて北東に進み、紀伊水道を通り和歌山市附近より進路を東に變じ、鳥羽半島より海上に出で東進を続け千葉縣東方洋上に出でたる模様にして福島縣東部海岸地方にては13時前頃まで雷鳴を聞きたり。尙

第24圖 同鳴線及び進路



28日 本邦南部を通過したる雷雨

奈良縣下にて北東に別れ進みたるものは伊勢灣北部を通り岐阜縣東部地方一帯を襲ひ御嶽南方にて7時半頃消滅せり。此の雷雨は愛知縣下に2箇所落雷したるも被害なし。(第24圖)

昭和7年度分

3 月

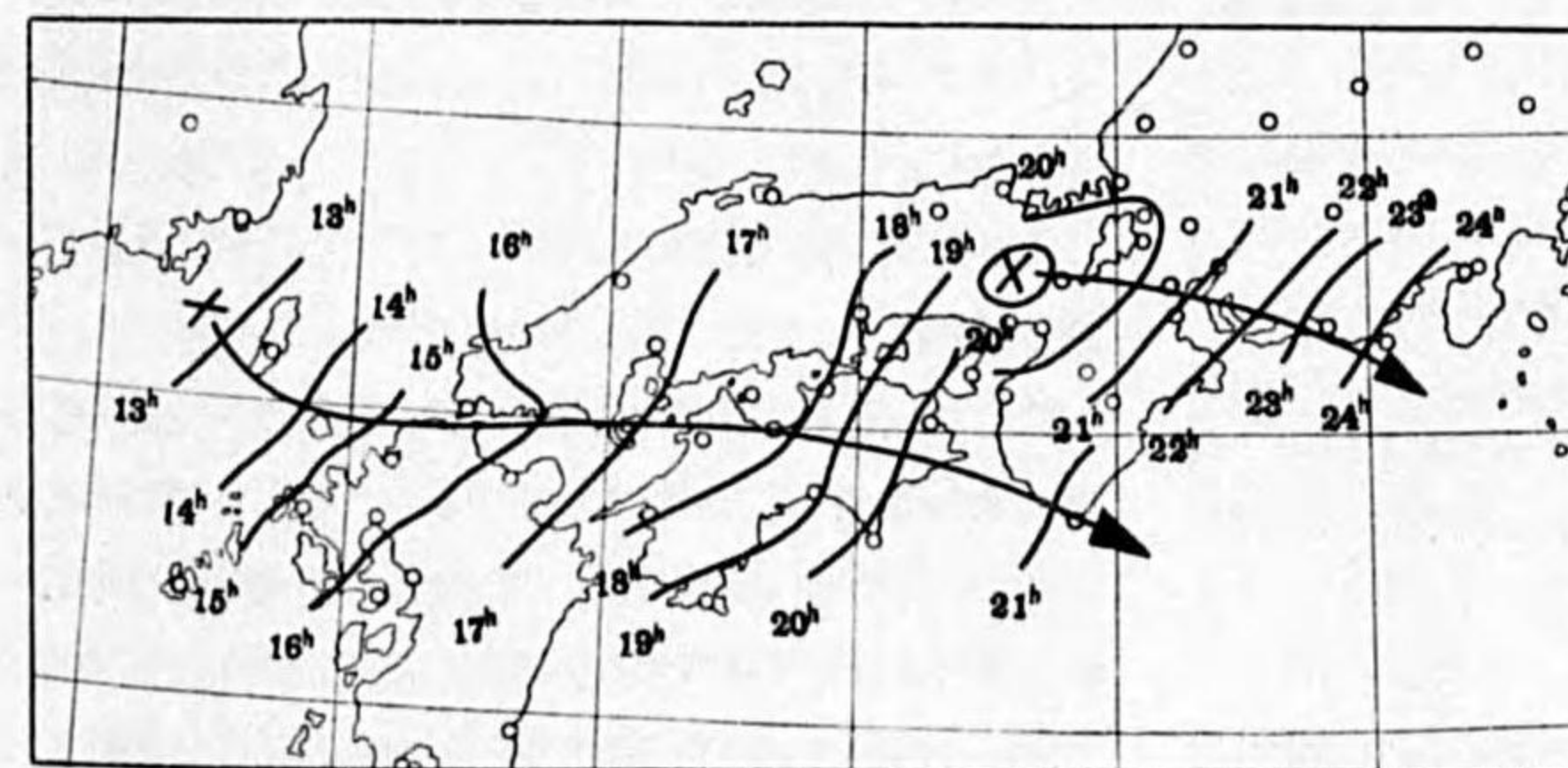
19日 本州西部の雷雨 12時には高気圧は支那大陸に、低気圧はカムチャツカ及び大東島南方洋上に、小低気圧は濱田町北方沖に存在し、朝鮮海峽は雨、内地は晴と曇とが半々位にて、朝鮮海峽及奥羽は風強く、不連続線は朝鮮海

峽にある。又18時には支那大陸の高気圧は東に移動し、四國・中國・裏日本には降雨又は降雪中の所あり、他は曇の所多く九州・四國は風強く不連続線は朝鮮海峽から日本海に出でたるもの、四國より琵琶湖西方を通りて敦賀灣に出でたるもの、長野附近より房總半島の中中部を通り太平洋に出でたるものあり。

此の日13時30分頃對馬西方に發生したる雷雨は初め弱雷にして東南東に進み、14時頃九州北部に上陸する頃は衰へたりしも、15時頃福岡・山口兩縣に入る頃より優勢となり進路を東方に變じ、16時頃福岡縣今川(泉町附近)、三田尻市附近、17時頃吳市附近、18時頃多度津・宇和島附近、20時頃徳島・洲本附近に至りそれ以後紀伊水道を渡り和歌山縣に入りたり。此の雷雨の進行速度は始めは毎時60軒位なりしも四國に入りて50軒位に減じたり、範圍は相當なる地域に亘りたるも被害少く、降雹も天草島及福岡縣今川流域に數箇所ありたるのみ。

又18時半頃兵庫縣加古川流域に發生したる雷雨は相當優勢なるものにて時速50軒位にて東南東に進み、19時頃明石・神戸・龜岡の線に進み、20時頃大阪と彦根を結ぶ線附近を通りその頃最も強く各所に落雷し、21時頃大臺ヶ原より伊勢灣に至り、此の頃は勢力衰へ、23時頃濱松附近を過ぎ、23時頃駿河灣に至り、翌日0時半頃伊豆半島に上陸して間もなく消滅せり。此の雷雨に際して落雷は兵庫縣西宮市附近に2箇所、武庫郡に2箇所、京都府船井郡に1箇所(1棟全焼)、大阪市放送局に1箇所(放送不能となる)、阪和電鐵濱寺行の電車鳳町附近を進行中電車で落雷し10分間立往生せしも負傷者はなかりき。又降雹は大阪市に1箇所、

第25圖 同鳴線及び進路



19日 本州西部に於ける雷雨

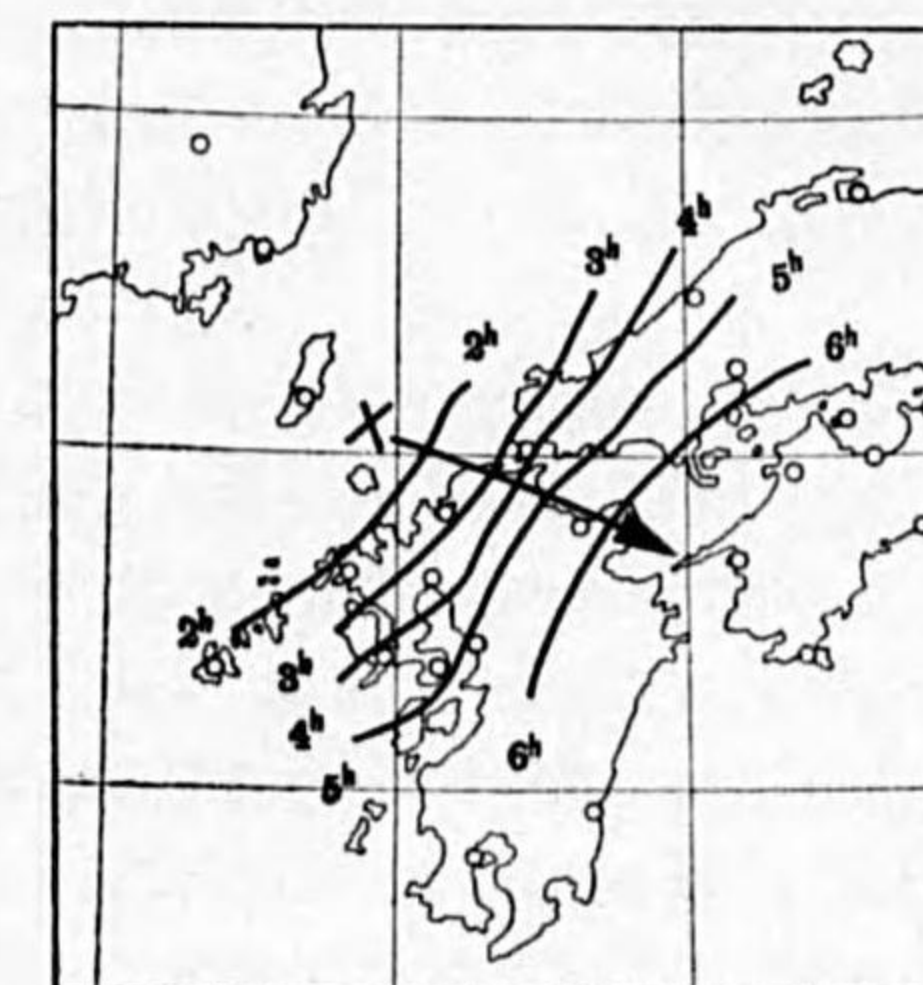
三重・奈良縣境に1箇所、駿河灣沿岸に數箇所にして別に被害なし。(第25圖)

4 月

15日 九州北部・中國西部の雷雨 14日18時には高気圧は本州よりその南東海上を掩ひ、低気圧帯は沿海州より黃海にありて内地も朝鮮も曇天にして風は弱く、那覇の西方の小低気圧より不連続線出で朝鮮海峽に達せり。15日6時には高気圧は奥羽東方洋上に去り、低気圧は朝鮮東方日本海上及土佐南方沖にありて、これら二つの低気圧を繋ぐ不連続線あり。九州は曇と雨とが半々位にて多少強き所もあり、本州は風弱く奥羽を除いては概ね降雨中なり。

此の日未明對馬海峽に發生したる雷雨は初め勢力弱く、14日の雷雨と合致し東南東に毎時45軒の速度にて進み、2時

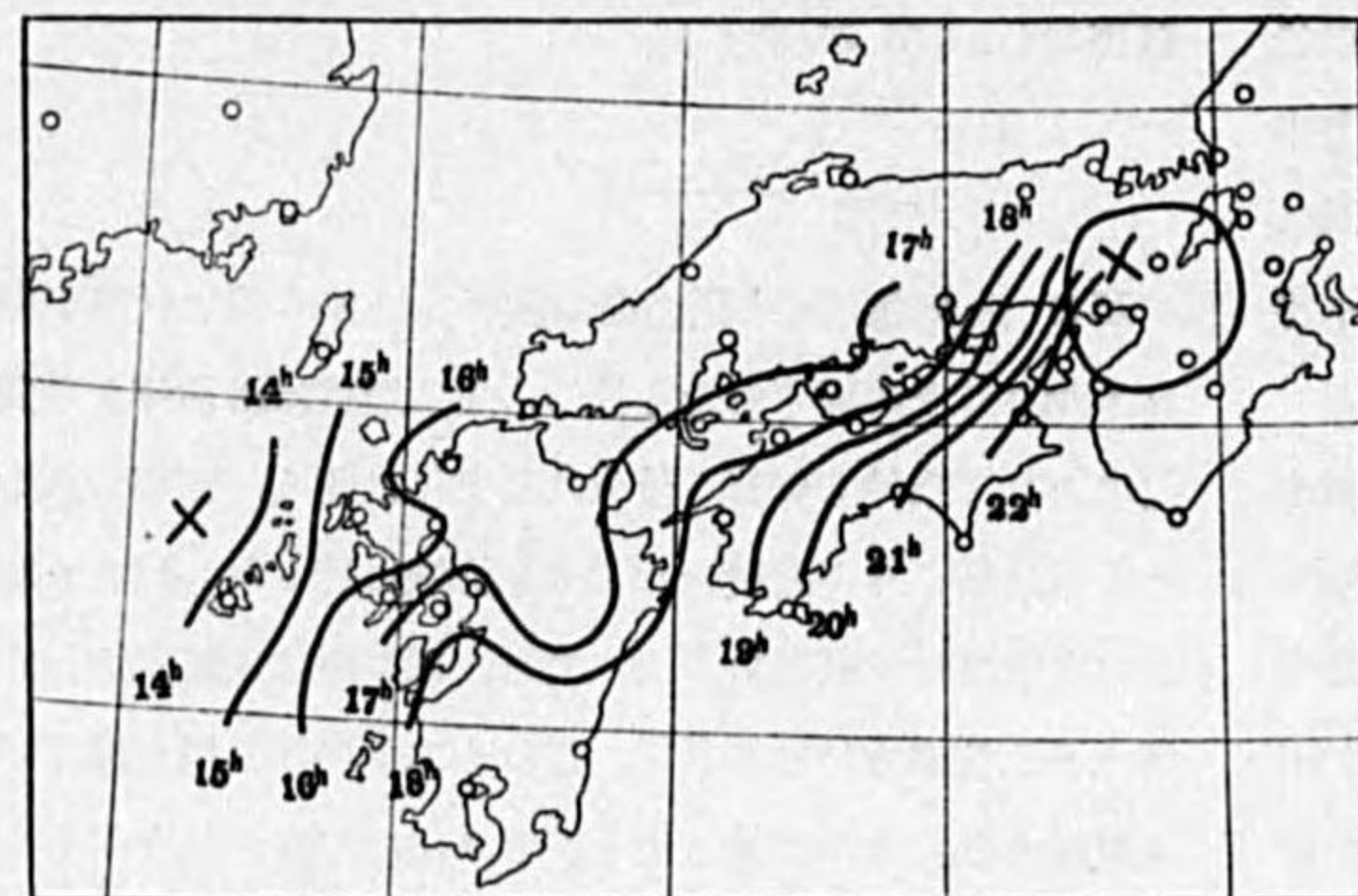
第26圖 同鳴線及び進路



15日 九州—中國西部に於ける雷雨

頃、長崎縣北部沿岸に3時頃福岡・山口兩縣に入り、而して2時頃筑後川中流域地方に發生したる雷雨と合して勢力を増し、福岡縣三池郡銀水村人家に落雷し柱の一部を破損し、山口縣大津郡深川町字河原の人家にも落雷し2名感電負傷せり。その後勢力衰へ、6時頃三國山と宮崎・熊本・福岡縣境と國東半島とを結ぶ線に進み、此の附近にて6時半頃消滅せり。(第26圖)

第27圖 同鳴線及び範圍



22日九州一近畿に於ける雷雨

5 月

22日九州より近畿に及ぶ雷雨 正午及18時には低気圧帯は沿海州より支那東海にありて日本内地は低気圧の範圍にあり、本州・九州には風の大して強き所なく概ね曇天なり。

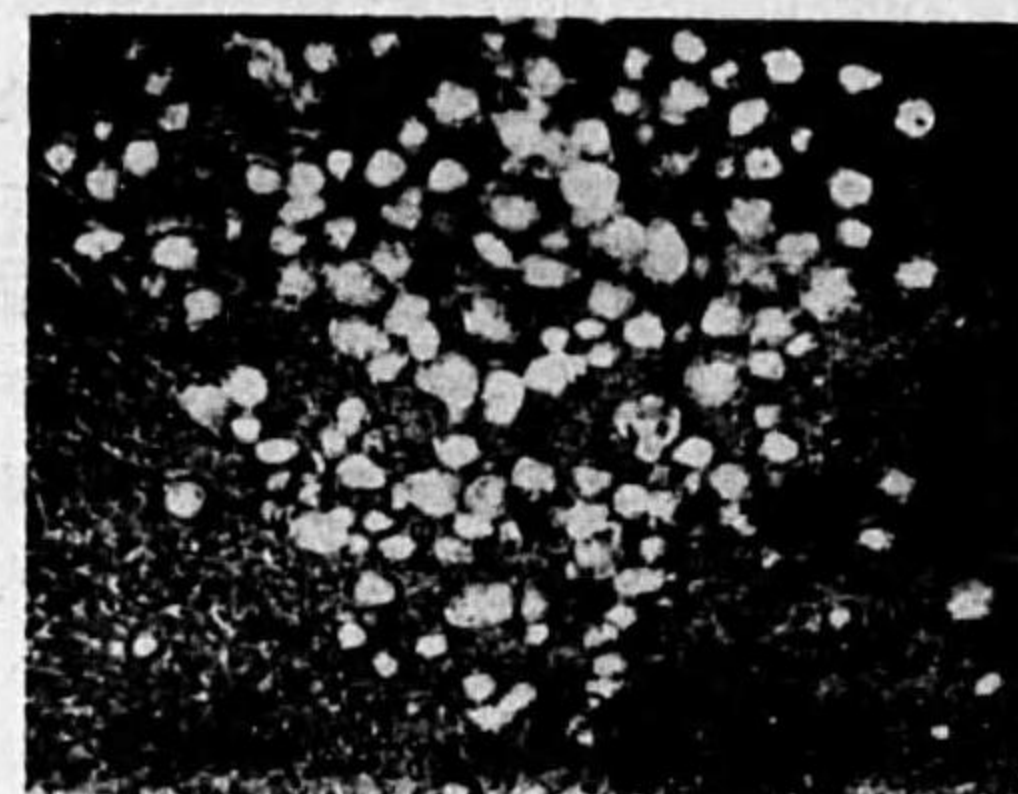
此の日朝鮮海峡に14時過發生したる雷雨は次第に東方に移動し、九州、四國、瀬戸内に及びたるも、雷鳴は一般に弱く、唯九州中部と、香川縣の瀬戸内海に面した地方とは相當の強雷ありしも、被害は別になし。

尙、別に兵庫縣市川下流域に19時頃發生せる雷雨は雷鳴は可成り強く大體東方に進行せるも小範圍に止りたり。(第27圖)

6 月

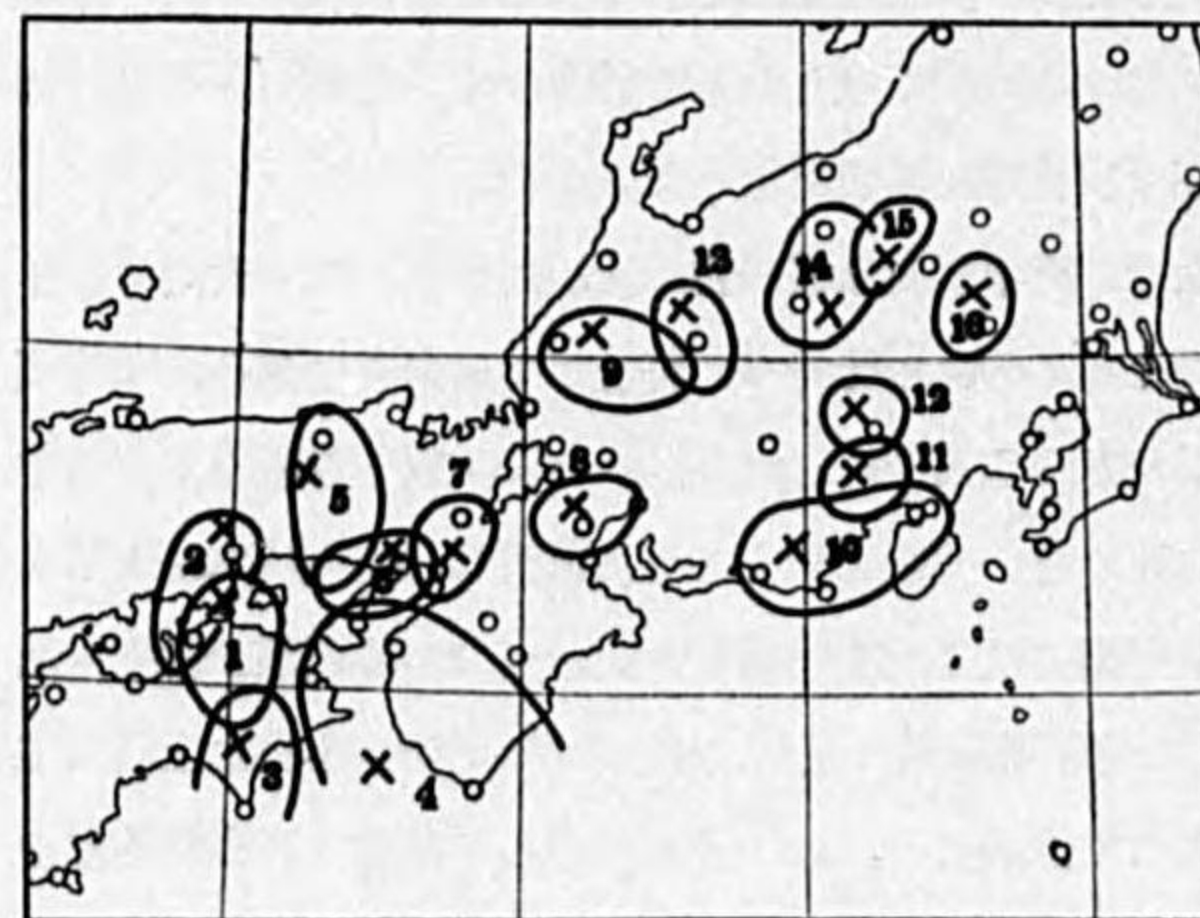
8日の降雹 岡山縣測候所報告 8日縣下地方は氣壓758 耗より756 耗の中間にありて氣層頗る安定を缺き、同日午後3時頃より本縣北部地方に雷雨を起せり。此の雷雨は眞庭郡の南東部に始り、苫田郡南部、久米郡北部を経て勝田郡に至り、英田郡に終りたるものゝ如し。而して降雹を伴ひたる區域は津山市を中心とする所謂津山盆地にして東西約30 耗、南北は幅員の大なる所に於て約3 耗に亘り、就中被害の最も激甚なりしは津山市及同市の北東方なる苫田郡高野村地内にして津山市は被害面積144町5反歩に上り高野村は損害金額38,370圓、東苫田村は2,450圓に達したりと云ふ。(寫眞参照)

9日本州中部の雷雨 正午には低気圧帯は西比利亚より支那大陸に至るものと、日本の南東洋上とにありて内地は



8日岡山縣下の降雹(鷄卵大)

第28圖 範圍及び發生場所



9日本州中部に於ける雷雨

高気圧の範圍内となりたるも氣壓配置は可成り複雑にして、本州中部と桃子東方沖合とに小低気圧存在し、内地は風弱く晴天の所多し。18時の氣壓配置は大體正午と大差なきも小低気圧は九州中部と瀬戸内海とにありて曇の所多く、風は房州方面にては多少強きも他は弱く、不連続線は水戸附近より濱松、潮岬、室戸岬を通り、九州の中部に出でたるもの、瀬戸内海を縦断してゐるもの、秋田・新潟を通り長野北方に達してゐるもの等あり。

此の日四國より關東に亘り雷雨發生數頗る多く其の數37回に上り落雷降雹の被害も相當にあり、主なるものは正午より18時の間に發生せり。之等主なる雷雨の發生時刻・發生場所を示せば次の如し。

1. 17時20分 岡山市北方に發生
2. 12時40分 岡山縣旭川中流域西方に發生

3. 20時35分 四國劍山南方に發生
4. 6時25分 紀伊水道に發生
5. 12時35分 兵庫縣西部野尻山西方に發生
6. 13時10分 神戸市北方20 耗の地點に發生
7. 12時20分 大阪市北東附近に發生
8. 10時30分 三重・滋賀縣境仙ヶ岳附近に發生
9. 13時16分 福井・石川縣大日山西方に發生
10. 17時10分 大井川中流域に發生
11. 11時10分 甲州七面山西方に發生
12. 13時20分 富士川上流域に發生
13. 12時16分 飛騨高山町北西方に發生
14. 13時20分 鉢伏山に發生
15. 13時55分 淺間山に發生
16. 17時20分 桐生市南西方に發生

以上の雷雨の際に於ける落雷及降雹の被害は次の如し。

(2)雷雨の際岡山縣阿哲郡南部、川上郡東部、小田・淺口兩郡及び吉備郡西部に鷄卵大の雹降り、就中被害の最も著しき地方は阿哲郡内・萬歳村、石盤郷村、本郷村、川上郡内・松原村、落合村、成羽町、小田郡内・宇戸村、矢掛村、吉田村、小田村、中川村、淺口郡内・内里庄村、鴨方町等にて各町村に於ける農作物の損害見積金額を算出せしものみにても實に76,674.70圓の巨額に達したり。

(5)雷雨の際兵庫縣に14時より16時位までの間に數箇所落雷あり、兵庫縣川邊郡小濱村にて焼失家屋1棟、同縣神崎郡甘地村に震死者2名を出したり。

(6)雷雨の際大阪府にて14時頃數箇所落雷、大阪市外千里山放送所アンテナにも15時57分落雷し9分間放送を中止したり。

(8)雷雨の際三重縣下に11時40分頃落雷3箇所あり、鈴鹿郡にては瓦10枚破損、三重郡にては變壓器及び「スイッチ」破損したり。

(9)雷雨の際岐阜縣本巢郡及び山縣郡に15時頃降雹あり、大なるは長徑3耗、小なるは1耗、平地12耗、吹溜17耗も降り積り、桑、蔬菜、麥、果樹等に被害甚だしく損害高約1,000圓なりと云ふ。

(10)雷雨の際愛知・靜岡兩縣に22時頃より23時の間に11箇所位の落雷あり、靜岡縣磐田郡にては家屋1棟焼失、小笠郡にては1棟焼失、1棟半焼、濱名郡にては4棟焼失し、志太郡藤枝村にては豪雨のため21時より22時30分

の間に於て浸水家屋200戸を出せり。

(14)雷雨の際長野縣北佐久、小縣、諏訪郡に14時乃至15時、20分より30分間、五錢白銅貨大の降雹ありて、桑、麥、果樹、蔬菜等の被害高は約4,400圓なりと云ふ。

(第28圖)

24日近畿より東海道に亘る雷雨 本日内地は低気圧帯内にありて日本海に低気圧があり、朝の中は曇と雨との所が半々位にて後次第に曇の所が増えて風は一般に弱し。正午には不連続線は紀伊水道より北に走り日本海に抜け、他の一つは九州を南北に縦断せり。

此の日九州より關東にかけて發生せし雷雨は60回の多きに達し、優勢なる雷雨は主として午後發生せり。主なるものを次に掲ぐ。

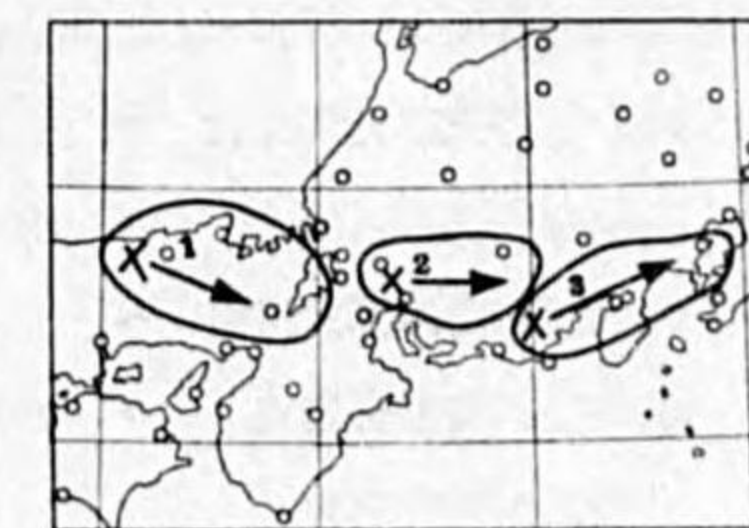
1. 14時30分 鳥取市南方20 耗の地點に發生
2. 17時50分 名古屋市北西方に發生
3. 22時00分 大井川中流域に發生

(1)雷雨の際兵庫縣城崎郡に3箇所落雷したるも被害少し。

(2)雷雨の際愛知縣東春日井郡に3箇所、寶飯郡に1箇所、中央線多

治見、定光寺間のトンネルに落雷、何れも電燈電柱を破壊したるのみにて別に被害はなし。(第29圖)

第29圖 範圍及び發生場所



24日近畿一東海道に於ける雷雨

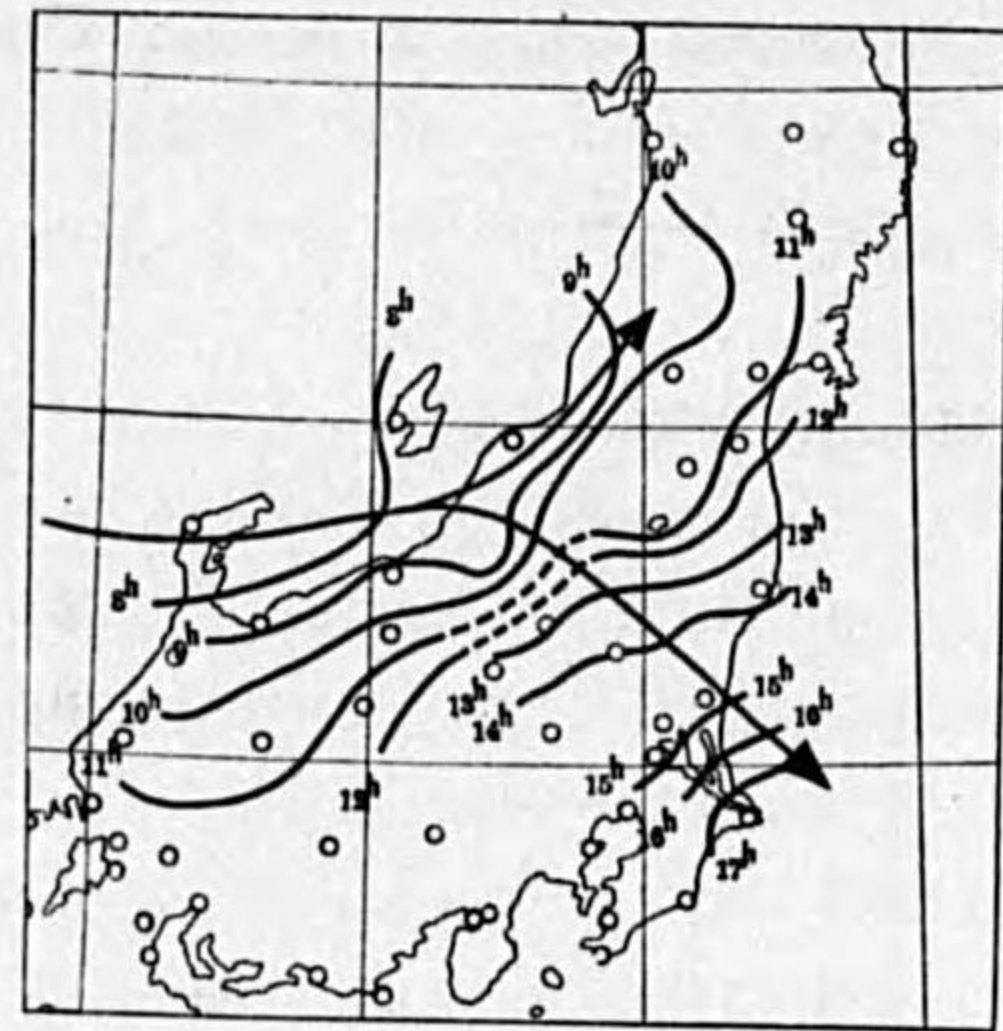
昭和8年度分

4 月

28日本州中部を横断せる雷雨 6時には高気圧は黄海西部の渤海灣を掩ふもの、三陸東方洋上にありて、低気圧は日本海中部にあり。颱風は小笠原の南東洋上にあり。

此の日7時半頃能登半島西方日本海上より押し寄せたる雷雨は相當優勢なるものにして能登半島中央部に達し始めて雷鳴し同半島を横切り、大體海岸沿ひに東北東に進み、9時頃山形縣南部地方に至り、10時頃消失せり。尙此の雷雨は信濃川下流域に於て9時頃分れて南東に時速平均30耗の速度にて進み、擴大しつつ、福島縣中央部及び仙臺市附

第30圖 同鳴線及び進路



28日 本州中部を横断せる雷雨

近を通り、14時頃鹿島洋に出て遠く洋上に去りたる模様にて、千葉縣銚子にては17時58分まで雷鳴を聞きたり。(第30圖)此の雷雨は範圍廣大なる割合に落雷少く富山縣上新川郡月岡村に1箇所ありたるのみなり。降電箇所は相當ありたれど各所に被害なし。降電箇所を列記す。

- イ 岐阜縣郡上郡奥明方村
- ロ 長野縣小縣郡和田村
- ハ 新潟縣佐渡郡姫崎
- ニ 福島縣耶麻郡吾妻村
- ホ 福島縣西白河郡白河町
- ヘ 栃木縣河内郡豐郷村
- ト 茨城縣多賀郡神峯山
- チ 水戸市
- リ 乗鞍岳西側麓地方

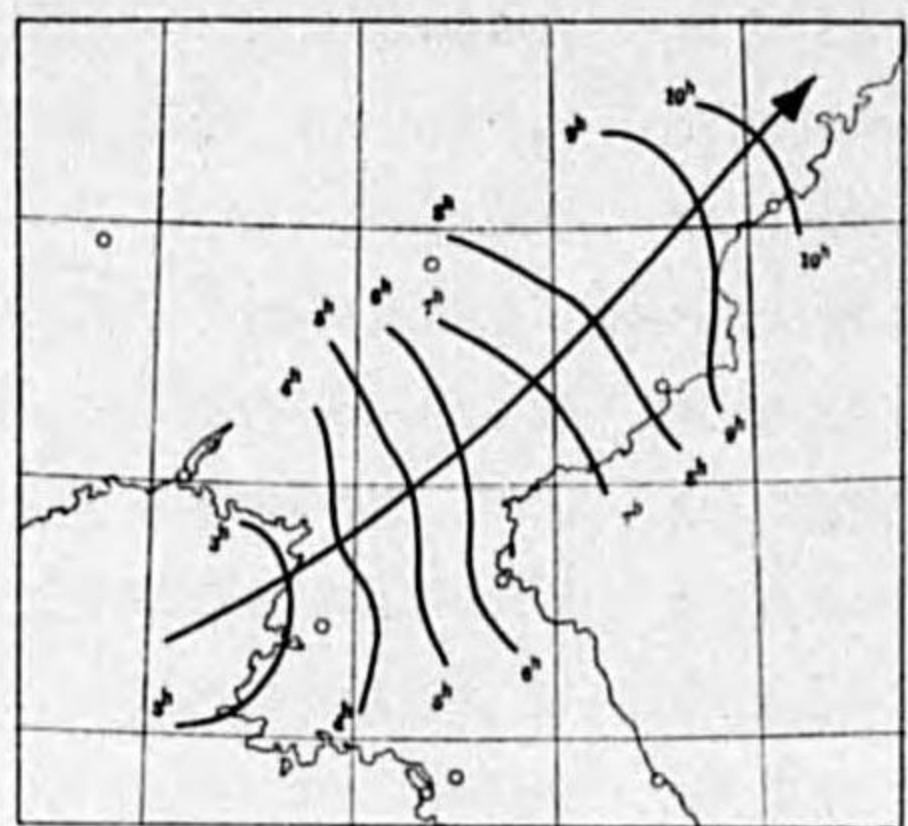
5 月

2日 朝鮮北部の雷雨 1日18時には高氣壓は本邦東方洋上にあり、低氣壓は西比利亞、支那中部にあり、支那中部のものは徐々に東方に進行中なり。黄海は霧、支那東海、九州・四國は曇、本州以北は晴なり。

此の日3時頃朝鮮大同江河口西方海上に始發したる雷雨は時速平均約25軒にて北東に進み平安南・北道境を進み、咸鏡南道を8時頃通過し、10時頃豆滿江下流域に達し、尙露領に進みたる模様なれどもその後の詳細なる報告な

き爲め消滅期及び場所等は不明なり。(第31圖)

第31圖 同鳴線及び進路



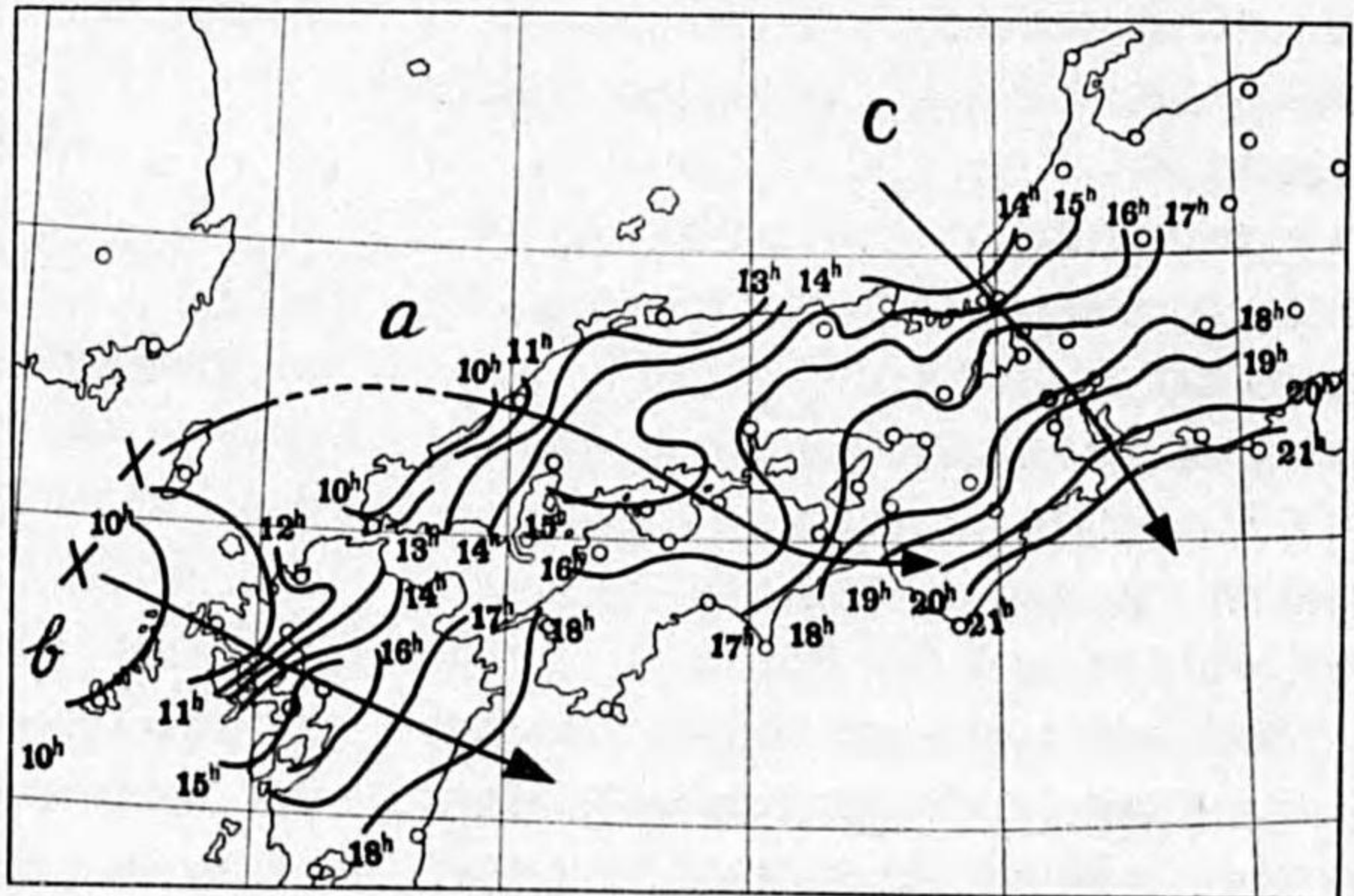
2日 朝鮮北部に於ける雷雨

17日 本州西部・九州・四國に於ける雷雨 6時には高氣壓は小笠原諸島、樺太にあり、低氣壓は滿洲、黄海、日本海南部、北海道東部にありて氣壓傾度は頗る緩慢にして本州の中部、朝鮮南部は雨、黄海北部は霧、その他は概して曇なり。

此の日(a)雷雨は4時頃對馬南西方海上に發見し、徐々に同島を北に廻り、7時半頃より東に進み、10時頃島根縣西部地方より上陸し、時速平均約50軒にて進路を東南東に變じ、14時頃廣島縣中央部を通過し、16時頃四國の東部を経て18時過紀伊水道を渡り紀州に入り(c)雷雨と合したる模様なり。

(b)雷雨は9時半頃朝鮮海峽南部に發見し、時速平均約

第32圖 同鳴線及び進路



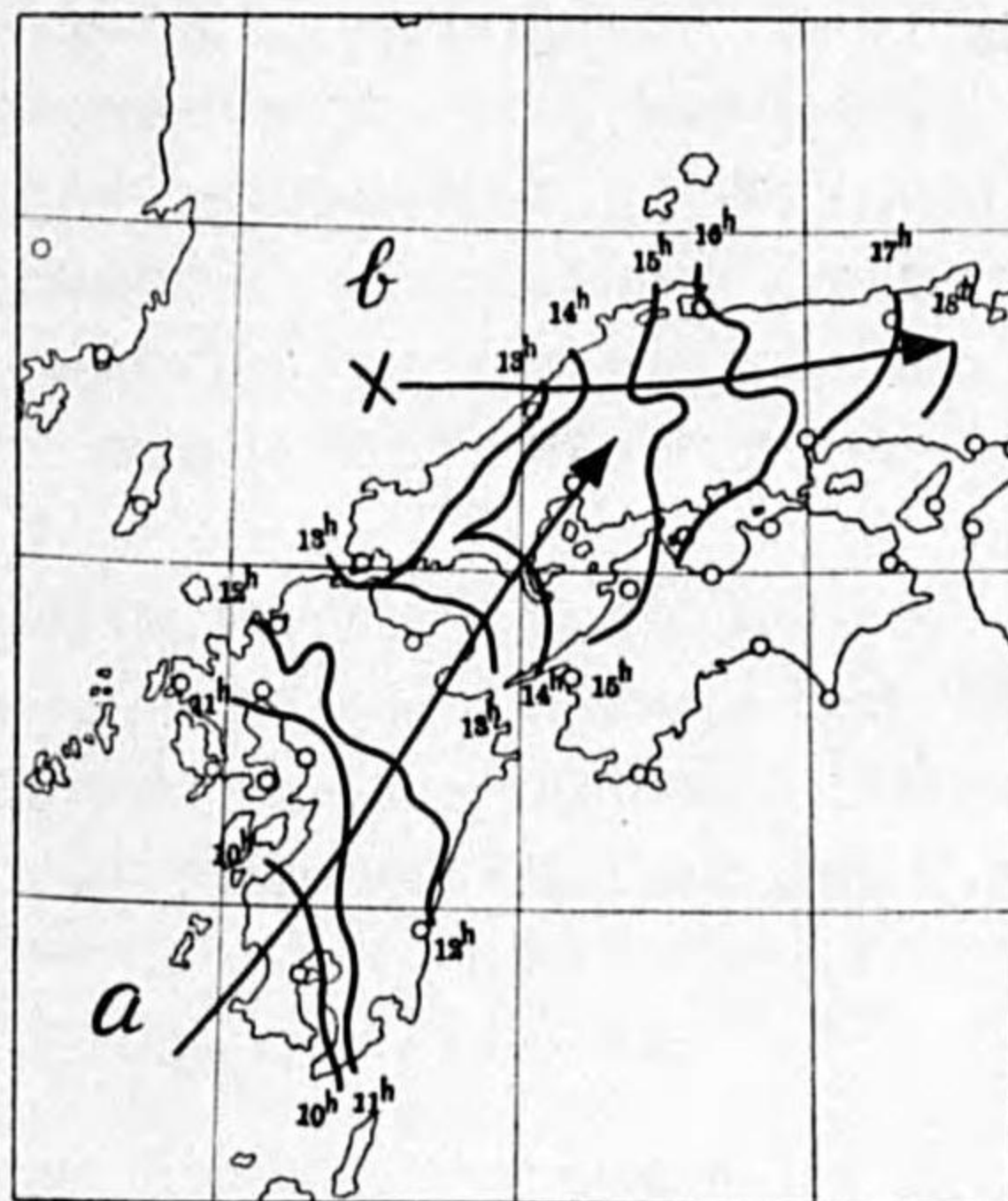
17日 本邦西部に於ける雷雨

30軒にて南東に進み、11時頃佐賀縣中央部を通り、12時より15時頃迄に有明之海北部を渡り、熊本・宮崎縣の北部を通過し、18時頃日向洋に出て消散したる模様なり。此の雷雨にて福岡市に1箇所落雷し變壓器を焼失せり。

(c)雷雨は14時頃若狹灣沖合の日本海上より押し寄せ來たり15時頃敦賀附近に上陸し、時速平均約30軒にて南東に進み、17時頃琵琶湖の北部を通り18時より20時の間に伊勢灣を縦断し遠江洋に進み、熊野洋、遠江洋沿岸にては21時半頃迄雷鳴を聞きたれどその後の模様は不明なり。此の雷雨にて岐阜縣海津郡東江村(家屋半燒)、同郡西江村(牛1頭震死)、石津村(電話器破損)に落雷せり。此の三雷雨は本州中部以西全體を襲ひたり。(第32圖)

20日 九州・中國兩地方の雷雨 6時には高氣壓は中華民國北部、本邦東方洋上にあり。低氣壓は日本海北部、朝鮮、支那東海にありて氣壓の谷を形成す。不連続線は樺太より南西に此の氣壓の谷を通り支那東海に達す、北海道、朝鮮は雨、その他は概して曇なり。

第33圖 同鳴線及び進路



20日 九州・中國に於ける雷雨

此の日(a)雷雨は鹿兒島縣枕崎沖合より押し寄せたるものにして時速平均約60軒にて北東に進み、9時半頃鹿兒島縣西部に上陸し、10時より13時頃迄の間に熊本縣東部、大分縣中央部を通過し、13時過周防洋を渡り、14時頃山口縣東部に達し、15時頃廣島市東方地方に(b)雷雨と

合したる模様なり。

(b)雷雨は12時頃山口縣北方日本海上に發見して東北東に毎時平均約60軒にて進み、13時頃島根縣西部地方に上陸し、山陽・山陰道境を進み、15時頃七日迷山附近を、16時頃鳥取縣大山を、17時頃兵庫縣中央部に達し、18時過頃まで雷鳴せり。(第33圖)

10日 關東・本州中部・紀伊半島の降電 10日朝には三陸沖より關東地方を通過して南走する不連続線と、青森縣より日本海岸沿ひに南西に走り兵庫縣に達する不連続線とあり、此の爲めに9時頃より12時頃迄に關東・本州中部・紀伊半島に雷雨發生し各地方共降電あり農作物に大被害を與へたり。次に各測候所報告の概要を列記す。

宇都宮測候所報告 下都賀郡小山町外6箇町村に11時30分より12時迄雷鳴と共に大豆一拵指大の激しき降電あり、一時は6-9粒降りたり。農作物被害は1,200町歩、76,000圓餘の見積なり。

沼津測候所報告 13時及20時前後靜岡縣東部地方に發見したる雷雨は雨雲を伴ひ殊に富士山の南麓には小豆一拵指大の降電し農作物の被害甚大なりし模様なり。

熊谷測候所報告 北埼玉郡、北葛飾郡、秩父郡に降電あり、被害面積1,300町歩餘、見積價額12,200圓餘に上れり。

甲府測候所報告 東西山梨、東八代、中北巨摩、南北都留、甲府市に降電あり、農作物被害面積約6,500町歩、その見積價額約423,000圓なり。

神奈川縣測候所報告 縣下に0時過頃より7時頃迄に小豆一拵指大(徑5厘内外)の降電あり、被害面積約3,750町歩、見積價額264,000圓餘に上れり。

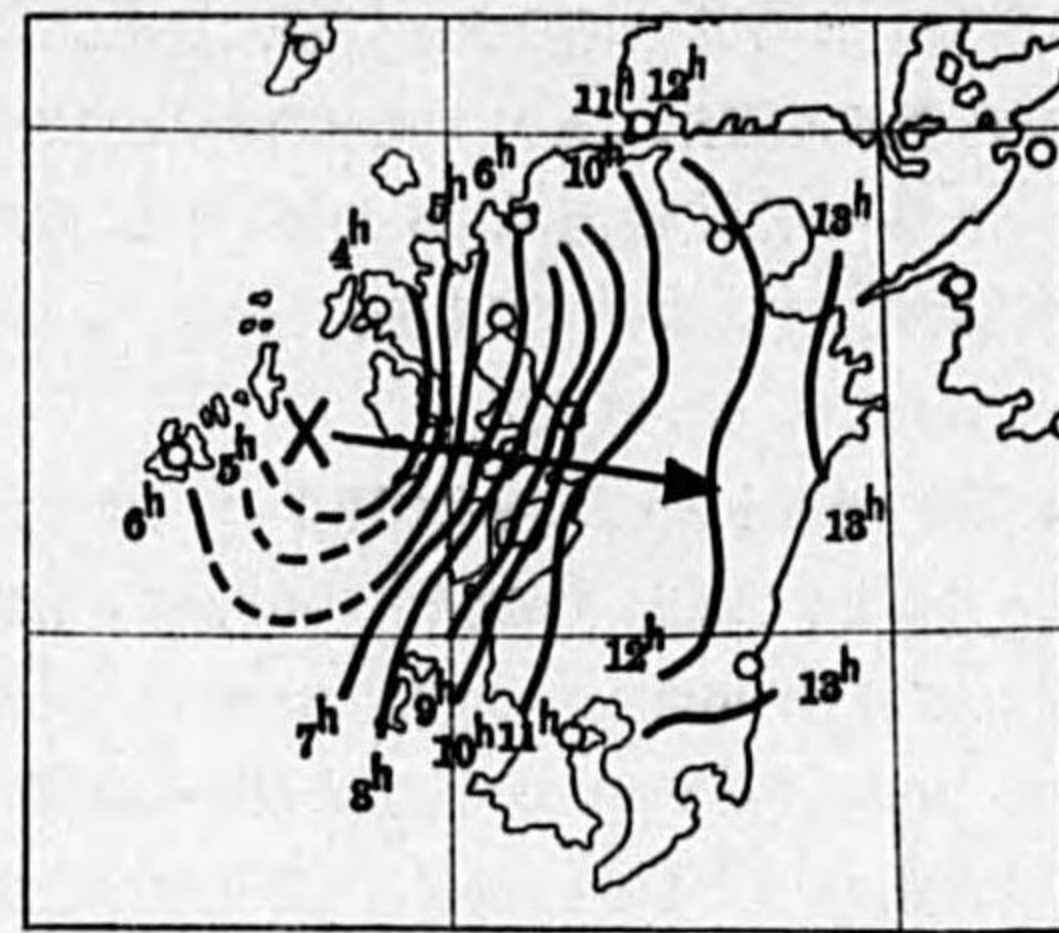
尙紀伊半島の降電は小豆一拵指大で別に大した被害はなき模様なり。

8 月

27日 九州の雷雨 6時の天氣圖に依れば高氣壓は本邦東方洋上にあり、低氣壓は西比利亞東部、朝鮮にあり。氣壓傾度頗る緩慢にして、朝鮮は雨、曇、その他は風弱く晴なり。

此の日3時過頃五島・長崎本土間海上に始發したる雷雨は毎時15軒の速度にて東南東に進み、8時頃島原半島に進み、9時頃より11時頃までの間に熊本縣を横切り、12時頃大分市、宮崎縣中部地方に進み、宮崎縣南部海岸地方にては15時50分、關門地方にては12時58分、大分

第34圖 同鳴線及び進路



27日 九州に於ける雷雨

縣南部海岸地方にては 13 時 40 分頃消失せり。此の雷雨は佐賀縣杵島郡福富村に 2 箇所落雷したるも被害なし。(第 34 圖)

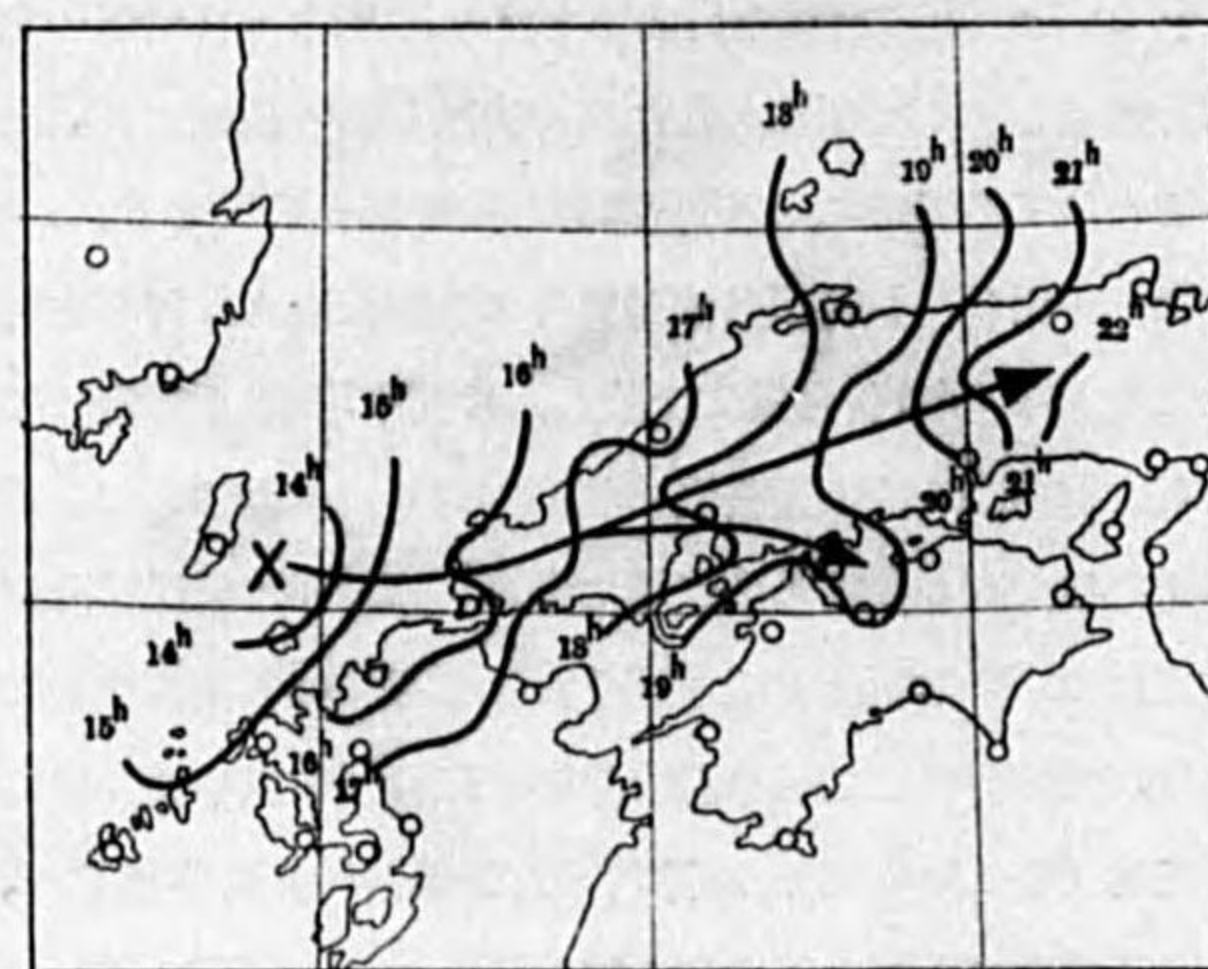
11 月

18日 中國地方の雷雨 12 時には前日奥羽東部海上にありたる颱風は千島東方洋上に去り、高氣壓は沿海州にありその勢力は本州北半を掩ひ、又漢口方面の高氣壓は支那東海、琉球、本州南方洋上に及び、低氣壓は日本海南部にあり。

此の日 13 時半頃對馬南東沖に發現したる雷雨は勢力相當優れたるものにして、時速平均約 60 軒にて東方に進み、15 時より 17 時過までの間に九州北部一帯を襲ひ山口縣西部地方にて進路を東北東に變じ、17 時頃山口縣東部地方に於て東・東北東の二派に別れたり。東進したるものは 19 時頃備後洋に達しその所にて 20 時頃消失せり。

又東北東に進みたるものは中國の中央を通過し、21 時半

第35圖 同鳴線及び進路



18日 中國地方に於ける雷雨

頃兵庫縣曉晴山附近に達し遂に 22 時頃消滅せり。此の雷雨の際小倉市(1 箇所)、隠岐後島(1 箇所)、松山市(2 箇所)落雷し、長崎縣東彼杵郡上波佐見村(1 箇所)、福岡縣南東縣境附近(3 箇所)、小倉市及びその附近(各 1 箇所)、下關市(1 箇所)、松山市(1 箇所)、兵庫縣神崎郡田原村(1 箇所)に降電したれど大なる被害なし。(第 35 圖)

21日 奥羽地方の雷雨 18 時には高氣壓は南滿洲・千島・九州・四國・沖繩にあり。低氣壓は日本海北部にありて日本海全體を掩ひ、不連続線はオホツク海より宗谷海峡を通り、日本海を南西に縦斷し朝鮮の南端を掠め黄海に達す。北海道東部及び樺太南部は降雨中にしてその他は概して晴なり。

此の日 19 時頃能登半島北方海上に發現したる雷雨は東北東に擴大したる模様にて、22 時頃佐渡北海上、22 時半頃男鹿半島の南西沖に達し、その所にて翌 1 時頃消滅せり。此の雷雨の範圍は北陸・奥羽の西半に及び。

第二篇 顯著及稍顯著雷雨一覽表

昭和 4 年度

1 月

日次	發 現		進行方向・經過道筋・範圍	消 失		強・性 弱・質	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
2 月							
14	0.30	五島列島北端北方沖	四方、範圍：佐賀、長崎縣	8.30	長崎縣中央部	強・停	
15	2.55	琵琶湖西部地方	東、滋賀、岐阜、三重縣界地方を通過し名古屋市附近に至る			強・進	
3 月							
18	14.17	能登北西海上	南、能登半島西側を南進し石川縣南部を通過し福井縣北部地方に至る	18.00	琵琶湖北方地方	強・進	▲2
28	17.00	徳島縣吉野川中流域	東北東、吉野川沿ひに紀伊水道に出て和歌山縣有田川流域より奈良縣南部地方に至る	翌 0.50	三重縣南部地方	強・進	55.5(4.30) 大阪府泉南郡深日村 50.0(13.00) 三重縣南牟婁郡木本町 54.6(16.00) # 北牟婁郡尾鷲町
4 月							
18 a	19.00	五島列島南方海上	北東、長崎市附近より上陸し有明之海北部を通り福岡縣南部に達し其の後發生したる雷雨と合す	九州北・西半に及ぶ		強・進	
b	19.10	鹿兒島縣川内川河口沖	東北東、鹿兒島縣北部を通り宮崎縣中央部を横斷し日向洋に出づ	翌 5.00	宮崎縣美々津川口附近	強・進	§1, 震死 1 名、牛 1 頭斃死
19 a	0.26	佐世保市南方	東北東、佐賀市附近を通り福岡縣南部にて前日の雷雨と合し大分縣半島部を過ぎ瀬戸内海に出て松山市北方地方備後洋に進み四國吉野川沿ひに紀伊水道に達す	3.40 釜山府 3.10 對馬 8.48 淡路島		強・進	§4, 家屋 2 棟燒失
b	12.55	兵庫縣武庫川中流域	東、京都市附近を通り滋賀縣南部地方、名古屋市南方、豊川上流域に達す	17.00	豊川上流域	強・進	▲2, §2
25	1.20	福岡縣沖ノ島西海上	東南東、關門海峡を通り周防洋西部に達す	3.21	周防洋	強・進	
5 月							
7	4.00	徳島縣吉野川上流域	東北東、「北東」吉野川沿ひに紀伊水道に出て、和歌山市より近畿を横斷し鳥羽半島に遠江洋、駿河灣、伊豆、大島、房總半島突端を通り洋上に去る。淡路島附近にて別れたるは大分灣を縦斷し淡川沿ひに琵琶湖に達す	14.23 千葉縣東方洋上 8.40 琵琶湖北部			▲2 64.0(12.30) 静岡縣引佐郡金指町 52.2(11.35) # 志田郡島田町 59.2(9.45) 静岡市 55.0(11.00) 静岡縣志田郡西谷津村 63.0(13.00) # 賀茂郡宇久須村
10	3.40	福岡縣沖ノ島北西海上	範圍：對馬、壱岐、山口縣北海岸地方、島根縣西部海岸地方	5.10 壱岐 5.25 島根縣濱田町		強・停	
11 a	18.05	天草洋西方海上	東、熊本縣南部に達す、九州一圓	22.00 大分縣中央部 翌 1.20 鹿兒島縣屋久島		強・進	▲2
b	21.00	四國南方海上	範圍：四國南半	翌 2.15 高知市 翌 4.48 愛媛縣宇和島町		中・停	▲1
12 a	11.00	徳島縣吉野川上流域	東北東、吉野川沿ひに紀伊水道に出て紀ノ川中流域に達す	13.10	紀ノ川中流域	中・進	▲7
b	12.08	岡山縣大川中流域	東北東、岡山縣中央部を通り兵庫縣南部、京都市南部を過ぎ琵琶湖に達す	17.38	琵琶湖	強・進	▲7
13 a	14.39	福岡縣遠賀川上流域	南々東、九州東側を通り宮崎市附近より日向洋に出づ	太平洋		強・進	▲5
b	17.21	愛媛縣堂ヶ森山	東北東、四國中央部を横斷し紀伊水道に出て紀ノ川沿ひに奈良縣に入り其上流域に達す	21.30	三重縣南部地方	強・進	▲7, §6, 和歌山縣有田郡箕島町にて落雷の爲め家屋 1 棟燒失
21 a	15.44	北海道十勝川中流域	東、「南西」北海道南東部一圓	15.45 日高國浦河町 18.20 根室國標津郡標津町		強・擴	▲3, 70.3(10.00) 根室國標津郡標津町
b	11.00	秋田縣御物川中流域	北東、範圍：秋田縣、岩手縣北西部	14.20	北上川上流域	弱・擴	

5 月					
日次	発 現 時・分 場 所	進行方向・経過道筋・範囲	消 失		記 事
			時・分 場 所	強・性 弱・質	
4 a	8.40 岐阜市北方掛妻川上流域	東、岐阜縣中部を通り長野縣駒ヶ嶽に至る	10.17	長野縣飯田市	中・進 ▲1
b	9.10 長野市附近	北東「南東」範囲：長野縣北部、新潟縣南部、群馬縣西部			強・進 ▲9
c	12.15 長野縣八ヶ嶽	東「南東」甲信武岳、武甲山を通り多摩川沿ひに東京湾に出て、房總半島中央部を横断し勝浦町附近より太平洋に去る	16.50	千葉縣東方洋上	強・進 ▲13
10 a	19.02 兵庫・岡山縣境	北東、範囲：兵庫縣、岡山縣東部、京都府北部	21.01 20.00	京都府北部 兵庫縣北部海岸地方	弱・進
b	15.24 長野縣上田市東	南々東、範囲：群馬、埼玉縣、長野縣北半、山梨縣北半	19.20 17.13 17.11	埼玉縣中央部 前橋市 甲府市	強・進 ▲2
11 a	12.38 琵琶湖北部	東南東、掛妻川中流域より愛知縣を横断し静岡縣境に至る	18.20	静岡縣天龍川流域	強・進 ▲6
b	8.30 岐阜縣高山町北東	北「南」範囲：富山縣、岐阜縣北半、長野縣西北部、新潟縣南部	15.54 14.20 15.30 15.55 13.50	新潟縣高田市 富山縣伏木町 淺間山方面 美濃國北東部 # 北西部	強・進 ▲13
c	15.05 長野縣藏崎	南々東、静岡縣黒法師岳、八高山を通り御前崎西方より遠江灘に出づ	18.25	御前崎	強・進 ▲5
d	13.05 前橋市南利根川合流点附近	南東、利根、多摩川の間を通り東京湾に出て、房總半島を横断し勝浦町附近より太平洋に去る	18.32 20.15 19.50	銚子市 房總突端 伊豆南端	強・進 ▲5
e	11.45 長野市南方	北「南東」範囲：長野縣北東部、群馬縣西部、新潟縣南部	12.45 15.10	高田市 榛名山附近	強・進 ▲10
f	11.00 岩手縣燒石山	北東、範囲：岩手縣	16.00	盛岡市北方	強・進 ▲2
12	10.00 秋田縣大石岳	北東、範囲：秋田、岩手縣以北	13.40	青森市	強・進 ▲1
13 a	12.00 秋田縣南部御物川上流域	北東、範囲：秋田縣東半、岩手縣西半	16.22	盛岡市	強・進 ▲1
b	13.45 宮崎縣諸塚山	南東、範囲：宮崎縣、日向洋に横がりに出づ	14.44	宮崎市	強・進 ▲1
18	19.30 五島列島北西海上	南東、五島列島中部を横断し、天草洋を通り、鹿兒島縣北部地方を過ぎ太平洋に去る	20.20	宮崎縣南方海岸地方	強・進
19	13.25 十勝國西方國境ビバイロ岳	北東、帯廣市南方を通り釧路市北西地方に至る	16.37	釧路市	強・進
23 a	10.20 静岡縣安倍川口	北東「北々東」駿河湾を渡り、箱根南部を通り、相模湾を横断し、横濱、東京を過ぎ茨城縣を縦断し石巻湾に至る	20.56	宮城縣石巻町	強・進
		139.4(19.35) 埼玉縣入間郡所澤町 126.7(22.52) 前橋市 107.4(18.50) 宇都宮市 125.0(29.00) 茨城縣鹿島郡鉾田町 144.4(27.30) # 筑波山 180.0(28.30) # 鹿嶋郡鹿嶋町 143.7(23.40) # 多賀郡大津町 144.6(27.11) 福島縣白河郡白河町	123.0(24.00) 福島縣南會津郡田島町 305.3(28.36) # 石城郡小名濱町 274.1(28.00) # # 平町 347.0(30.09) # 双葉郡富岡町 127.8(27.00) # 信夫郡川俣町 112.7(26.06) 福島市 208.5(29.50) 宮城縣亶理郡亶理町 136.5(23.30) # 牡鹿郡石巻町		関東一帯とその附近に豪雨ありたり 51.2(18.05) 甲府市 125.2(16.00) 神奈川縣津久井郡市川村 115.0(16.00) # 橋樹郡溝口町 100.0(21.25) 横濱市 147.1(15.20) 神奈川縣三浦郡剣ヶ崎 105.5(24.20) # # 親香崎 144.3(16.00) # # 城ヶ島 120.8(19.35) 東京市 122.0(19.30) 千葉縣山武郡東金町 82.4(20.30) 銚子市 115.4(25.00) 埼玉縣秩父郡中津川村 145.3(20.26) # 熊谷町 122.0(15.00) # 比企郡松山町
b	15.06 慶尚北道英陽郡英陽面	四方、範囲：慶尚北道	18.30 17.20 17.03	迎日郡浦項面 奉化郡乃城面 金泉郡金泉面	強・進 ▲5, 安東、榮州にては降雹の爲め農作物被害甚大なり
24	12.55 岡山縣吉井川中流域	東、兵庫縣南部海岸沿ひに大阪市北部を過ぎ、京都府南部を通り三重縣靈山寺山附近に至る	15.40	三重縣靈山寺山	強・進 ▲8, 多1, 兵庫縣赤穂郡赤穂町、鹽屋村、板越村、尾崎村、新濱村等に2程大の降雹あり農作物に多大の被害を與へたり岡山縣和氣郡に親指大の降雹あり農作物被害甚大なり
25 a	16.00 廣島縣中央部北寄地方	南東、愛媛縣東部に至る	22.15	吉野川上流域	強・進 ▲3, 多1, 廣島縣品部郡岩谷村に降雹し1戸全壊す
b	13.25 慶尚北道中央部	南東、範囲：慶尚北道	17.35	密陽郡密陽面	強・進 ▲4, 多1, 義城面にては農作物全滅、星州にては大麥に被害を蒙りたり

6 月					
日次	發 現 時・分 場 所	進行方向・経過道筋・範囲	消 失		記 事
			時・分 場 所	強・性 弱・質	
c	18.05 琵琶湖北部	四方、範囲：近畿、關西西部、山陽・山陰の東部	21.40 22.30 23.25 21.40 23.10	兵庫縣豊岡町 淡路島北部 名古屋市 奈良縣大臺ヶ原山 和歌山市	強・進 ▲1
30	北海道常呂川中流、トコロ川、ムカ川合流地	東南東、範囲：北海道東部	19.00	根室國西別川上流	強・進 ▲1
6 月					
12	14.20 新潟縣黒根山	東北東、新潟縣中部より福島縣北西部に至る	19.00	阿賀野川上流	強・進
15	14.50 北海道後志國西方日本海	東北東、尻別川沿ひに夕張川流域に進み、空知川上流域に至る	20.00	夕張嶽	中・進
16 a	1.30 山口縣厚狭川上流域	東、安藝海、備後洋を通り香川縣を過ぎ、淡路島、大阪湾を通り、紀ノ川沿ひに三重縣南部より熊野灘に去る	8.27	熊野灘	強・進 §3
b	13.42 淺間山	南東、利根川沿ひに埼玉縣東部に、山梨縣北東部を通り神奈川縣に至る二つに分れた	16.30 17.00	荒川下流域 神奈川縣中央部	強・進
18	14.30 秋田縣北東部	北、「東、南」範囲：奥羽北半	16.50 16.40 19.00	岩木川中流域 岩手縣手庭嶽 # 燒石山東	強・進
19	2.00 秋田縣西方日本海上	東北東、奥羽北半、八郎湯より岩手縣北西部に至る	8.00	青森縣馬淵川中流域	強・進 §N
22	0.50 秋田縣能代川口西方日本海上	東、能代川沿ひに進み、馬淵川上流域に至る	5.15	馬淵川上流域	強・進
24	10.54 新潟縣南西部不動山	北東、福島縣北西部を通り、宮城縣を縦断し北上川下流域に至る	21.22	北上川流域	強・進 §1
25	3.00 新潟縣北部鷲巢山	東、山形縣南部を通り宮城縣中央部を横断し太平洋に去る	6.44	太平洋(金華山沖)	中・進
26 a	14.16 鹿兒島縣南西海上	北東、鹿兒島縣、宮崎縣を縦断し豊後水道に出づ	21.12	豊後水道	強・進
b	16.00 福岡縣小倉市附近	南西、範囲：福岡縣、山口縣西部	21.05 20.32	沖ノ島 大牟田市	強・進 §3
27 a	11.55 松本市南方	東、關東中央部に至る	19.30	筑波山	強・進
b	16.38 松本市南方	北西、富山縣を通過し能登半島中部に至る	19.00	能登半島	強・進
7 月					
8 a	1.24 九州南方海上	北、九州西部海岸地方を通過し日本海に出づ	13.00	鳥帽子島	強・進
			93.1(21.37) 98.5(6.30) 52.7(9.47)	鹿兒島市 宮崎縣宮崎郡田野村 熊本市	§3, 長崎縣南松浦郡崎山村にては降雹の爲め即死1名、家屋1棟焼失せり 90.5(8.35) 鹿兒島縣川邊郡杜崎町 118.0(12.24) # 掛箱郡指宿村 48.5(2.00) # 肝屬郡鹿屋町 100.7(3.00) # 嶺南郡志布志町 114.8(2.10) # #
b	8.48 四國足摺岬南方海上	北、四國西部地方を襲ふ	13.40	松山市	強・進
c	16.35 淺間山	東南東、利根川沿ひに筑波山西方に至る	21.20	筑波山西方	強・進 53.8(3.40) 埼玉縣大里郡玉井村
9	13.45 三重縣雲出川上流	北、滋賀縣東部地方を通過し三國岳に至る	17.22	滋賀、岐阜、福井縣境三國岳	強・進
10	1.30 福岡縣矢部川下流域	東「西」範囲：長崎、佐賀縣、福岡縣南部、熊本縣北部、大分縣	5.56 8.02	大分市 佐世保市	強・進 61.1(31.25) 大分市 116.4(12.25) 佐世保市 93.5(不明) 佐賀縣杵島郡武雄町 54.9(9.22) 福岡縣八女郡羽犬塚町
11	14.42 淡水溪上流域	南西 範囲：臺北、新竹州	69.2(2.00) 53.0(2.25)	新竹州 新竹	強・進
13 a	14.27 甲信武岳	南々西「西」富士山西方より安倍川中流域に進み西に向ひ愛知縣豊川上流域に至る	19.20	愛知縣東部地方	強・進 ▲1

日次	發 時・分	現 場 所	進行方向・經過道筋・範圍	消 時・分	失 場 所	強・性 弱・質	記	事
c	6.10	南滿洲	東南東、鴨綠江河口方面より清川江中流域を通り大同江上流域を過ぎて成鏡南道南部地方に至る	16.20	成鏡南道法洞	強・進	90.0(5.00) 89.5(5.45) 52.5(1.10)	徳島縣海部郡穴吹町 那賀郡椿泊町 勝浦郡小松島町
10 月								
8	10.22	静岡縣南方太平洋	北東、伊豆半島東側を通り相模洋を横断し千葉縣を縦断し同縣北東部に至る	14.50	銚子市	中・進		
16 a	18.09	山口縣今津川口沖	東北東、山陽海岸地方を通り岡山縣大川下流域に至る	20.45	大川下流域	強・進		
b	17.35	四國南西鬼ヶ城山	東北東、範圍：四國南部	22.59	高知縣沖	弱・擴		
c	19.50	忠清南道半島部	南、海岸沿ひに全羅北道海岸地方に至る	20.15 21.30	全羅南道木浦 全羅北道井邑	強・進		
17	12.10	北海道石狩川口北西沖	北東、範圍：北海道西部	16.00 15.48 16.29	北見國オム川口 旭川市 後志國朱太川口	強・擴		
21 a	4.20	能登半島七尾灣	南東、範圍：能登半島、岡山縣、新潟縣南部、岐阜縣北部	7.30 7.00	岐阜縣高山町 新潟縣西頸城郡能生町	強・擴	▲2	
b	16.40	北海道釧路灣	東「南西」範圍：北海道南部、青森縣北部	20.35 22.10	青森縣津輕半島北部 日高國浦河町	中・擴		
11 月								
6	21.29	和歌山縣湖岬南方沖	停滯、範圍：三重縣南部、奈良縣南部、和歌山縣南部、高知縣室戸崎	23.38 23.05 21.45	三重縣度津郡湖岬 室戸崎	中・停		
7	1.00	静岡縣南方洋上	北東、伊豆半島南方沖大島を過ぎて千葉縣南部に至る	6.24	勝浦町	中・進	56.5(4.22)	千葉縣安房郡布良
19	3.35	佐渡島北西海上	東南東、佐渡島を通り新潟縣阿賀野川下流域に至る	7.50	阿賀野川下流域	強・進		
24	16.35	長崎縣五島列島と彼作半島との中間海上	東南東「南々東」彼作、島原半島を通り、天草上島を過ぎ鹿兒島縣北部に至る	翌 1.00	鹿兒島市	強・進	▲2, §2	
25	16.05	高知縣四萬十川下流域	東北東、範圍：高知縣	21.48	高知縣東部半島	中・擴		
29	17.25	高知縣室戸崎南方海上	北、室戸崎方面を通り、徳島縣中央部を過ぎ香川縣東部に至る	21.55	香川縣東部	強・進	84.2(22.42) 81.5(12.30) 100.0(5.30)	室戸岬 高知縣安藝郡馬路村 徳島縣海部郡穴吹町
12 月								
7	17.05	青森縣西部海上	南、範圍：青森縣西半、秋田縣	19.00	秋田縣南東部	強・擴		
17	9.45	鹿兒島縣南西海上	東北東、西半島を横断し太平洋に去る	13.00	宮崎縣南部	強・進		
26	18.30	能代川中流域	南、範圍：秋田縣	22.00	秋田縣南東部	強・擴		
昭 和 5 年 度								
2 月								
23 a	13.00	五島列島南西海上	東北東「東」五島列島南部、長崎縣中央部、有明之海中央部、菊池川流域阿蘇岳	22.00	大分縣南西部地方	強・進	§2 長崎縣南高來郡深江村、嶺1頭斃死 67.3(12.00) 島原半島中部 72.0(8.30) 三角半島	
b	8.54	濟州島西方海上	北東、全羅南道、慶尙南道、慶尙北道を通り日本海に去る	20.08	日本海	強・進		

日次	發 時・分	現 場 所	進行方向・經過道筋・範圍	消 時・分	失 場 所	強・性 弱・質	記	事
24	0.00	琵琶湖北部	北東、福井、岐阜縣境を通り富山縣を北東に通過し海に出づ	5.24	新潟縣南西海上	強・進		
26	13.05	鳥根縣濱田町南東地方	東「南」廣島縣北東部を通り岡山縣中央部に達す、廣島市西方地方に達す	17.20 17.05	岡山縣東部地方 山口縣南東部海岸地方	強・進	§1	
27	2.00	臺北市西方	範圍：臺北、新竹州	5.00 7.00	鼻頭角 新竹州南部地方	強・擴		
3 月								
2 a	20.00	五島列島南西海上	北東、長崎縣中央部を通り遠賀川中流域に達す 範圍：九州北半	翌 2.30 # 0.39 # 9.00	關門地方 對馬南部 宮崎縣北西部	強・進	§2, 57.1(10.40) 志岐島 52.9(35.40) 佐世保市 77.5(27.40) 五島大瀨崎 60.0(17.30) 福岡市南方地方	
b	18.10	阿蘇岳北方山嶽地方	範圍：福岡縣南部、熊本縣北東部、大分縣、宮崎縣北西部	22.00 20.50	大分縣北部 南東海岸地方	強・擴	195.4(24.00) 三國嶺附近 85.0(16.00) 大分縣群川流域 66.1(6.35) 大牟田市北東地方	
3 a	2.20	五島列島南西海上	北東「東」長崎市附近、有明之海中央部、福岡縣南東部地方、周防洋を渡り山口縣東部地方に達す	7.40 9.58 9.30	鳥根縣西部地方 松山市 宮崎縣北部地方	強・擴	§1, 85.0(1.00) 大分縣北部地方 70.6(15.00) 五島南部地方 113.5(18.00) 大牟田市附近 52.7(12.00) 關門地方	
b	0.40	鹿兒島縣北西部地方	範圍：熊本、宮崎縣南部、鹿兒島縣	5.45 3.20	宮崎市 鹿兒島市	強・擴	§1, 53.1(4.30) 熊本縣南西部海岸地方 56.4(6.20) 鹿兒島縣北西部地方 93.2(35.00) 宮崎縣一瀬川上流	
c	6.00	鹿兒島縣南西海上	北東、枕崎附近を通り櫻島附近に達す 範圍：鹿兒島縣、宮崎縣南半	9.40 10.30	宮崎市 屋久島	強・進	§1	
13	15.03	彦根市北方地方	北東、岐阜縣北西部を通り北部地方に達す 範圍：岐阜縣、滋賀縣北東部、長野縣中央部、西部、三重縣北部	20.22 21.10	富山縣北東部海岸地方 松本市	強・進	▲8, §4, 12.40(20.30) 三重縣北部地方、岐阜縣郡上郡奥那村に人事不省3名あり	
14 a	5.45	長崎縣と五島との中間海上	北「東」範圍：長崎縣、熊本縣北部	14.30 10.45	對馬北部 宮崎縣北西部	強・進	▲9, §1	
b	17.20	福岡市東方附近	範圍：九州北半(長崎縣を除く)			強・擴	▲12	
c	4.03	濟州島南西海上	北東、濟州島附近を通り朝鮮海峽を北東に進行す 範圍：朝鮮南端地方、對馬、壹岐、五島列島	16.20	日本海南部	強・進	▲9	
15 a	6.30	五島列島北西海上	東南東、長崎縣を通り有明之海を渡り熊本市東方に達す	10.47	熊本市東方	強・進	▲5	
b	11.56	能登半島西方海上	東北東、石川縣中部を横断し海岸に沿ひ新潟縣南西部海岸地方に達す	14.31	新潟縣南西部海岸地方	強・進		
16	14.20	阿武隈川上流	南々西、茨城縣西部を通り筑波山南方地方に達す	17.49 19.28	筑波山南方地方 銚子市	強・進	▲6	
27	10.00	澎湖島南西海上	東北東、澎湖島濁水溪に沿ひ花蓮港北方附近を通り太平洋に去る	20.15	太平洋	強・進	▲1, 59.8(6.00) 臺中州大肚溪下流域 59.7(6.00) 臺中州濁水溪中流域 140.2(11.00) # 淡水溪中流域 107.8(7.25) # 臺南市 77.0(6.00) # 曾文溪中流域	
28	6.15	臺南市西方海上	東、淡水溪中流域を通り臺東縣北部地方を過ぎ太平洋に去る	22.00	太平洋	強・進	93.8(4.00) 臺中州淡水溪上流域	
4 月								
10	2.05	九州南西海上	北々東、長崎縣中部、佐賀縣中部に至る 範圍：九州全體	7.30 9.20 8.20 12.25	對馬南部 福岡市南西部 大分縣中部地方 宮崎市	強・進	§3+N	
11	1.00	京都市南部地方	東、滋賀縣南部、三重縣北部、伊勢灣北部、愛知縣を通り静岡縣西部に達す	7.30	天龍川下流域	強・進	▲1	
19	15.39	仁川南東沖合	北東、範圍：朝鮮中部一國	21.20 23.20 21.08	江原道原州 咸鏡南道館坪里 平壤	強・擴		
20 a	6.30	朝鮮慶尙南道洛東江中流域	東北東「東」對馬北海上より鳥根縣東部、鳥取縣、兵庫縣北部、京都府滋賀縣北部、岐阜縣南部を通過し同縣東部地方に達す。九州北部地方より四國、瀬戸内海全部を襲ふ	翌 3.00 # 岐阜縣東部笠木山附近 17.51	淡路島	強・進	▲22, §4, 廣島縣沼隈郡瀬戸港沖漁船に落雷震死2名、火傷2名、人事不省2名 京都府天田郡上豊富村にて震死1名	

日次	現 場		進行方向・経過道筋・範囲	消 失		強・性 弱・質	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
b	17.40	松山市西方海上	東南東、範囲：安藝海、四國中央地方	20.34	室戸岬	強・擴	
c	15.50	福井市東方九頭龍川中流域	北東、石川縣南部地方、富山縣西部を通り富山灣より海岸沿ひに直江津町沖合に達す	翌 2.30	佐渡島	強・進	福井縣大野郡富田村にて震死1名
d	13.40	佐渡島	範囲：新潟縣、長野縣北部	18.15	長野市北方地方	強・擴	多1.新潟縣西諸原郡角田村に落雷、人事不省1名を出す
23	17.51	五島列島南海上	北東、長崎、佐賀縣中部を通過し佐賀福岡縣境附近に達す	20.45	福岡市南方地方	強・進	80.7(25.25) 佐世保市及其の附近
24	7.30	天草洋	北東、有明之海の北部、佐賀縣東部、福岡縣西部、山口縣西部海岸沿ひに山口縣北方日本海上に去る	19.20	山口縣北方沖合	強・進	65.5(18.30) 大分縣北西部地方
5 月							
4	14.05	朝鮮海峽南部	南東、對馬南方海上、奄岐、佐賀・福岡縣境、福岡縣南部地方に達す	22.50	大分縣北西部地方	強・進	
9 a	3.00	大肚溪下流域	東北東、範囲：臺灣北半	22.30	島根縣濱田町	強・擴	195.2(11.15) 臺中及其の附近
b	10.05	臺南南東	東、範囲：臺灣南部	11.43	新竹州北部	強・擴	
10	2.40	高雄西北海上	南東、高雄州海岸地方を過ぎ太平洋に去る	12.55	花蓮港	強・擴	
25	13.40	大肚溪中流域	南、範囲：臺中、臺南、高雄州	13.20	臺東州北部海岸地方	強・擴	
29	22.27	福井縣北海上	範囲：京都府北部、福井縣、石川縣南部、富山縣西部、岐阜縣中部	14.50	鷺鷥鼻	強・擴	
30 a	0.00	石川縣西方海上	範囲：福井縣北部、石川縣南部、岐阜縣北部、富山縣	13.47	太平洋	強・進	
b	3.05	新潟縣西部黒姫山	東北東、新潟縣西部地方を通り福島縣中央部に達す	18.00	淡水溪下流域	強・擴	
c	10.35	仙臺市北西地方	範囲：宮城縣、山形縣北東部、岩手縣南部	23.00	富山縣伏木町	強・擴	
d	4.35	青森縣西方海上	北西、海上より八郎湯方面に押し寄す	翌8.10	岐阜縣中部地方	強・擴	
6 月							
2	1.40	高知縣渡川上流域	東、土佐灣に出で室戸岬方面より潮岬南方沖合に至る	2.35	乗鞍岳地方	強・擴	▲2, §1
11 a	14.50	甲信武嶺北西地方	東南東、埼玉縣を通り、千葉縣北部に達す 範囲：關東地方一帯	3.30	富山縣東部地方	強・進	§1
b	11.30	米澤市南西大塚山	北東、宮城縣を通り北上川下流域に達す	9.11	阿武隈川上流域	強・進	▲1
14	12.10	松本市南方地方	東、群馬縣を通り栃木縣南部に至る 範囲：長野縣中部、關東西半	14.10	釜石灣	強・擴	
15	12.05	長野縣北部縣境天山水	北東、信濃川沿ひに新潟市東方地方	15.30	北上川中流域	強・擴	
16	7.05	澎湖島西方海上	東、澎湖島を通り臺南州中部に達す	9.40	山形縣北部島海山附近	強・擴	
22	14.10	福井縣北西海上	東「南東」及び「北東」若狭灣、福井縣北部岐阜縣中部、長野縣南部を通り静岡縣愛鷹山に達す	10.10	秋田縣北東部	強・擴	
23	15.08	長野市北方附近	東北東、範囲：信濃川沿ひに新潟縣南方地方に至る	11.10	潮岬南東沖合	強・進	46.9(2.00) 室戸岬 77.7(4.31) 潮岬
30	1.30	廣島市南	東、山陽海岸地方沿ひに播磨洋に出で大阪灣を渡り大阪府中部に至る	20.50	千葉縣北部地方	強・進	▲1
				17.30	北上川中流域	強・進	▲4
				18.00	栃木縣南部地方	強・進	▲4+N, §2+N, 群馬縣邑樂郡伊奈良村一岡降雷(大豆大)の爲め、南瓜、茄子、大豆等五分減收す
				17.30	新潟市東方地方	強・進	
				14.48	曾文溪上流域	強・進	56.9(5.20) 漁翁島
				18.10	富山縣東部地方	強・進	§1, 30.8(0.40) 金澤市南方地方
				20.14	箱根山西側	強・進	
				18.50	新潟、福島縣境大島岳西側	強・擴	▲4, §4, 長野縣上水内郡には降雷の爲め、農作物四萬圓の被害ありたり同 更級郡力石村、負傷2名、震死1名同 下高井郡往郷村、震死1名新潟縣中頸城郡奥山村、負傷2名
				9.30	大阪府、奈良縣境	強・進	§1, 62.5(8.30) 岡山市

7 月							
日次	現 場		進行方向・経過道筋・範囲	消 失		強・性 弱・質	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
2	5.25	福井縣西北西方海上	東、「南東」、福井縣中部を通り擴大して埼玉縣西部、愛知縣北東部に至る	12.25	秩父地方	強・進	§4.愛知縣丹羽郡千秋村、震死1名一宮市、焼失家屋1棟
9	1.00	盤梯山南方	南東、福島縣を南東に進み鹿島洋北部に出づ	12.20	愛知縣北東部	強・進	79.0(9.30) 盤梯山西方地方
17	4.53	日向洋	北、日向洋より大分縣南部に至る	7.30	鹿島洋	強・進	
19 a	4.00	岐阜縣南東部	南東、愛知縣東部より濱松市北西方に至る	8.06	大分市	中・進	
b	4.55	秋田、山形縣境	範囲：奥羽中央部	9.20	大井川下流域	弱・進	152.8(24.18) 大井川下流域
c	10.45	山形、新潟縣境	東、山形市附近を通り仙臺市附近より石巻灣に出づ	7.38	盛岡市	中・擴	
25	6.00	京都府北部地方	東、福井縣南部、滋賀縣北部	15.50	石巻灣	強・進	§4.62.9(13.00) 仙臺市 59.0(2.55) 阿武隈川口附近
26	6.27	日向洋南東海上	範囲：宮崎縣南半、高知縣西方地方	9.50	岐阜市西部地方	強・進	
8.00				8.00		中・停	
8 月							
4	13.00	臺東、高雄州境	範囲：臺灣南部	17.52	臺南市	強・擴	
6	11.14	阿蘇岳北方	範囲：九州北半(長崎縣を除く)	17.05	恒春	強・擴	§2
11 a	14.10	那須山	範囲：栃木、茨城、福島縣	18.20	遠賀川中流域	強・擴	
b	19.43	北海道西方海上	範囲：北海道西部海岸地方	16.42	島原半島	強・擴	
12 a	1.20	熊野洋	北々東、熊野洋より押し寄せたり 範囲：三重、愛知縣、静岡縣西部	17.30	宮崎縣北西部地方	強・擴	
b	12.30	長野縣飯之峯	北東、信濃川沿ひに新潟市東方地方に達す	18.51	水戸市	強・擴	
14	0.15	朝鮮濟州島西方海上	北東、五島列島を通り長崎縣北部に至る	18.55	熊谷市	強・停	
17 a	14.30	島根縣濱田町東方江川下流域	東北東、島根縣を横断し鳥取縣西部地方に至る	16.15	猪苗代湖	強・停	
b	9.00	北海道北西海上	南々東、北海道西南半島地を襲ひ青森縣北部に達す 範囲：北海道西部、青森縣	23.10	壽都	強・進	§5
18	7.15	後志國余市郡	範囲：北海道西南半島地方一回	22.52	旭川	強・進	
20 a	6.40	石川縣南部地方	北東、範囲：石川、富山縣	翌 2.10	天鹽川下流域	強・進	
b	0.51	佐渡西北海上	南東、佐渡西方附近に達す	7.45	伊勢灣	中・進	
c	2.00	北海道渡島半島南西海上	北東、範囲：北海道渡島半島	18.21	新潟市東方地方	強・進	
21	20.05	濟州島南西海上	範囲：九州西部海岸地方一回	11.05	島原半島南端地方	強・進	
23	2.00	五島列島南方海上	範囲：長崎縣、熊本縣、鹿兒島縣西部諸島	18.15	天神川流域	強・進	
24 a	1.03	天草洋西方海上	北東、長崎市北方附近を通り、佐賀市附近を過ぎ福岡市南東部地方に達す 範囲：九州北部及西部	13.05	青森縣東部地方	強・進	§1
b	15.00	北上川上流域	範囲：奥羽北東部	14.30	膽振國東部地方	強・進	
				13.50	函館市	強・擴	
				11.50	旭川西方地方	強・擴	
				8.24	能登半島北端	中・擴	
				9.15	富山縣伏木町	中・進	
				8.00	新潟縣東部地方	中・進	
				5.32	新潟縣西部地方	強・進	
				13.30	石狩川口附近	強・進	
				翌 3.00	熊本市	強・停	
				23.09	鹿兒島市	強・停	
				8.00	五島列島北端	弱・停	
				8.00	島原半島	強・進	50.7(1.05) 三角半島
				5.47	鹿兒島市	強・進	
				7.06	熊本市	強・進	
				7.45	福岡縣馬見山附近	強・進	
				16.44	青森縣小河原沼地方	強・進	
				16.00	秋田縣境駒ヶ岳附近	強・進	

日次	発 現		進行方向・経過道筋・範囲	消 失		強 性	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
25 a	11.00	兵庫縣豊岡町東 方地方	南東、京都府を縦断し滋賀縣南部より 津市北西地方に達す	18.13	津市北西地方	強・進	
b	14.05	黒姫山附近	北東、範囲：新潟縣	17.50	阿賀野川下流域	強・擴	§6+N, 58.6(6.51) 長岡市 中蒲原郡小須戸町附近豪雨の爲め浸水す
c	21.37	青森縣西方海上	範圍：奥羽北西部、函館附近	翌 0.03 南館市 3.20 青森市 3.10 秋田市		強・擴	§2
d	12.02	青森市附近	範圍：青森縣、秋田、岩手縣北部			強・擴	§7+N, 秋田縣鹿角郡花輪町、震死2名、 弘前市外、焼失家屋2棟
e	13.52	北海道帶廣市西 方地方	南東、大津川沿ひに海上に去る	16.30	大津川口沖合	強・進	
26 a	0.20	奥羽北西海上	南東、範圍：奥羽一圓(福島縣を除く)	6.47	宮城縣石巻町	強・進	§6, 75.5(2.20) 飛鳥
b	1.00	北海道襟裳岬南 西沖合	北東、海上を通過す、範圍：北海道南 東部一圓	5.35	落石岬南西沖合	強・進	
29	12.10	五島列島北方海 上	範圍：長崎縣一帯	14.40 對馬北部 14.10 五島南部 15.30 長崎市		強・擴	
30	12.30	秋田縣西方海上	東北東、八郎潟附近より上陸し秋田、 青森、岩手縣境附近に達す	15.25 奥入瀬川、馬淵 川下流域 16.43 盛岡市		強・進	
31	15.11	松本市西方地方	北東、長野市附近、飯之峯を通り縣境 に達す	21.20	長野縣北東縣境	中・進	
9 月							
4	12.10	那珂川上流域	南、宇都宮市附近を通り筑波山西方附 近に達す 範圍：關東東半	18.39	筑波山西方地方	強・進	▲1, §16, 栃木縣下にては13箇所に及 び震死者2名、人事不省3名、焼失家屋 5棟
12 a	8.12	淡路島南部	東、紀ノ川沿ひに奈良縣中央部を通り 三重縣南方地方に達す	15.30	三重縣南部地方	強・進	§4+N
b	15.06	甲府市東方地方	東南東、神奈川縣中央部を通り三浦半 島に達し他の雷と合す			強・進	▲1, 17.5(0.16) 富士山東方山麓
c	14.00	前橋市南方地方	東南東、大體利根川沿ひに千葉縣北部 に達す	24.00	千葉縣北部地方	強・進	
26	1.00	北海道奥尻島西 方海上	東北東、渡島國北部を通り膽振灣を渡 り日高國南部を通り十勝國南部を過 ぎ洋上に出づ	8.40	北海道東部洋上	強・進	▲1
27 a	12.58	徳島市南方那賀 川下流域	東、紀伊水道を渡り和歌山縣中央部に 達す	20.00 奈良、三重、和 歌山縣境		強・進	▲3, 徳島縣阿波、美馬、板野郡に一錢銅 貨大の雹降りたり
b	15.00	琵琶湖北部	北東、範圍：京都府、福井、滋賀、岐 阜縣	20.55 高山町 21.07 松本市南方地方		強・擴	▲5+N, 福井縣大浜郡高濱地方降雹(1.3 割)の爲め人家障子、窓硝子、農作物の 被害甚大なり
c	15.40	神通川下流域	東北東、富山縣を通り新潟縣信濃川下 流域に至る、範圍：富山、新潟縣、 長野縣北部、群馬縣北西部	23.18	信濃川下流域	強・進	▲2
d	0.10	平安南道沖合	南東、平安南道、黃海道北東を通り、 江原道中央部に至る	12.20	江原道中央部	強・進	▲3
e	16.25	成鏡南道、平安 南道境	南東、江原道海岸地方を通り江陵の北 方より日本海に去る	翌 0.40 日本海		強・進	
28 a	12.10	金澤市南方地方	北東、富山縣を横断し新潟縣南西部地 方に至る	19.00	權現山	強・進	§9, 32.0(1.05) 富山、新潟縣境地方 富山縣新川郡青木村に落雷の爲め2名重 傷、小摺三村に震死1名、飯野村に震死 1名
b	16.20	大井川中流域	範圍：愛知縣東部、静岡縣一圓	21.20 伊豆半島 19.10 御前崎		強・擴	▲4
c	13.30	猪苗代湖東方地 方	範圍：福島縣、山形縣東部、宮城縣西 部	19.50 最上川中流域 21.10 宮城縣北西部 23.00 福島縣南東海岸 地方		強・擴	▲2
d	13.30	岩手縣南部北上 川下流域	範圍：岩手縣、秋田縣南東部	15.15 盛岡市 19.00 宮古灣		強・擴	▲1

10 月							
日次	發 現		進行方向・経過道筋・範囲	消 失		強 性	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
10	3.10	能登半島珠洲岬 東沖合	範圍：能登半島、富山縣、新潟縣海岸 地方、佐渡	9.15 信濃川下流域 6.15 能登七尾町		強・擴	§1, 佐渡島にて震死1名
19 a	9.25	五島列島南方海 上	北東、長崎市附近、佐賀市附近を通り 遠賀川流域に至る 範圍：朝鮮南部、 朝鮮海峽海岸地方、九州西部及北部	16.45 關門地方 16.20 對馬		強・進	65.0(9.00) 屋久島
b	18.46	樺太南西海上	範圍：樺太南部、北海道西部地方	20.56 大泊 23.10 天徳國樫別 22.50 後志國壽都		強・停	
20 a	13.48	駿河灣沖合	北東、伊豆半島を横断し相模灣、三浦 半島を通り東京灣に至る	東京灣方面にてb雷と 合す		強・進	
b	15.30	山梨縣東部地方	東、東京府、神奈川縣境沿ひに東京灣 北部に出で千葉縣北部地方に至る	19.30	千葉縣北部地方	強・進	§1, 69.0(5.38) 横濱市 82.7(31.00) 神奈川縣北部地方 60.0(5.00) 千葉縣利根川筋
21	6.28	東京灣北部	範圍：東京府、埼玉縣東部、茨城縣南 部地方、千葉縣	8.35 筑波山 9.00 九十九里濱地方		強・擴	63.0(5.00) 埼玉縣浦和町 51.0(23.06) 茨城縣館野町 72.7(23.30) 六郷川下流域
11 月							
3	18.47	秋田市附近	範圍：秋田縣、山形縣北部	21.00	山形縣北部	中・擴	▲4
16 a	0.15	朝鮮海峽	南東、對馬南部を通り壱岐島、佐賀 縣、有明之海を過ぎ熊本縣南東部に 至る 範圍：九州及山口縣西半	5.00 山口市 5.00 霧島山東方地方		強・進	▲10, §1, 長崎縣中央部地方に降雹(毎 實大)、佐賀縣藤津郡藤野町にて落雷の ため物置小屋全焼す
b	4.00	和歌山縣南西海 上	東北東、三重縣南部を通り熊野洋に出 て、遠江洋、伊豆半島南方沖、大 島、千葉縣南部沖より太平洋に去る	17.37	銚子市	強・進	▲5, §2
21 a	12.40	赤城山東方	南東、利根川沿ひに鬼怒川合流點地方 に至る	18.30	利根鬼怒川合流 點地方	強・進	▲5
b	13.25	男體山東方	東南東、那珂川沿ひに茨城縣境に至る	18.30	栃木、茨城縣境	中・進	▲2
30 a	8.28	五島列島南方海 上	北東、長崎縣中央部を通り有明之海北 部を渡り福岡縣矢部川下流域に至る 範圍：九州北西部	14.30	矢部川下流域	強・進	
b	8.20	澎湖島南方海上	範圍：臺灣南西部	14.00	澎湖島南方海上	弱・停	
昭 和 6 年 度							
2 月							
2 a	14.00	宮崎縣一瀬川上 流山地	南「北東」宮崎縣全部及大隅半島	18.00	大隅海峽	強・進	§2
b	13.50	鹿兒島縣川内川 口	鹿兒島縣西部	19.30		中・擴	§1, 60.0(5.05) 釣掛崎 a 雷と鹿兒島縣 中央部にて合致し、薩摩郡求名村下手に 落雷、牛1頭斃死
4	0.00	鹿兒島縣佐多岬 北方	鹿兒島縣一帯	5.00		強・擴	§1
3 月							
11 a	18.30	甲府市東方	南東、神奈川縣、静岡縣東部、千葉縣 南部	23.30	房總沖	強・進	▲6, 霞鶴に於て降雹中強風起りし爲め海 上の夜釣船北東風に遭ひ顛覆せり
b	19.30	前橋市東方	東南東、利根川沿岸地方	21.50	霞ヶ浦附近	中・進	▲4, 熊谷の降雹はかなり夥しく翌朝まで 残れり
23 a	9.20	玄海灘	北東寄り、山陰地方	b(ii) に合致(15時頃)		強・進	▲1
b	9.30	佐賀縣北西部	i) 南々東、九州全部 ii) 東、福岡縣、大分縣、山陽、四國 (a 雷と合致)	16.00	鹿兒島南方海上	強・進	▲6, §5, 13時頃鹿兒島縣日置郡串木野村 に落雷1名即死、2名重傷、15時頃川邊郡 知賀村に落雷、家屋の一部を焼失、10時 頃佐賀縣佐賀郡農家に落雷死者1名

日次	発 現		進行方向・経過道筋・範囲	消 失		強・性 弱・質	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
c	16.30	石川縣南部	iii) 東北東(18時頃より), 近畿, 中部地方西部, 静岡縣	21.00	駿河灣	中・進	▲6+N, §5+N, 石川縣にてはc雷と合致, 岐阜縣東部にてはd雷と合致, 18時頃和歌山縣那賀郡に落雷, 家屋の屋根一部を焼き死者1名, 入事不省1名
d	16.50	岐阜縣明神山麓	南々東, 岐阜縣全部, 愛知縣	b iii) に合す	強・停		
e	18.45	駿河灣南	北東, 伊豆半島, 神奈川, 千葉, 茨城各縣, 福島, 宮城兩縣東部	20.00 頃静岡縣西部にてb iii) と合す	強・進	▲5+N, §4+N, 降雷及落雷箇所数はb iii)のに含まる, 岐阜縣土岐郡明世村は暴風に見舞はれ家の吹き倒さるゝものあり, 加茂郡にては家屋1戸落雷の爲め全焼	
31	16.30	錦江河口	南東, 朝鮮南部, 對馬, 九州北部	翌 0.20 金華山沖合	中・進	▲1, b iii) の續と見られるもの	
4 月							
4 a	18.00	前頃 黄海	東「東南東, 北東」朝鮮南部, 濟州島間を通り, 九州北部, 四國, 近畿, 濃美平野を通り木曾川上流域に達す	13.23 木曾川上流域山地	強・進	▲39+N, §8	強・進
b	18.00	高知縣西部地方	東北東, 土佐灣を横斷し和歌山縣南方に至る	翌 7.30 和歌山縣南方	強・進	§2	
5 a	0.45	熊野灘	東, 熊野灘より遠江灘沖合に至る	13.00 前頃, 遠江灘沖合	強・進	▲6, §2	強・進
b	13.05	駿河灣	東北東, 伊豆半島中部, 相模灣, 三浦半島を横斷し東京灣南部を渡り千葉縣北部地方に至る	17.15 千葉縣北部地方	強・進	▲9	
6	19.00	鳥根縣東部地方	東, 中國の中央部を通り, 京都市附近より鈴鹿山脈に至る	翌 3.50 鈴鹿山脈	強・進	▲11	強・進
7	1.00	伊豆半島南方沖	東北東, 太平洋上を通過す	5.00 千葉縣南方, 太平洋上	強・進	▲11	
13	0.05	淡水溪沖	南々西, 臺灣西部を横斷す	5.30 高雄州東港沖	強・進		強・進
14	2.05	石川縣西部沖	東北東, 能登半島を横斷し富山灣沖より直江津沖合に至る	6.20 直江津沖合	強・進		
15	11.10	新竹州白沙岬沖	北東「東南東」新竹州北部にて擴大しつゝ臺北州北部を通り海上に出づ	15.19 彭佳島	強・進		強・進
21	18.03	五島列島南海上	東, 天草津, 熊本縣南部, 宮崎縣中央部を横斷す	翌 2.30 日向洋	強・進	64.5(1.25) 熊本縣隴川上流域 82.3(14.13) 大分縣鹿伏山附近 100.0(26.00) 霧島山北部地方	
28	15.00	五島列島南海上	東北東, 九州中央部を通過し四國西部に至る	1.05 愛媛縣中央部	強・進		強・進
5 月							
1	17.21	赤城山	東「南」範圍: 關東地方(千葉縣を除く)	20.50 水戸市 21.00 神奈川縣北部	強・進	§1	強・進
2	4.50	臺北州富基角北方海上	南, 臺北, 新竹州境沿ひに南部に達す	8.55 臺北, 新竹州境南部	強・進	60.2(16.00) 新竹州白沙岬 63.2(11.20) 臺北州濁水溪上流地方	
25	3.35	新竹州白沙岬北方海上	南, 新竹州南部に遠し臺灣北半を襲ふ	7.30 新竹州南部地方	強・進		強・進
28	13.55	能登半島沖	南東, 中國, 四國東部より奥羽南部間の全體を襲ひ關東地方より太平洋に出づ	21.10 徳島市 19.28 松山市 23.21 津市 翌 4.20 伊豆半島南端 4.20 銚子市 23.00 仙臺市	強・進	▲116+N, §24	
29	13.40	臺中州大肚溪中流	北東, 新竹州東部を通り臺北州北部に達す	18.33 臺北州北部地方	強・進		強・進
31	4.00	新竹州白沙岬北方海上	南, 新竹州を横斷し大肚溪中流域に達す	16.30 大肚溪中流域	強・進	53.2(3.00) 新竹州中央部 60.8(1.45) 臺中市	
6 月							
12	13.34	錦江沖	北東「東」朝鮮南半	18.37 江陵	強・進	▲3, 京畿道南東部農作物被害甚大	

日次	發 現		進行方向・経過道筋・範囲	消 失		強・性 弱・質	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
28 a	10.25	富山縣神通川下流域	東北東, 富山, 新潟縣海岸沿ひに信濃川下流域に達す	13.30 信濃川下流域	強・進		強・進
b	15.00	樺名山	東南東, 利根川沿ひに栃木, 群馬, 茨城縣附近に達す	19.10 栃木, 群馬, 茨城縣	中・進		
7 月							
5	18.20	鹿兒島縣西方沖	東, 鹿兒島縣を横斷し宮崎縣南部より日向灘に出づ	21.45 日向灘	強・進	§2, 62.3(5.18) 佐賀市北方地方	強・進
6	7.20	五島列島南西沖	東北東, 長崎縣中央部を横斷し有明之海に達す	14.00 筑後川下流域	中・進	190.1(37.04) 鳥原半島温泉岳附近	
10	5.20	廣島縣南部安藝海	東北東, 瀬戸内海を通り大阪灣に達す	10.07 大阪灣	強・進		強・進
27	16.23	五島列島南西沖	東北東, 五島南方より鳥原半島, 菊池川を通り鹿伏山附近に至る	22.20 福岡縣鹿伏山	中・進	§3, 福岡縣朝倉郡大福村にて即死1名, 家屋焼失1棟	
29	0.05	對馬南東海上	東南東, 福岡, 大分縣北部を通り豊後水道に出づ	10.10 豊後水道	強・進	§13, 大分縣東國東郡鵜島沖漁船に落雷し1名即死す	強・進
8 月							
8	13.05	熊本縣北方帝釋山	北東, 福岡縣を斜めに横切り羽黒山附近に至る	17.42 羽黒山附近	弱・進		強・進
15	11.55	福岡縣南方釋迦岳	範圍 九州北半	16.48 福岡市 14.12 佐賀市 15.42 鳥原半島 16.25 熊本市 14.10 大分市	強・進		
23	8.50	北海道渡島半島西方海上	南東, 擴大しつゝ青森縣を斜斷す 範圍: 渡島半島, 奥羽北部	18.50 十和田湖附近	強・進		強・進
9 月							
5	14.37	淺間山北方四阿山	東, 樺名, 赤城山を通り宇都宮市西方に至る	17.40 宇都宮市西方	強・進	§10+N	強・進
6 a	3.10	五島列島南西海上	東北東「南東」長崎縣中部にて二路に分れ, 一は福岡縣東部に, 一は鳥原半島, 熊本縣, 宮崎縣中央部を通り日向灘に出づ	16.18 日向灘 9.12 福岡縣東部地方	強・進		
b	13.04	津市西方地方	北東, 名古屋, 岐阜縣東部地方を通り長野縣境附近に達す	17.55 御嶽東方地方	強・進		強・進
12	10.50	彦根北方地方	東北東, 岐阜市北方を通り長野縣駒ヶ岳西方地方に至る	19.30 駒ヶ岳西方地方	強・進		
10 月							
17	6.00	北海道渡島半島中央部	東北東「南々東」奥羽北半に展び主軸は北海道南部を通り國後島に至る	19.00 國後島西部 14.00 奥羽眞山附近	強・進		強・進
21	13.01	遠江洋	東北東, 駿河灣, 伊豆半島, 相模洋, 千葉縣南部を横斷し太平洋に出づ	22.22 太平洋	強・進	▲1	
11 月							
18	5.09	北海道西方海上	南東, 小樽灣より北海道南部地方より太平洋に出づ	12.14 北海道南東(太平洋)	強・進		強・進
12 月							
15	12.00	對馬西方海上	南東, 對馬, 壱岐, 佐賀縣, 有明之海を通り熊本縣南部に至る	20.41 鹿兒島縣北西部地方	強・進		強・進
28	1.00	四國足摺岬南方海上	北東「東」紀伊水道, 奈良縣, 伊勢灣を通り岐阜縣東部に達す, 主軸は奈良縣より東進し鳥羽半島を通り海上に進み銚子沖太平洋上に去れり	12.48 銚子東方海上	強・進	▲1, §2	

昭和7年度

3月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 19a and 19b.

4月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 14, 15a, 15b, and 18.

5月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 22a and 22b.

6月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 9a, 9b, 9c, 24a, 24b, and 24c.

7月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 7a, 7b, 7c, 12, 17, 18, 20a, 20b, and 20c.

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 24a and 24b.

8月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 5, 8, 10, 14, 15, 21, 23, and 25.

10月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 5, 10, 16, and 23.

昭和8年度

2月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entry for 24.

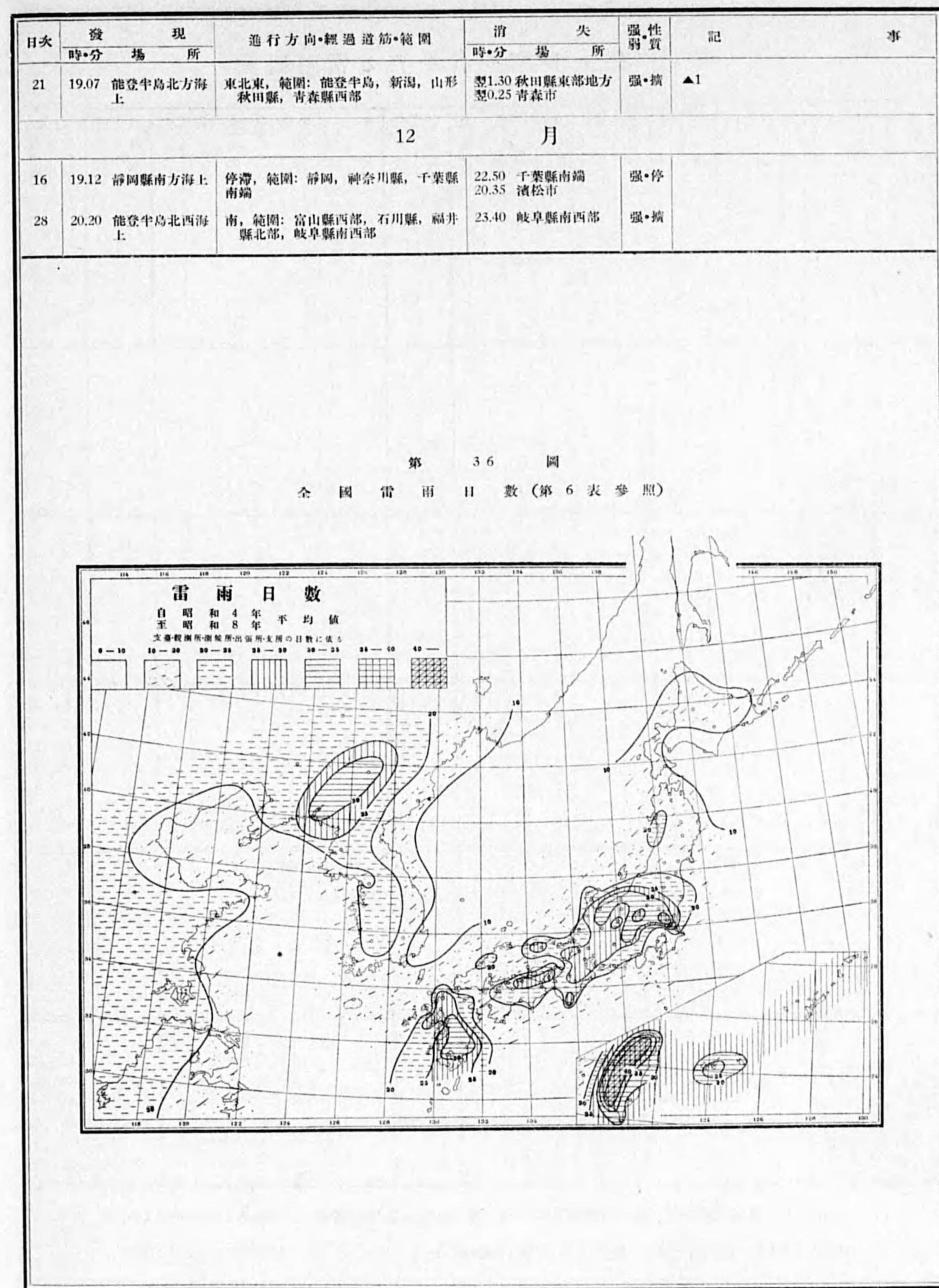
3月

Table with 6 columns: 日次, 発現時・分・場・所, 進行方向・経過道筋・範囲, 消失時・分・場・所, 強・性・弱・質, 記, 事. Includes entries for 16a, 16b, 16c, 16d, 20a, 20b, and 22.

4 月					
日次	発 現 時・分 場 所	進行方向・経過道筋・範囲	消 失 時・分 場 所	強・性 弱・質	記 事
14	21.36 五島列島南方海上	東北東、長崎市附近を通り熊本、福岡縣境沿ひに大分縣に入る	翌 2.00 大分川上流域	強・進	
22 a	11.10 前橋市南方附近	東、栃木縣南部地方を通り水戸市附近より洋上に去る、b 雷と合一して關東一圓を襲ひたり	17.00 太平洋	強・進	▲8, §1, 茨城縣神峯山氣象器械破損、所員1名負傷
b	13.20 甲府市東方附近	東、東京府、神奈川縣境を通り、東京灣を渡り、千葉縣中部を横斷し九十九里濱より洋上に去る	17.25 太平洋	強・進	▲8, §3
26	6.40 大阪府、和歌山、奈良縣境	東南東、奈良縣中部を通り、三重縣鳥羽半島を過ぎ遠江洋沖に出づ	9.50 遠江洋沖	中・進	129.5(20.00) 滋賀、三重縣、京都府境附近 70.5(3.50) 鳥羽半島南部海岸地方 68.9(6.00) 愛知縣東部地方
28	7.25 能登半島西方海上	東北東、「南東」、能登半島を横切り、信濃川下流域に上陸し擴大しつゝ阿賀野川流域より猪苗代湖南方附近、茨城縣北部を通過し鹿島洋に出づ	17.58 鹿島洋	強・進	▲9, §1
5 月					
2 a	3.25 五島列島南部	北東、範圍：長崎縣、佐賀縣、熊本縣北部	8.40 熊本市 7.25 佐賀市	強・擴	
b	3.00 朝鮮大同江河口西方海上	北東、平安南、北道境を通り、咸鏡南道、同北道を過ぎ豆滿江下流域に進み尙露嶺に入りたり	13.10 豆滿江下流域北東露嶺	強・進	
5	19.50 北海道後志國瀨棚郡東部	南、「北東」、石狩川中流域、岩手縣北部に及びたり	翌 2.58 石狩川中流域 24.00 岩手縣北部	強・進	
6	1.40 北海道根室西方國境	東北東、國後島中部地方に至る	5.45 國後島	強・進	§1, 根室町感電負傷1名、人家破損1棟
9 a	11.31 松本市南東鉢伏山	南東、ハケ嶽附近を通り山梨縣東部地方に至る	16.30 山梨縣南東部	強・進	▲9, 山梨縣北部、東部は農作物被害多大なり
b	11.00 群馬、埼玉、長野縣境	東、埼玉縣を横斷し千葉縣北西部利根川流域に至る	18.00 千葉、埼玉縣境附近	強・進	▲9, 埼玉縣南部、東京府西部、神奈川縣北西部に降雹したり
10 a	10.55 兵庫縣加古川中流域	東南東、大阪府北部、奈良縣北部、三重縣中部を通り熊野洋に出づ	14.32 熊野洋	強・進	▲9, §3
b	10.21 天龍川上流域	南東、山梨縣西部、富士山南麓、箱根山を通り相模灣に出づ	相模灣にてc雷と合一す	強・進	▲6
c	9.30 群馬縣榛名山	南東、利根川沿ひに印旛沼に至る、多摩川沿ひに東京灣、房總半島を通り洋上に去る 範圍：關東一圓	18.56 印旛沼より太平洋に出づ	強・進	▲58, §4, 茨城縣猿島郡五霞村、香取村附近に大降雹あり、農作物被害 13 萬圓、栃木縣下都賀郡下々村に降雹あり、農作物被害約 8 萬圓なり
d	2.14 猪苗代湖西方地方	北東、福島市南方附近を通り羽黒山方面より石巻灣に入る	7.40 石巻灣	強・進	
e	10.00 那須山南東方	東南東、茨城、福島縣境を通り鹿島洋北部に出づ 範圍：福島縣東部、茨城縣、栃木縣東部	15.37 鹿島洋	強・擴	
16	7.05 佐世保市北方附近	東、佐賀縣を通り福岡縣中部に至る	11.00 馬見山	中・進	
17 a	4.05 對馬南西海上	東、「東南東」、島根縣濱田町西部附近より上陸し廣島縣中部を通り、備後洋を渡り、徳島縣中部を横斷し、和歌山縣日ノ御岬方面に上陸せり 範圍：九州北部海岸地方、中國地方、四國、及び和歌山縣	20.40 和歌山縣中部	強・進	§1
b	9.30 朝鮮海峡南部	東南東、佐賀縣中部、熊本縣北部、宮崎縣北部を通り日向洋に出づ 範圍：九州一圓（鹿兒島縣を除く）	18.48 日向洋	強・進	§1
c	14.00 若狹灣沖合	南東、若狹灣、琵琶湖北部、鈴鹿山脈、伊勢灣を通り太平洋に出づ	22.10 太平洋	強・進	§3, 岐阜縣海津郡西江村、牛1頭斃死
20 a	8.35 鹿兒島縣枕崎南方海上	北東、鹿兒島縣西部に上陸し熊本縣東部、大分縣中部、周防洋東部を通過し廣島縣西部地方に達しb雷と合したる模様なり	b 雷と合す	強・進	
b	12.24 山口縣北方日本海上	東北東、島根縣西部地方より上陸し中國の中部を通過し兵庫縣北部に達す	18.20 兵庫縣中部	強・進	

6 月					
日次	發 現 時・分 場 所	進行方向・経過道筋・範囲	消 失 時・分 場 所	強・性 弱・質	記 事
21	0.50 鹿兒島縣西部	東北東、霧島山、宮崎市附近を通り日向洋に出づ	7.12 日向洋	強・進	
26	19.20 日向洋北部	停滯、範圍：大分、宮崎、愛媛縣	21.20	強・停	
30	11.35 朝鮮大同江上流域	南々東、範圍：朝鮮中部	14.59 元山 15.00 仁川	中・擴	▲1
6 月					
2 a	14.00 旭川市北東地方	範圍：北海道北東部	18.30 北見國枝別郡 21.32 網走町	強・擴	▲3
b	4.10 北海道渡島國西方海上	東北東、渡島國中部を横斷し日高國沖合に達す	7.45 日高國静内町沖合	強・進	
3	11.10 北海道釧路國阿寒岳	東、範圍：北海道東部	16.00 落石岬	中・擴	
12	17.50 福岡縣遠賀川上流域	東北東、範圍：山口、福岡、大分縣	22.30 山口市東方地方 20.00 大分縣龜島	強・擴	
13	8.50 京畿、江原、忠清北道境附近	南、範圍：朝鮮南半（全羅南道、忠清南道を除く）	15.05 龜津江河口附近 17.45 大邱	強・擴	▲8, §3, 全羅北道鎮安、慶尙北道尙州・金泉、忠清北道忠州、江原道井谷にては降雹の爲め農作物被害甚大なり、京畿道利川郡栗面高塘里附近に降雹し死者1名を出し、牛2頭死す
14 a	14.30 琵琶湖北部	東南東「東」彦根市、名古屋市を通り愛知縣北東部に達す	19.40 愛知縣北東部地方	強・進	
b	14.56 妙義山南東地方	東南東、大體利根川沿ひに進み、東京市北方地方に達す	20.10 東京市北方地方	強・進	▲ 群馬縣高崎市北方に旋風起り死者7名、負傷22名、全潰家屋34棟、半壊家屋41棟、農作物被害は約50萬餘圓なり
c	21.30 愛知縣矢作川上流域	東、静岡縣を横斷し相模灣に入る	翌 3.00 相模灣	強・進	
d	13.30 栃木縣高原山	南東、範圍：福島、栃木、茨城縣	16.30 福島縣小名濱町 17.55 水戸市	強・擴	§1
27	20.00 香川、徳島縣境	範圍：四國東部、淡路島、和歌山縣西部	22.15 高知市 23.02 室戸岬 翌 1.50 和歌山市	中・擴	§1
28	10.21 備後洋	東、吉野川沿ひに進み紀伊水道を渡り紀ノ川沿ひに中流域に達す	14.45 紀ノ川中流域	強・進	§29, 徳島縣板野郡、震死1名、香川縣綾歌郡、震死2名、" 大川郡、" 1名、徳島家屋2棟、九龜市、" 1名
7 月					
3	0.45 熊本、宮崎、鹿兒島縣境	東南東、宮崎縣南部地方を通り日向洋に至る	5.15 日向洋	強・進	
6	15.55 妙義山東方地方	東南東、利根川沿ひに埼玉縣北東部に達す	20.20 埼玉縣北東部	強・進	
8 a	13.10 霧島山東方地方	北々東、宮崎縣を横斷し五箇瀬川流域に至る	16.05 五箇瀬川流域	強・進	
b	13.30 群馬縣三國峠南方	南東、前橋市を通り埼玉縣中部に至る	18.20 埼玉縣中部	強・進	
13	13.10 群馬縣白根岳	南東、前橋市を通り群馬縣南東部に達す	19.20 群馬縣南東部	強・進	§2
17	13.20 秩父地方	東南東、埼玉縣中部を通り千葉縣北部に至る	18.07 千葉縣利根川下流域	強・進	
30	5.00 妙義山東方地方	南東、群馬縣南部より埼玉縣南部に至る	14.00 埼玉縣南部	強・進	61.5(5.50) 埼玉縣中部
31 a	11.00 山形、福島、宮城縣境	範圍：宮城、山形縣、福島縣北部	13.50 宮城縣石巻町 14.05 山形縣北部地方	強・擴	§2, 山形縣西置賜郡、震死1名、" 最上郡、" 1名
b	4.32 青森縣西部海上	停滯、範圍：青森縣西部、秋田縣北部	8.16 青森市 7.30 能代川口	強・停	
8 月					
9	14.30 榛名山、淺間山、白根岳中間地	南東「南々東」利根川沿ひに埼玉縣北東地方に至る、妙義山、白髮山を通り雲取山に至る	19.00 宇都宮市 19.20 埼玉縣南部地方 19.10 山梨縣東部地方	強・進	

日次	發 現		進行方向・經過道筋・範圍	消 失		強・性 弱・質	記 事
	時・分	場 所		時・分	場 所		
10	0.44	天草洋	南々東, 天草島, 鹿兒島縣西部を通り大隅海峽に至る	9.25	大隅海峽	強・進	
12	6.40	長崎縣南西沖	東北東「東南東」長崎, 佐賀, 福岡縣中部を通り周防洋に至る 有明之海, 熊本縣北部を通り大分縣南部に至る	15.30 12.50	大分縣南東部 山口縣周防洋海岸地方	強・進	多6, 大牟田市外, 焼失家屋3棟, 人事不省3名, 重傷1名, 馬1頭斃死 福岡縣喜穂郡穂波村, 斃死1名
14	10.48	大阪灣	北東, 滋賀縣南東部を通り岐阜市東方地方に至る	16.20	岐阜市東方地方	強・進	多4
18	5.50	青森縣西部海上	東, 秋田, 青森縣附近を通り八甲田山に至る	9.04	八甲田山南方地方	強・進	
19	18.00	妙義山東方地方	範圍: 群馬, 埼玉, 山梨縣	20.12 21.02	甲府市 埼玉縣熊谷町	強・擴	多1, 53.5(4.20) 妙義山東方地方
20	0.08	鹿兒島縣南西海上	停滯, 範圍: 九州西部海岸地方	3.00 6.00	五島南部 鹿兒島縣東部	強・停	
22 a	4.00	鹿兒島縣南東海上	範圍: 九州, 四國, 和歌山縣南部海岸地方	10.45	潮岬	強・停	
b	11.25	琵琶湖南部	北々東, 琵琶湖を縦斷し福井縣北部を通り石川縣南部に至る	15.58	石川縣南部地方	強・進	
c	11.05	青森縣南東地方	北々西, 範圍: 青森縣, 北海道内浦, 膽振灣沿岸	13.20	内浦灣南部	強・擴	
25	5.36	青森縣南西地方	北, 範圍: 青森縣, 秋田縣北部, 北海道渡島國	12.50	奥尻島	強・擴	
27	3.12	五島, 長崎間海上	東南東, 長崎市, 島原半島, 熊本縣中部を通り宮崎北部に至る	13.40	宮崎縣北部地方	強・進	多2
9 月							
13 a	19.00	筑後川下流域	範圍: 北州北部	22.05 19.38 21.38	佐世保市 熊本市 福岡市	強・擴	多3
b	11.10	北海道渡島國中部	南, 範圍: 渡島國, 青森縣	15.30 15.02	岩木川上流域 青森縣東部海岸	強・擴	
19	18.55	鹿兒島縣別府川上流域	東, 範圍: 九州南部, 四國南西部	翌 0.20 23.59	屋久島 四國足摺岬	強・擴	
20	1.30	四國南方海上	停滯, 範圍: 四國南部, 和歌山縣海岸地方	5.56	四國南方海上	強・停	多1
23	9.35	青森縣西方海上	東, 青森縣陸奥海灣に至る 範圍: 渡島國南部, 青森縣	13.50 13.25	青森縣南東部 函館市	強・進	
24	0.10	膽振灣	範圍: 北海道南部	11.10	日高國中部海岸	中・擴	
29	19.55	朝鮮大同江下流域	南東, 範圍: 朝鮮中部	20.40 0.48	元山 仁川	強・擴	多3
30	17.01	能登半島北方海上	停滯, 範圍: 石川, 富山, 新潟縣	22.00 20.40	神通川下流域 新潟縣東部地方	強・停	
10 月							
1 a	18.27	北海道小樽市北方海上	停滯, 範圍: 後志, 石狩國	翌7.00		弱・停	多1
b	0.03	十勝國南東海上	範圍: 北海道南東部	5.15	標雲岬	弱・進	
15	15.38	熊野洋沖合	停滯, 範圍: 熊野洋, 伊勢灣, 遠江洋沿岸	21.40 18.15 20.36	濱松市 潮岬 津市	中・停	
23	10.35	日高國南西海上	北東, 範圍: 石狩岳南部一圓	13.00 13.25	十勝岳南西方 十勝川流域	強・擴	多1
11 月							
18	13.30	對馬, 壹岐, 沖ノ島間海上	東「東北東」中國中央部を横斷し兵庫縣に入る	22.00	兵庫縣曉崎山	強・進	多9, 多4
20	0.13	對馬南方海上	南東, 長崎縣を通り天草島に至る	7.30	天草島	強・進	



第 1 表 降雹を伴ひたる雷雨回数

月	年	州南諸島	九州	四国	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸		奥羽	北海道	發現數	發生數	臺灣	支那		朝鮮		樺太	南洋	發現數	發生數	全國			
											西部	東部						中部	北部	南部	北部					發現數	發生數		
1	4												1		1	1									1	1			
	5																												
	6																												
	7									1		1 ₁	2 ₁		4	2										4	2		
	8																												
計									1		2 ₁	2 ₁		5	3										5	3			
2	4										1	1 ₁			3	1										3	1		
	5		3												5	4										5	4		
	6				1 ₁	1	1 ₁								1	1										1	1		
	7																												
	8				1					1	1				3	3										3	3		
計		3		2 ₁	2	1 ₁			1	2	1 ₁			12	9										12	9			
3	4			2 ₁	1	2 ₁	1	3 ₂	2 ₁	2					13	8	1				1				2	2	15	10	
	5		8 ₂		1 ₁	3	3	3 ₂	1 ₁	3 ₁	1 ₁	5			29	20			3	1				4	4	33	24		
	6		5 ₁	1 ₁	3 ₁	1 ₁	3 ₁	1 ₁	4 ₁	4 ₂	3 ₁		1 ₁		24	13								2	2	26	15		
	7		2	1 ₁	3 ₂	2 ₂	2 ₁	1 ₁	1 ₁	3 ₁	1 ₁				15	6								1	1	15	6		
	8		1				1	1 ₁	1 ₁	1 ₁	1 ₁				4	2			1					1	1	5	3		
計		16 ₂	4 ₂	6 ₁	10 ₁	7 ₂	9 ₂	9 ₂	13 ₂	4 ₂	1 ₁	6 ₁		85	49	1	1	3	4				9	9	94	58			
4	4		4	5 ₁	5 ₂	2 ₂	6 ₁	7 ₂	3 ₂	5 ₁	2	2 ₁	1	1	43	26	1			2	2			5	5	48	31		
	5		3 ₁	2 ₂	5 ₂	3 ₂	4 ₂	4 ₂	3 ₂		1 ₁				25	10				1				1	1	26	11		
	6		7 ₁	3 ₂	3 ₂	5 ₂	4 ₂	5 ₂	5 ₂	4 ₂					36	20						3 ₂	3	6	4	42	24		
	7		2	2	3 ₂	3	3 ₂	1	2	2	2	2	1		23	18			1	3	2			6	6	29	24		
	8			1	1 ₁		4 ₂	6 ₁	3 ₂	1	1 ₁	1 ₁			18	8			2	3	2			7	7	25	15		
計		16 ₂	12 ₂	17 ₂	14 ₂	17 ₂	21 ₂	19 ₂	14 ₂	6 ₂	5 ₂	3 ₁	1	145	82	1		3	12 ₂	9			25	23	170	105			
5	4		1	3 ₁	6 ₁	8 ₂	6 ₂	9 ₂	16 ₂	11 ₂		2 ₂	12	1	75	50			2	16	14 ₁			32	31	107	81		
	5						3 ₂	3 ₂	7	2	4 ₂	13 ₂	3	35	26					1			1	2	2	37	28		
	6			1 ₁	4 ₁	2 ₂	6 ₁	6 ₂	5 ₂	7 ₂	3 ₁	2 ₁	3 ₂	2	41	26					9			9	9	50	35		
	7		1		1		1 ₁	1	1	5			1 ₁	1	12	10			1	1	10			12	12	24	22		
	8			1	1		2 ₂	8 ₂	15 ₂	13 ₂	2	3 ₂	2 ₁		47	28			1	2	1	5			9	9	56	37	
計		1	1	5 ₂	12 ₂	10 ₁	15 ₂	27 ₂	40 ₂	43 ₂	7 ₁	11 ₂	31 ₂	7	210	140		2	4	18	39 ₁	1		64	63	274	203		
6	4		1						2	3 ₂		2	2	10	8						3	10 ₁			13	12	23	20	
	5							1 ₁	6 ₁	11 ₂		3 ₁	9	6	36	28						9		9	9	45	37		
	6		1	1	2	2 ₁	4 ₂	3 ₂	13 ₂	12 ₂	2	4 ₂	4 ₁		48	30					3	3		6	6	54	36		
	7			4 ₁	6 ₂	2	3 ₁	2 ₂	4 ₁	4 ₁	1			1	27	18			4	1	8			13	13	40	31		
	8		1	2	6 ₂	3 ₂	1	3	1	6			2	2	27	21	1				3 ₁	4		8	7	35	28		
計		3	7 ₁	14 ₂	7 ₁	8 ₁	9 ₂	26 ₂	36 ₂	3	9 ₁	17 ₁	9	148	105	1		4	10 ₁	34 ₁			49	47	197	152			

摘要 5₂の如きは、降雹を伴ひたる雷雨が5回發現し、その中2回は他地方に發生せる雷雨にして該地方まで及びたるものなり。従つて該地方に發生せる雷雨にして降雹を伴ひたるものは5-2即ち3回なり。

第 1 表 降雹を伴ひたる雷雨回数

月	年	州南諸島	九州	四国	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸		奥羽	北海道	發現數	發生數	臺灣	支那		朝鮮		樺太	南洋	發現數	發生數	全國	
											西部	東部						中部	北部	南部	北部					發現數	發生數
7	4		4				2	5 ₂	15 ₁	10 ₂	1 ₁	3 ₂	1	41	23				3		2			5	5	46	28
	5				4	1 ₁			3 ₁	3 ₁			1	12	9									1	1	12	9
	6				1	1 ₁							1	5	4					1				1	1	6	5
	7		4				1	2 ₂	2	2				11	9	4					1			5	5	16	14
	8							2 ₁	6 ₂	3 ₁			3	14	9											14	9
計			8		5	2 ₂	3	9 ₂	26 ₂	20 ₁		4 ₁	4 ₂	2	83	54	4		3	1	3			11	11	94	65
8	4		2				1 ₁	1 ₁	8 ₂	21 ₂		3 ₂	4	1	41	29								1	1	42	30
	5								1					1	1											1	1
	6		2	1					1	2 ₁				6	5									1	1	7	6
	7				1			1 ₁	1	1 ₁		1	2	3 ₂	1	10	6				1 ₁	6		7	6	9	8
	8						1 ₁	1	1 ₁		1	2	3 ₂	1	10	6	4				1 ₁	6		4	4	14	10
計		4	1	1	1 ₁	2 ₁	2 ₂	10 ₂	24 ₂	2	6 ₂	5	2	60	43	4			1 ₁	8			13	12	73	55	
9	4				1 ₁	2 ₁	1	1 ₁				1	1	5 ₁	13	9				6 ₁	11	2		19	18	32	27
	5			1	2	3 ₁	5 ₂	8 ₂	5 ₁	6 ₂	4 ₂	5 ₁	9	12 ₁	60	42	1		3		4	2		10	10	70	52
	6													4	4	4					1	1		2	2	6	6
	7				1	1	1 ₁		2	1			1	7	6	1				4	2			7	7	14	13
	8								2 ₁		2	3 ₁		7	5	1				3 ₁	6 ₁			10	8	17	13
計			1	4 ₁	6 ₂	7 ₂	9 ₁	7 ₁	9 ₁	5 ₂	8 ₁	14 ₁	21 ₂	91	66	3		3	13 ₂	24 ₁	5		48	45	139	111	
10	4					1						1	3 ₁	4 ₂	10	7				2	1	1 ₁		4	3	14	1

第 3 表 降 電 箇 所 數

月	年	州	九	四	山	山	近	關	本	關	北	陸	奥	北	計	臺	支	那	朝	韓	樺	南	計	全
昭和	南	州	州	國	陽	陰	畿	西	州	東	西	東	羽	海		灣	中	北	南	北	太	洋		國
1	4											1			1									1
	5																							
	6																							
	7									1		1	1		3									3
	8																							
	計									1		2	1		4									4
2	4						1					1			2									2
	5								1						1									1
	6					1									1									1
	7										1	1			3									3
	8																							
	計				1	1	1		1	1	1	1			7									7
3	4			1	1	1	2		3	3					11	1		1					2	13
	5		32			5	7	5	4	7			6		66			3	5				8	74
	6		21		1	2	1	5	6	7	2				45			3					3	48
	7		9		1		2	2	2	2					18									18
	8		1				1	1	2	2					4		1						1	5
	計		63	1	3	8	12	13	15	21	2		6		144	1	1	3	9				14	158
4	4		7	7	13	1	16	5	2	5+N	2	1	1	3	63+N	2			3	3			8	71+N
	5		3		14	11	4	3	6						41									41
	6		28	3	7	7	11	13	4	10					83			9	5				14	97
	7		3	2	1	4	8	1	2	8	2	2	1		34		1	4	2				7	41
	8					1		6	6	20		1	3		37		2	5	2				9	46
	計		41	12	35	24	39	28	20	43+N	4	4	5	3	258+N	2	3	21	12				38	296+N
5	4		1	2	12+N	9	12	15	49	24		1	16	1	142+N		2	29	19				50	192+N
	5						2	2	19	2	5	19	8	57					1	1			2	59
	6		1	32		31	17	5	14	7	2	3	1	113					12				12	125
	7	1				2	1	1	7				3	15		1	1	15					17	32
	8		1	2		7	5	38	75	3		1		132		1	2	2	8				13	145
	計	1	1	4	46+N	9	52	40	95	139	12	8	39	13	459+N		2	4	32	55	1		94	553+N
6	4		3						2	1		3	2		11				6	11			17	28
	5						1	8	14		2	16	9	50									11	61
	6		1	6	2	2		26	10	1	1	4		54				8	4			12	66	
	7		4	9	2	2	2	7	3					30		4	1	9				14	44	
	8		3	6	4	1	2	5	1	19		2	5	48	1			9	6			16	64	
	計		7	11	19	5	6	8	44	47	1	6	24	15	193	1	4	24	41				70	263

摘 5+N の如きは、降電箇所 5 箇所以上の意味なり。N のみ場合は単に數箇所以降電ありたる事を示す。
要

第 3 表 降 電 箇 所 數

月	年	州	九	四	山	山	近	關	本	關	北	陸	奥	北	計	臺	支	那	朝	韓	樺	南	計	全
昭和	南	州	州	國	陽	陰	畿	西	州	東	西	東	羽	海		灣	中	北	南	北	太	洋		國
7	4		4				2		15	1			1		24				3		2		5	29
	5				3+N				2	3					9+N									9+N
	6				1				2	2					4								1	5
	7		4				1	1	2	5					13	4					1		5	18
	8								4	4			3		11									11
	計		8		4+N		3	1	23	15			3	1	61	4			3	1	3		11	72
8	4		3				1		9	26			4	1	44						1		1	45
	5								1						1									1
	6		2+N	1					1+N	2					6+N						1		1	7+N
	7				1								4+N	5+N							8		8	13+N
	8						1		1	6+N	1	2		11+N	4								4	15+N
	計		5+N	1	1		2		11+N	29	6+N	1	6	5+N	67+N	4					10		14	81+N
9	4					1	1			1	1	1	4	9					5	19	2		26	35
	5			3	8	4	10	14	1	5	4	5	8	16	78	1		3		6	2		12	90
	6													5	5					2	1		3	8
	7				2	6	1		4	1			1	15	1					7	1		9	24
	8								7+N		3	1		11+N	1					2	9		12	23+N
	計			3	10	11	12	14	5	13+N	5	9	11	25	118+N	3			3	14	37	5	62	180+N
10	4					1				1	1	4	1	8					2	1	1		4	12
	5		2	1	1			4	2	10		1		22							1		1	23
	6								1					2	3						2		2	5
	7				1					1				15	17				4	24	67	5	100	117
	8					1			2	6			2	5	16				1	1	12		14	30
	計		2	1	2	2		4	5	17	1	2	6	24	66				7	26	83	5	121	187
11	4		1							1			3	5							4		4	9
	5		11			1	2	1	2	8	1		4	2	32					3	1		4	36
	6																				1	1	2	2
	7					4			2				1	7						2	6		8	15
	8		7	1	3	1				8			4	1	25					6	7		13	38
	計		19	1	3	6	2	1	4	16	2		9	6	69					12	19		31	100
12	4												1		1									1
	5								1					1										1
	6								1					1										1
	7					1	1		2	5				9										9
	8		1	1	1	1								4										4
	計		1	1	1	2	1		4	5			1		16									16

第 4 表 落 雷 箇 所 數

月	年	州	九	四	山	山	近	關	本	關	北		奥	北	計	臺	支		朝		樺	南	計	全
											西	東					中	北	南	北				
1	4																							
	5																							
	6																							
	7													3		3								3
	8																							
計													3		3									3
2	4																							
	5		4																					
	6		4		1																			
	7																							
	8																							
計		8		1																				9
3	4		5																					
	5		7																					
	6		6	1																				
	7																							
	8		11			1	6																	
計		29	1		1	9	11+N																	55+N
4	4																							
	5		6		1	1	2	1																
	6		5		2		2	2																
	7		1		1	1																		
	8		1																					
計		13		4	2	3	3																	39
5	4		1		6+N																			
	5		2	1																				
	6																							
	7																							
	8		1		1+N		2	4	1	4														
計		2	3		7+N	18	8	4	2	17														66+N
6	4		1	3		4																		
	5					1	1																	
	6		4			2	3	3	1	4														
	7					2	4+N	3	3	21	2+N													
	8			6	30	84	2	13+N	10															
計		5	9	32	95+N	6	20+N	34	6+N	18+N	3	7	1+N	5	241+N									12

摘 5+N の如きは、落雷箇所 5 箇所以上の意味なり。N のみ場合は単に數箇所に落雷ありたる事を示す。

要

第 4 表 落 雷 箇 所 數

月	年	州	九	四	山	山	近	關	本	關	北		奥	北	計	臺	支		朝		樺	南	計	全			
											西	東					中	北	南	北					太	洋	
7	4		71	2+N	56	17+N	60+N	54		37			34+N	21	4	356+N				1	N	1			2+N	358+N	
	5		7+N		3	15+N	16+N	50+N		13+N			6	4		115+N						3	1		4	119+N	
	6		28			8+N	1+N	2	2		3					44										44	
	7		58	2+N		1		5	14+N		4	12+N		1	1		98+N	1			7	20+N	1		29+N	127+N	
	8		45+N		8	20	2	22+N	67+N		17	27+N		19	7		234+N									234+N	
計		209+N	15+N	100+N	20+N	105+N	187+N		22	92+N			60+N	33		4	847+N	1			8	23+N	3		35+N	882+N	
8	4		72+N	9+N	7	5	35+N	16	40+N	45+N			11	4+N		245+N				6+N	N	3			9+N	254+N	
	5		32+N	3+N	2+N	N	5	3+N		2+N			23+N	24+N		2	96+N			1		4	1		6	102+N	
	6		4	5+N	51+N		22+N				6+N			1	20		109+N									5	114+N
	7		30	11	10+N		14	4	1	12			1	9+N			92+N									1	93+N
	8		30	19+N	34+N	11	24	47+N		6	38+N	30+N		30	45+N		311+N										311+N
計		1168+N	47+N	104+N	16+N	100+N	70+N	47+N	103+N	30+N	66+N	102+N				2	853+N			7+N	N	13	1		21+N	874+N	
9	4		2										1	3		6+N											6+N
	5					8+N	1	3	3	1	19+N			10	5	50+N										1	51+N
	6		21+N			1										22+N											22+N
	7		5	2	5	2	4+N	13+N			1+N		2	25		59+N										2	61+N
	8		5	1			1	2					1	1		11											11
計		33+N	3	14+N	3+N	8+N	18+N		1	20+N	1	16	31		148+N											3	151+N
10	4																										1
	5		1				1+N			1+N			1			4+N										1	5+N
	6		2													3										1+N	4+N
	7															1										1	2
	8															1										1	1
計		3				1+N			1+N	1	1				2	9+N									1	3+N	4+N
11	4		3													4											4
	5		1							2						3											3
	6																										
	7																										
	8		2	2		1							1			6											6
計		6	2		1	2						1	1		13												13
12	4																										
	5																										
	6																										
	7																										
	8																										
計																											8

摘 5+N の如きは、落雷箇所 5 箇所以上の意味なり。N のみ場合は単に數箇所に落雷ありたる事を示す。

要

第 5 表 燒失家屋及震死者數

月	年	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奧羽	北海道	燒失家屋數	震死者數	臺灣	支那				南洋	燒失家屋數	震死者數	全國燒失家屋數	全國震死者數
																		中部	北部	南部	北部					
3	4		2												2	2								2	2	
	5		(2)												1	1								1	1	
6	7				1																					
8	8		(1)																							
計			2(3)		1										3	3								3	3	
4	4						1				1				2	5								2	5	
	5		(1)		(2)		(1)				(1)				7	5								7	5	
6	7																									
8	8		(5)																							
計			(6)		(2)		1(1)				8(1)				9	10								9	10	
5	4		2												2	3								2	3	
	5				1(1)	1(1)			1(1)						3	3								3	3	
6	7																									
8	8																									
計			2		1(1)	1(1)			1(1)						5	3								5	3	
6	4		(1)						(1)						2	2	1						2	1		
	5				1	1		7			(1)				2	2	2						2	2		
6	7			2(8)	1(3)	(1)								4	8	4						1	8			
8	8														4	12						1	4			
計		(1)		2(8)	2(5)	(1)	3	7	(1)		(1)			2	16	17						2	16	19		
7	4		4(10)	(2)	17(4)	3	3(1)	5	1	(3)	1(6)	3	2	39	26							1	39	27		
	5		(1)	1	4(3)		2(1)	3(2)						10	7							6	10	7		
6	7				1(6)		1						3	11								3	11			
8	8		(4)	1	2(1)	1(1)	2	5(1)	1(1)	1(3)	(5)	2(5)		15	30	(1)						6	15	30		
計			4(32)	2(2)	24(14)	4(1)	8(2)	14(3)	2(1)	6(8)	1(11)	5(7)	2	72	81	(1)						7	72	88		
8	4		(10)		2(2)		4(1)		(1)	14(2)	2	1		23	16							N	23+N	7		
	5		(5)	(1)					(1)	(1)	(2)	3(4)		3	13							N	3+N	16		
6	7		4(1)		(2)		4(1)		(1)	(1)			4	2								4	4			
8	8		3(1)	(2)	5(3)	(1)	1	4(2)		2(1)	(1)	3	5	4								20	19			
計			7(17)	(3)	7(7)	(1)	5(1)	4(2)	(1)	18(5)	(2)	2(8)	12(7)	55	54							N	655+N	60		
9	4					(1)				2(1)				2	2							1	2	3		
	5		N(1)		1				5(2)	2(1)				6	4							1	6	4		
6	7													1	1							N	N			
8	8													5	6							5	6			
計			1+N(1)		1	(2)		4(4)	5(2)	4(4)	2(1)			13+N	14							1	213+N	16		
10	4																									
	5																									
6	7																									
8	8																									
計																								1		

() 内ノ数字ハ震死者數

第 6 表 全 國 雷 雨 日 數

地名	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全年	地名	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全年		
																														恒春	昭和
				2	1	4	6	8	4	5	1	1		40					2	1	3	3	14	5	3	2	2	36			
				1	1	7	6	8	6	9	1	1		28					1	3	4	5	4	9	2	1	30				
						1	6	9	3	7	9	3		41					2	2	2	2	12	2	4	1	37				
						2	2	1	1	4	3			16					2	2	1	2	3	7	4	2	21				
				6	2	21	30	35	24	27	5	1		151					2	6	9	11	12	36	37	15	4	4	8	153	
臺東	4					4	3	5	2	3	1			18							1	2	18	7	4	2	2	37			
	5					8	5	4	5	11	1			40							2	2	8	8	4	2	2	32			
6	7					7	3	6	5	6	2			40						1	1	4	11	3	4	1	1	32			
8	8					12	4	4	6	7	2			37						1	1	5	7	4	4	1	1	19			
計						36	18	23	27	24	4			147						3	5	12	8	15	48	37	18	3	2	1	152
臺南	4					3	5	11	13	7	1			40							1	1	14	11	2	1	1	31			
	5					4	11	10	8	7	1			48							2	4	3	2	3	5	11	1	2	2	35
6	7					10	4	8	8	4	1			40						1	3	4	1	6	6	3	1	25			
8	8					6	5	10	12	6	5			43						1	1	1	9	7	3	1	21				
計						26	33	49	48	29	4			207						3	9	10	9	7	49	48	11	3	4	41	
澎湖	4					2	5	5	4					17							1	1	10	10	1	1	1	29			
	5					1	3	4	1	5				20							1	3	3	1	4	12	2	1	30		
6	7					4	3	2	2	2				16								4	3	4	2	2	2	23			
8	8					2	3	8	4	3				24							1	3	1	4	4	2	2	14			
計						8	16	22	13	10				90						1	9	13	7	9	39	41	8	4	4	1	136
花蓮港	4					3	6	4	1	5	1			15							2	2	6	5	2	1	1	21			
	5					11	6	3	5	9	1			41							1	3	1	1	8	2	1	2	20		
6	7					6	4	10	1	6				33							2	4	1	1	7	2	1	16			
8	8					14	3	6	10	12				38							1	2	1	1	4	2	1	9			
計						36	23	28	17	39	7			169						1	8	9	5	4	16	24	7	2	5	1	82
臺中	4					4	6	10	7	4				35							1	2	1	3	4	7	2	1	22		
	5					2																									

第 6 表 全 國 雷 雨 日 數

地名	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全	地名	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全
昭和	4													昭和	4														
下	5													和	5														
關	6	2												歌	6	1													
計	7	2	1	1	1	1	2	5	1	2	2	1	10	山	7	1	1	2	1	1	2	3	2	2	1	1	12		
	8	2	2	4	4	1	3	3	3	4	4	2	24	計	8	1	1	4	4	3	3	3	3	4	4	2	2		
	9	2	2	2	2	1	3	3	3	4	4	2	19	德	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	10	2	2	2	2	1	3	3	3	4	4	2	13	島	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	11	2	2	2	2	1	3	3	3	4	4	2	13	計	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	12	2	2	2	2	1	3	3	3	4	4	2	13	廣	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	計	2	8	8	8	4	6	16	29	10	4	3	90	島	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														吳	15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														宇	17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														和	18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														島	19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														松	21	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														山	22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														新	24	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														居	25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														濱	26	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														岡	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														山	29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														多	31	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														度	32	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														津	33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	34	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														洲	35	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														木	36	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	37	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														神	38	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														戶	39	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														大	41	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														阪	42	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
														計	43	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

第 6 表 全 國 雷 雨 日 數

地名	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全	地名	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全
昭和	4													昭和	4														
橫	5													石	5														
濱	6													卷	6														
計	7													宮	7														
	8													古	8														
	9													計	9														
	10													東	10														
	11													京	11														
	12													計	12														
	計													八	13														
														丈	14														
														島	15														
														計	16														
														大	17														
														臺ヶ原	18														
														山	19														
														計	20														
														八	21														
														木	22														
														計	23														
														富	24														
														崎	25														
														計	26														
														館	27														
														山	28														
														計	29														
														伊	30														
														吹	31														
														山	32														
														計	33														
														鏡	34														
														子	35														
														計	36														
														水	37														
														戶	38														
														計	39														
														小	40														
														名	41														
														濱	42														
														計	43														
														仙	44														
														臺	45														

附 録

自大正十五年 至昭和五年 五箇年間雷雨統計

1. 本附録は大正15年より昭和5年に至る5箇年間に本邦及びその附近に發現せる雷雨を統計せる結果にして、各地方に就きての月別雷雨發現回数及び時刻別雷雨發生回数の5箇年間の統計を表示し、觀測箇所の稠密なる地方に就きて之を圖示せり。表中の地方別方法は雷雨報告總説中にあり。

2. 月別雷雨發現回数に於ては、雷雨多き季節にありては、各月を上、中、下の三旬に分ち、他の季節にありては

之を爲さず。従つてその圖示に當りてはヒストグラムの形式に依れり。時刻別の雷雨發生回数は、四季の分と年總計とを掲載せり。四季の分け方は、3、4、5月を春、6、7、8月を夏、9、10、11月を秋、12、1、2月を冬とせり。表中下欄に角括弧を以て示せる數字は發生時刻の不明なるもの數なり。而してこの中、各地方の全年の時刻別雷雨發生回数及び内地のみに就き四季別及び全年の時刻別雷雨發生回数を圖示せり。

内 容

- 第1表 月別雷雨發現回数
- 第2表 時刻別雷雨發生回数 (春季)
- 第3表 時刻別雷雨發生回数 (夏季)
- 第4表 時刻別雷雨發生回数 (秋季)
- 第5表 時刻別雷雨發生回数 (冬季)
- 第6表 時刻別雷雨發生回数 (全年)
- 第1圖 時刻別雷雨發生回数
- 第2圖 月別雷雨發現回数

附 録 第 1 表
月 別 雷 雨 發 現 回 數

自大正15年至昭和5年總計

月	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奥羽	北海道	計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	總計
1 月	9	40	6	3	9	10	10	7	13	28	35	10		180	20	1		3		11	35	215
2 月	16	39	5	13	19	15	7	8	18	11	6	9		166	42	3	1	10		9	65	231
3 月	47	75	23	26	28	29	23	21	42	25	19	26	6	390	90	11	18	29		14	162	552
4 月	51	82	34	40	40	55	69	63	69	26	29	46	11	615	103	17	24	65		32	241	856
5 月上旬	30	31	7	15	12	13	23	26	45	7	9	26	14	258	84	2	35	67		18	206	464
5 月中旬	34	16	10	5	9	10	26	30	41	6	12	47	20	266	90	2	12	41	2	11	158	424
5 月下旬	49	34	22	35	30	21	45	53	52	17	42	84	36	520	106	2	28	97	4	22	259	779
5 月	113	81	39	55	51	44	94	109	138	30	63	157	70	1044	280	6	75	205	6	51	623	1667
6 月上旬	24	12	22	25	28	36	40	88	82	18	45	83	20	523	59	1	34	140	11	11	256	779
6 月中旬	27	16	13	27	11	19	30	72	82	6	32	69	65	469	67	6	32	68	7	17	197	666
6 月下旬	33	89	25	25	21	25	26	31	26	4	22	40	36	403	141	16	62	129	2	17	367	770
6 月	84	117	60	77	60	80	96	191	190	28	99	192	121	1395	267	23	128	337	20	45	820	2215
7 月上旬	19	206	57	79	59	55	78	77	106	18	38	83	40	915	159	8	49	170	11	23	420	1335
7 月中旬	15	203	76	96	75	113	143	148	197	26	83	126	79	1380	140	7	54	137	8	14	360	1740
7 月下旬	20	212	104	188	143	201	243	232	229	64	122	124	37	1919	118	8	84	163	9	15	397	2316
7 月	54	621	237	363	277	369	464	457	532	108	243	333	156	4214	417	23	187	470	28	52	1177	5391
8 月上旬	33	250	79	93	73	98	106	133	184	28	57	124	95	1353	117	14	62	188	10	6	397	1750
8 月中旬	22	183	58	73	59	59	93	105	167	20	59	107	55	1060	136	11	62	153	7	19	388	1448
8 月下旬	21	212	76	103	82	104	111	70	158	54	90	131	79	1291	139	16	37	119	6	28	345	1636
8 月	76	645	213	269	214	261	310	308	509	102	206	362	229	3704	392	41	161	460	23	53	1130	4834
9 月上旬	26	240	88	78	58	84	98	85	99	26	39	45	57	1023	130	9	36	122	9	26	332	1355
9 月中旬	33	108	55	60	47	56	64	50	73	53	60	76	50	785	112		22	51	11	15	211	996
9 月下旬	24	73	31	28	28	43	36	32	43	18	30	58	69	513	75		25	35	18	22	175	688
9 月	83	421	174	166	133	183	198	167	215	97	129	179	176	2321	317	9	83	208	38	63	718	3039
10 月上旬	6	13	11	5	6	10	12	9	27	14	26	29	51	219	36	1	22	54	19	21	153	372
10 月中旬	10	21	8	8	8	7	11	12	16	14	22	48	58	243	14	1	9	14	8	10	56	299
10 月下旬	12	28	12	12	15	22	26	18	19	23	27	39	34	287	2		4	17	3	20	46	333
10 月	28	62	31	25	29	39	49	39	62	51	75	116	143	749	52	2	35	85	30	51	255	1004
11 月	13	84	40	15	18	35	29	25	40	38	58	54	58	507	5	6	8	51	5	46	121	628
12 月	8	44	16	15	28	25	18	18	31	36	52	24	12	327	8	3		6		51	68	395
年	582	2311	878	1067	906	1145	1367	1413	1859	580	1014	1508	982	15612	1993	145	720	1929	150	478	5415	21027
摘 要																						

附錄第2表
時刻別雷雨發生回數 (春季)

自大正15年至昭和5年總計

時刻	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奧羽	北海道	計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	總計
0-1	6	13	2	1	5	6	5	7	4	5	4	3	3	64	18	1	6	5		2	32	96
1-2	11	15	5		2	4	5	7	3	2	1	7	1	63	9	2	2	16	1	3	33	96
2-3	5	10	4	3	5	3		4	5		2	3	3	47	14		4	6		4	28	75
3-4	7	6	5	2	1	6	2		1	3	3	9	1	46	14	2	2	4		3	25	71
4-5	11	4	3			3	5	2	1	3	2	4	4	42	14		3	10			27	69
5-6	14	6	1	1	1	1	2	1	1	2	1	3	2	36	25	2	5	6		1	39	75
6-7	14	7	3	1	2	2	2		3	7	3	4		48	15	2	4	8		2	31	79
7-8	13	5	3	1	2	4	1	4	2	1	5	4	1	46	7		5	11		4	27	73
8-9	8	7	1	3		1	1	5	2	2	2	1		33	13	1	6	7		3	30	63
9-10	5	4	1	2	1	1	4	2	3		2	1	1	27	17		4	10		6	37	64
10-11	7	8	1	1	6	4	2	3	5		2	8	3	50	27	2	3	10		1	43	93
11-12	8	7	5	3	5	7	11	8	14	4	3	14	9	98	16	1	4	9		6	36	134
12-13	6	4	2	8	7	7	7	6	22	1	1	13	6	90	23	1		10		9	43	133
13-14	9	10	5	7	8	9	13	9	23	3	3	28	9	136	42	1	2	22	1	9	77	213
14-15	9	16	3	7	8	5	13	15	21		8	33	8	146	53	3	6	27		10	99	245
15-16	5	12	6	8	4	10	12	18	19	4	4	15	9	126	45		7	23		8	83	209
16-17	9	21	2	9	6	4	10	10	17	3	8	15	7	121	25	1	6	27		6	65	186
17-18	11	17	4	5	3		7	6	17	3	6	11	4	94	19	3	7	11		3	43	137
18-19	4	9	6	6	7	4	6	9	16	4	4	10	2	87	16	8	8	25	1	4	62	149
19-20	11	15	1	8	5	4	7	4	7	2	3	7	4	78	16	1	8	8		3	36	114
20-21	14	14	3	1	4	3	3	5	10	3	5	6	1	72	15		6	11	1	5	38	110
21-22	7	7	1		3	4	2	3	4	3	4	4	2	44	12	1	6	7		4	30	74
22-23	9	6	1		2	2	3	3	3	6	1	4	2	42	7		7	8	1	1	24	66
23-24	8	5	4	2	5	1	3	2	4	2	1		3	40	11	2	6	4	1		24	64
計	211	228	72	79	92	95	126	133	207	63	78	207	85	1676	473	34	117	285	6	97	1012	2688
摘				[2]				[1]			[3]			[6]				[2]			[2]	[8]
要																						

附錄第3表
時刻別雷雨發生回數 (夏季)

自大正15年至昭和5年總計

時刻	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奧羽	北海道	計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	總計
0-1		17	9	3	7	7	14	2	14	4	6	23	7	113	16	1	13	22	2		54	167
1-2	8	27	9	8	5	8	7	7	10	6	5	10	11	121	16	2	14	23	3	1	59	180
2-3	7	19	10	6	3	9	8	4	7	3	12	10	15	113	11	2	11	25	1	4	54	167
3-4	4	15	9	6	4	7	11	7	6	3	7	7	10	96	8		11	25	1	2	47	143
4-5	9	27	7	2	7	10	6	6	6	6	3	21	5	115	24	4	15	29	2		74	189
5-6	8	34	12	9	11	7	4		5	6	9	8	13	126	17	1	13	28	4	7	70	196
6-7	8	35	4	7	4	1	10	5	5	5	5	14	12	115	19		11	33	2	6	71	186
7-8	13	37	6	6	4	3	6	2	7	2	8	6	6	106	24	2	11	24	2	11	74	180
8-9	8	34	11	4	7	5	7	3	6	4	13	15	10	127	19	1	9	22	4	9	64	191
9-10	6	35	13	6	3	6	3	8	16	2	9	13	12	132	30	2	7	25	2	7	73	205
10-11	6	57	12	13	10	17	14	19	26	5	17	45	26	267	30	1	8	25	2	6	72	339
11-12	14	83	25	33	29	24	48	44	67	13	25	69	35	509	48	5	25	41	1	8	128	637
12-13	11	109	35	34	45	42	42	68	108	12	22	71	44	643	77	3	24	53	4	14	175	818
13-14	15	149	66	57	46	59	83	105	131	10	41	96	52	910	149	9	29	105	5	11	308	1218
14-15	17	149	54	80	54	88	91	82	134	15	48	101	47	960	170	9	21	110	6	7	323	1283
15-16	11	145	58	66	59	57	60	107	125	23	41	68	50	870	149	4	42	114	2	17	328	1198
16-17	15	133	34	71	48	40	57	67	105	4	31	69	30	704	78	7	32	135	3	7	262	966
17-18	7	75	35	39	19	38	42	64	81	8	27	52	27	514	49	3	36	108	5	3	204	718
18-19	8	44	13	25	18	12	45	32	60	5	20	28	22	332	46	13	42	79	1	7	188	520
19-20	12	45	7	19	17	20	30	25	50	9	31	12	16	293	22	8	23	79	4	6	142	435
20-21	9	36	5	8	14	15	23	18	30	7	21	24	15	225	30	2	31	61	7	8	139	364
21-22	4	25	6	3	3	8	12	13	16	6	6	7	15	124	21	2	21	40	2	6	92	216
22-23	9	13	4	3	2	6	7	5	6		3	12	6	76	11	3	11	22	4	3	54	130
23-24	5	13	4		3	6	7	3	5	3	5	11	14	79	12	3	16	15			46	125
計	214	1356	448	508	422	495	637	696	1026	161	415	792	500	7670	1076	87	476	1243	69	150	3101	10771
摘		[4]		[5]		[2]		[2]	[1]		[4]	[8]	[2]	[28]				[3]			[3]	[31]
要																						

附錄第4表
時刻別雷雨發生回數 (秋季)

自大正15年至昭和5年總計

時刻	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奧羽	北海道	計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	總計	
0-1	2	17	6	3	5	6	7	9	6	6	8	15	11	101	7	2	5	15	3	3	35	136	
1-2	2	13	3	2	6	8	7	7	8	5	6	15	8	90	2	2	3	8	4	3	22	112	
2-3	3	19	3	6	1	7	5	9	4	5	5	6	12	85	3		3	7	1	2	16	101	
3-4	1	19	3	2		4	2	4	3	11	7	11	10	77	2		6	14	2		24	101	
4-5	1	20	7	1	4	4	5	5	5	5	10	6	14	87	7		1	10	1		19	106	
5-6	8	24	3	1	2	5	6	5	7	4	4	10	9	88	5		6	17	1	4	33	121	
6-7	7	22	7	3	6	2	5	5	8	5	10	11	16	107	8		2	7	1	11	29	136	
7-8	11	20	6	3	2	4	3	6	4	5	5	11	15	95	11		4	11	1	6	33	128	
8-9	7	17	5	3	4	5	3	3	8	3	2	2	15	77	4	1	3	8	5	3	24	101	
9-10	5	21	11		2	7	4	2	9	2	5	6	8	82	3	1	3	15		5	27	109	
10-11	1	30	4	4	3	8	6	2	7	8	5	8	10	96	2		2	9	4	7	24	120	
11-12	6	21	7	8	5	8	13	4	9	5	5	17	27	135	12	2	4	12	8	6	44	179	
12-13	7	31	11	7	6	6	10	9	11	11	7	15	16	147	20	1	4	9	1	11	46	193	
13-14	7	45	17	12	12	21	16	13	22	6	12	28	19	230	53	1	5	23	1	15	98	328	
14-15	7	43	21	16	20	16	19	10	28	10	18	22	28	258	61		6	19	2	11	99	357	
15-16	8	41	11	11	19	11	14	14	21	10	14	20	25	219	54	2	9	23	6	7	101	320	
16-17	3	32	13	6	13	10	17	8	20	5	14	22	20	183	37	1	8	23	1	9	79	262	
17-18	7	22	9	11	6	11	12	12	27	6	17	18	14	172	15		10	17	5	11	58	230	
18-19	8	21	18	4	4	8	10	7	16	7	18	15	18	154	21		7	17	4	7	56	210	
19-20	2	21	12	9	12	11	10	9	13	10	9	10	21	149	15		12	25	6	10	68	217	
20-21	7	17	10	7	3	7	10	2	15	7	5	8	12	110	15	2	6	12	4	12	51	161	
21-22	5	20	8	4	5	4	3	4	8	11	6	9	13	100	7	1	5	16	4	6	39	139	
22-23	5	8	14	2		5	6	4	3	3	11	3	11	75	8	1	7	8	1	10	35	110	
23-24	3	9	1		3	4	5	3	3	1	5	4	8	49	2		4	7	1	1	15	64	
計	123	553	210	125	143	182	198	156	265	151	208	292	360	2966	374	17	125	332	67	160	1075	4041	
摘		[2]		[1]				[2]		[1]	[15]	[4]	[25]									[25]	
要																							

附錄第5表
時刻別雷雨發生回數 (冬季)

自大正15年至昭和5年總計

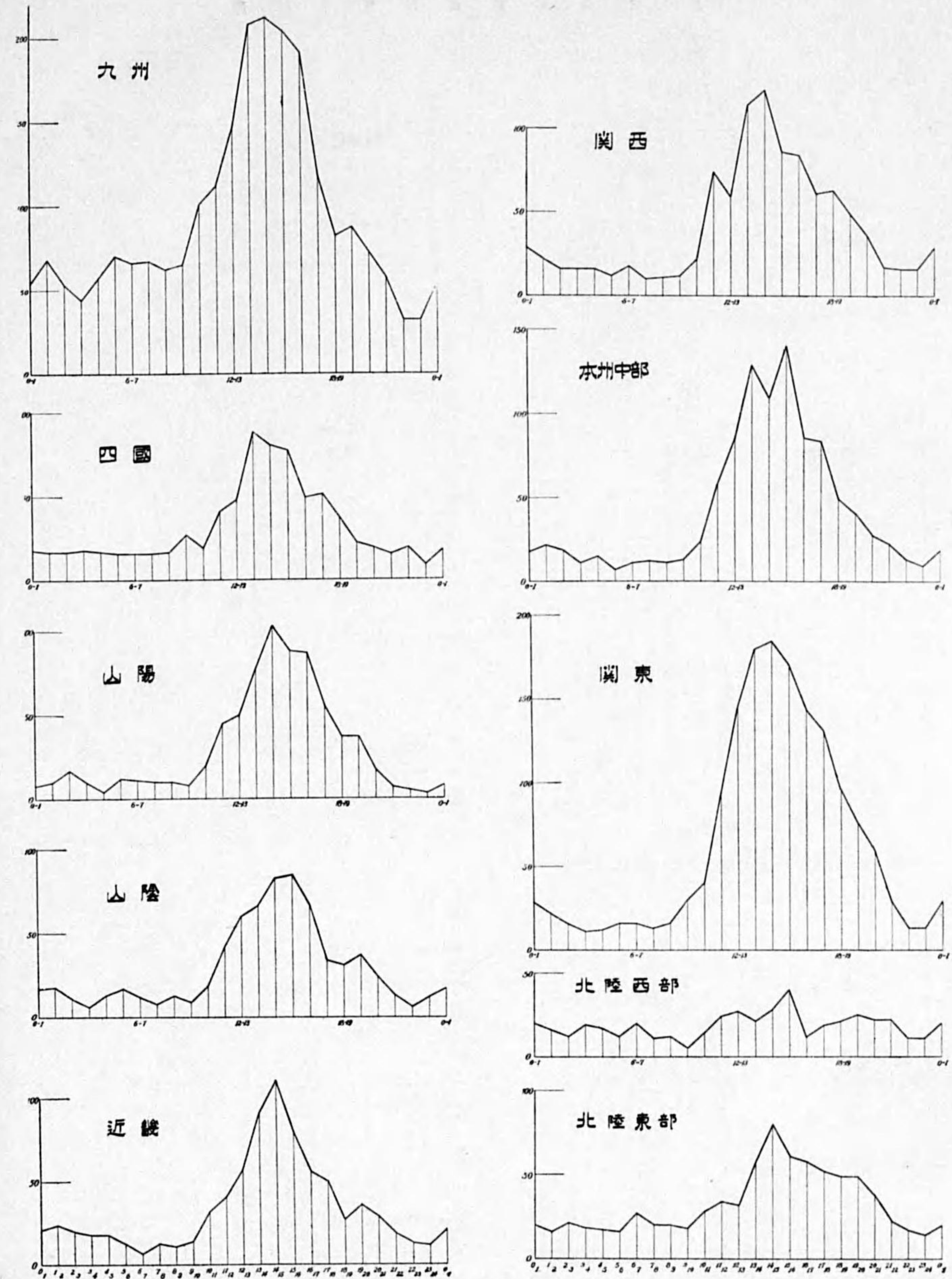
時刻	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奧羽	北海道	計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	總計	
0-1		7	1	1		2	3		5	5	2	2		28	5	1						6	34
1-2	1	13				5	4	3	1	1	3	4		35	2			1		1		4	39
2-3	2	5		2	2	1	3	2		4	2	4	1	28	3							3	31
3-4		4	1		1	1	1		1	2	1	3		15	6					1		7	22
4-5	1	6		1	2	1		2		3	2	1	1	20	2	1						3	23
5-6	3	6		1	3			1	3		2	2		21	4	1				4		9	30
6-7	3	2	2			2	1	1		3	9	1		24	1			1		5		7	31
7-8	3	5	1			2				3	2	2		18	3					4		7	25
8-9	1	4			2					3	3	1	1	15	1	1		3		3		8	23
9-10	1	5	2		3		1	1	2	1	2	1	1	20	2	1		2		3		8	28
10-11		6	2	2		3			2	1	4	2		22	3	1		1		2		7	29
11-12	1	1	4	1	3	2	2	2	3	2	1			22	1			1		1		3	25
12-13	2	3		1	2	2		1	4	3	2			20	5			1		7		13	33
13-14	1	4		2	1	2	2	1	3	2	2	2	1	23	3			1		7		11	34
14-15	1	4	2		1	1		1	1	3	6	2		22	6					1		7	29
15-16	1	6	2	3	3	1			5	3	2	1		27	1					6		7	34
16-17	3	5		1		2			1	5	3	1		21	2		1	3		3		9	30
17-18	3	3	3		6	1		1	6	2	2	1		28	4			1		4		9	37
18-19	2	8		2	2	3	2	1	4	5	7	2	1	39	3					4		7	46
19-20	2	6	2	1	3	1	2	2	6	4	6		2	37	2			1		6		9	46
20-21	1	5	1	1	3	4		2	4	5	7	2		35	6					2		8	43
21-22		5			2	3		2	1	2	6	3	2	26	3					5		8	34
22-23		5			2			1	1	2	2	2		15	1	1		1		2		5	20
23-24	1	5		1	1	1	1	1	1	5	3	1		21	1							1	22
計	33	123	23	20	47	39	21	23	54	66	84	38	11	582	70	7	1	17		71		166	748
摘												[3]	[3]										[3]
要																							

附錄第6表
時刻別雷雨發生回數 (全年)

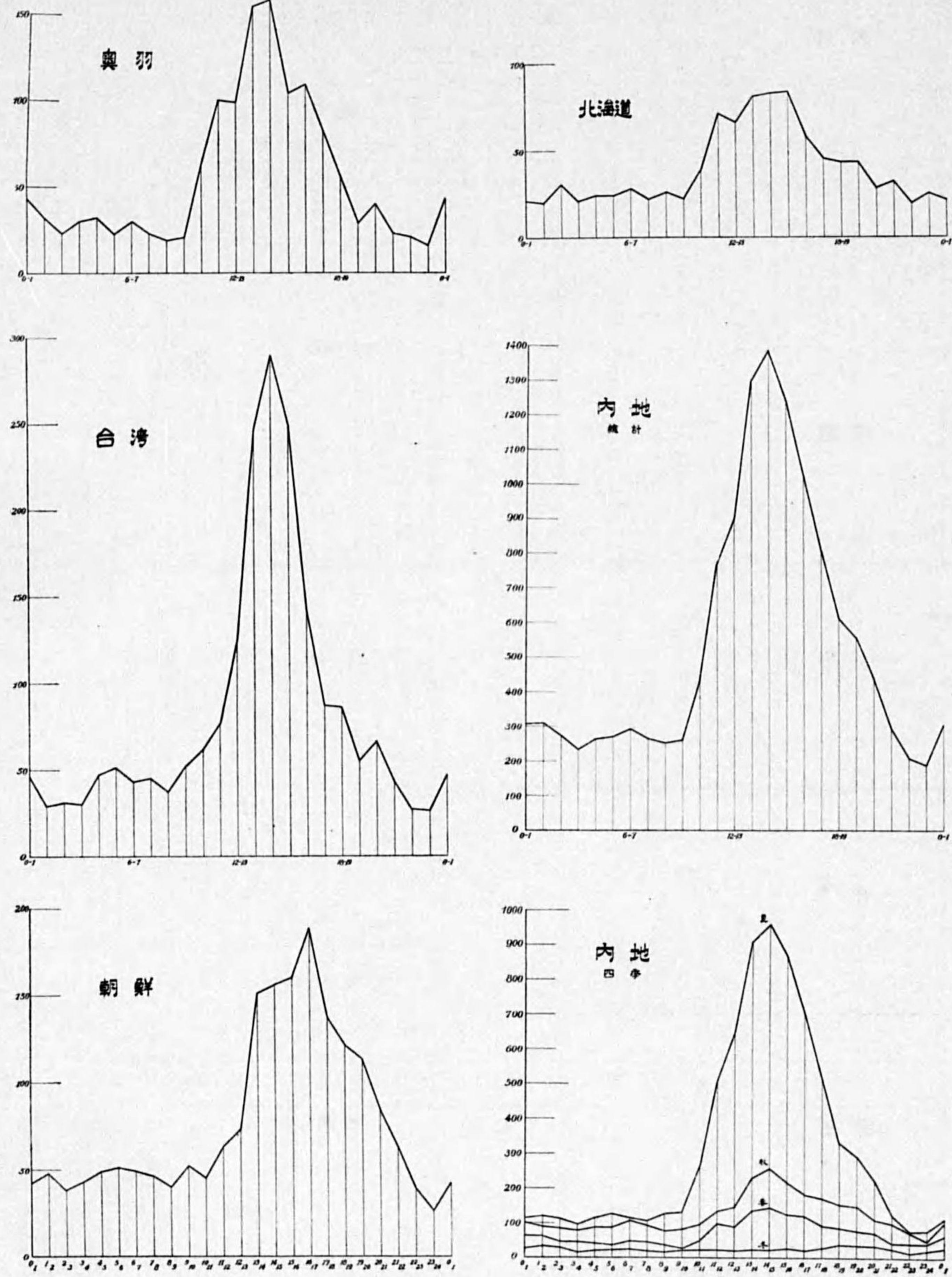
自大正15年至昭和5年總計

時刻	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸西部	北陸東部	奧羽	北海道	計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	總計
0—1	8	54	18	8	17	21	29	18	29	20	20	43	21	306	46	5	24	42	5	5	127	433
1—2	22	68	17	10	18	24	22	22	22	16	16	32	20	309	29	6	19	48	8	8	118	427
2—3	17	53	17	17	11	20	16	19	16	12	21	23	31	273	31	2	18	38	2	10	101	374
3—4	12	44	18	10	6	18	16	11	11	19	18	30	21	234	30	2	19	43	3	6	103	337
4—5	22	57	17	4	13	18	16	15	12	17	17	32	24	264	47	5	19	49	3		123	387
5—6	33	70	16	12	17	13	12	7	16	12	16	23	24	271	51	3	24	51	5	16	150	421
6—7	32	66	16	11	12	7	18	11	16	20	27	30	28	294	43	3	17	49	3	24	139	433
7—8	40	67	16	10	8	13	10	12	13	11	20	23	22	265	45	2	20	46	3	25	141	406
8—9	24	62	17	10	13	11	11	11	16	12	20	19	26	252	37	4	18	40	9	18	126	378
9—10	17	65	27	8	9	14	12	13	30	5	18	21	22	261	52	3	14	52	2	21	144	405
10—11	14	101	19	20	19	32	22	24	40	14	28	63	39	435	62	4	13	45	6	16	146	581
11—12	29	112	41	45	42	41	74	58	93	24	34	100	71	764	77	9	33	63	9	21	212	976
12—13	26	147	48	50	60	57	59	84	145	27	32	99	66	900	125	5	28	73	5	41	277	1177
13—14	32	208	88	78	67	91	114	128	179	21	58	154	81	1299	247	11	36	151	7	42	494	1793
14—15	34	212	80	103	83	110	123	108	184	28	80	158	83	1386	290	12	33	156	8	29	528	1914
15—16	25	204	77	88	85	79	86	139	170	40	61	104	84	1242	249	6	58	160	8	38	519	1761
16—17	30	191	49	87	67	56	84	85	143	12	58	109	58	1029	142	9	47	188	4	25	415	1444
17—18	28	117	51	55	34	50	61	83	131	19	52	82	45	808	87	6	53	137	10	21	314	1122
18—19	22	82	37	37	31	27	63	49	96	21	49	55	43	612	86	21	57	121	6	22	313	925
19—20	27	87	22	37	37	36	49	40	76	25	49	29	43	557	55	9	43	113	10	25	255	812
20—21	31	72	19	17	24	29	36	27	59	22	38	40	28	442	66	4	43	84	12	27	236	678
21—22	16	57	15	7	13	19	17	22	29	22	22	23	32	294	43	4	32	63	6	21	169	463
22—23	23	32	19	5	6	13	16	13	13	11	17	21	19	208	27	5	25	39	6	16	118	326
23—24	17	32	9	3	12	12	16	9	13	11	14	16	25	189	26	5	26	26	2	1	86	275
計	581	2260	753	732	704	811	982	1008	1552	441	785	1329	956	12894	1993	145	719	1877	142	478	5354	18248
摘要		[6]		[8]		[2]		[2]	[4]		[5]	[29]	[6]	[62]				[5]			[5]	[67]

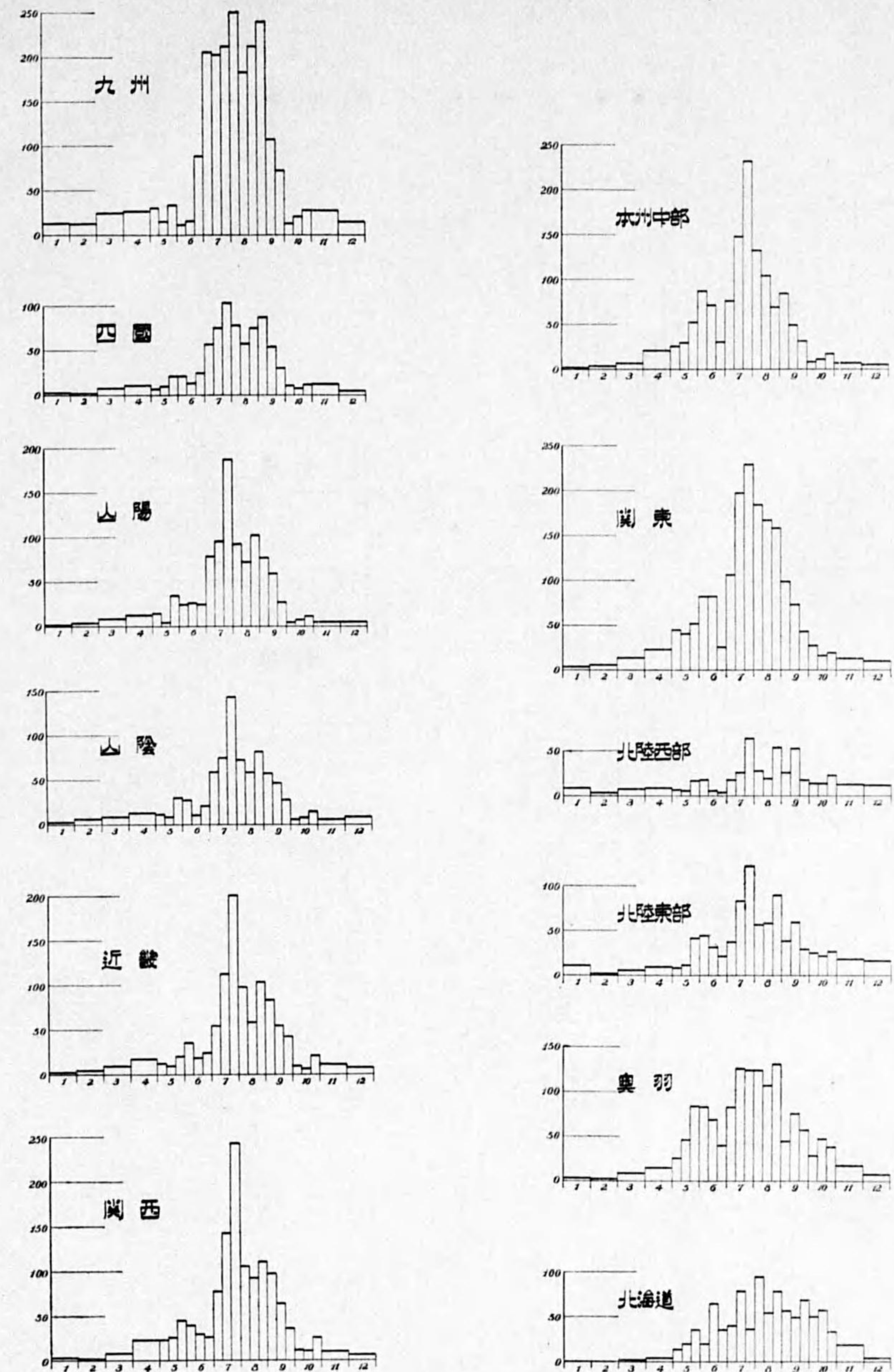
附錄第1圖 時刻別雷雨發生回數



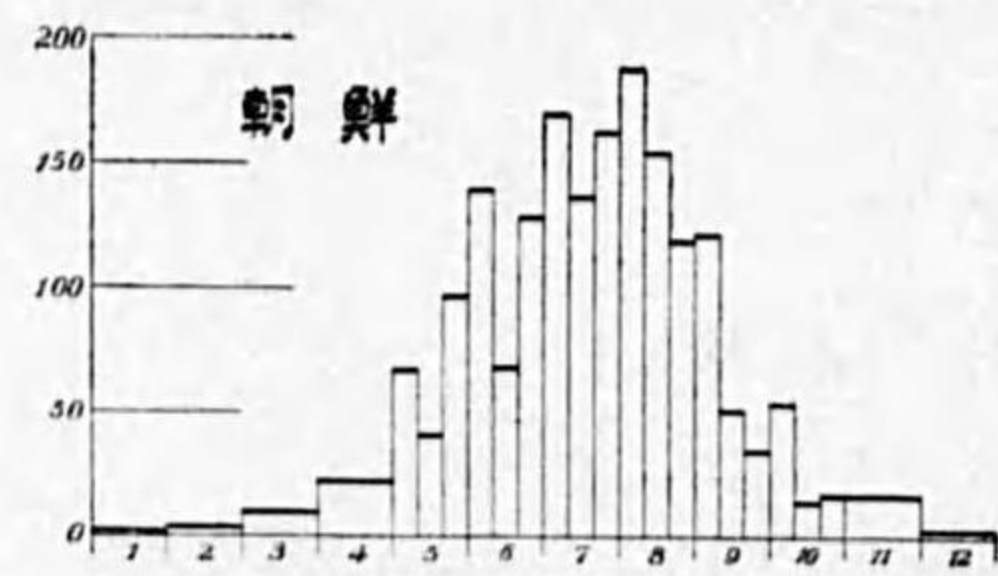
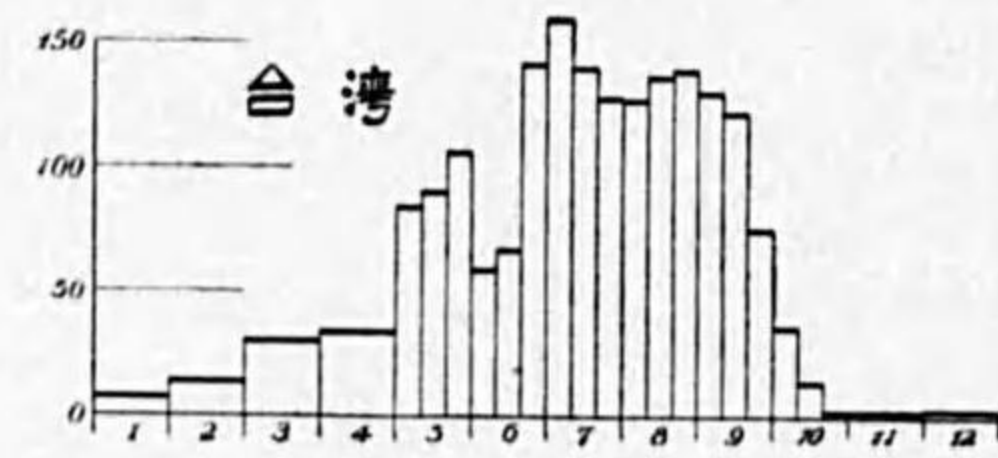
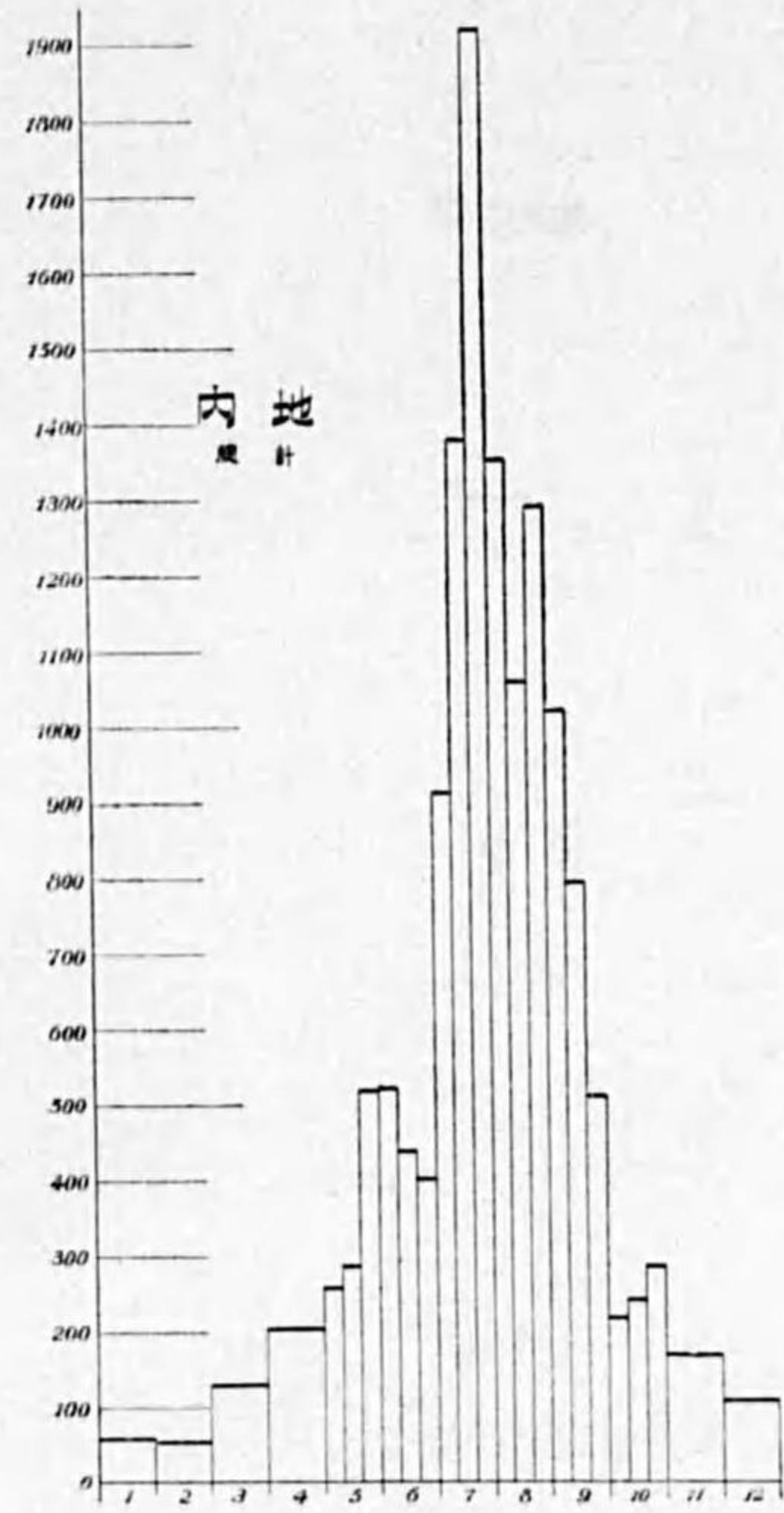
附錄第1圖 時刻別雷雨發生回數



附錄第2圖 月別雷雨發現回數



附錄第2圖 月別雷雨發現回數



昭和十年三月二十一日印刷
昭和十年三月二十五日發行

定價金貳圓五拾錢

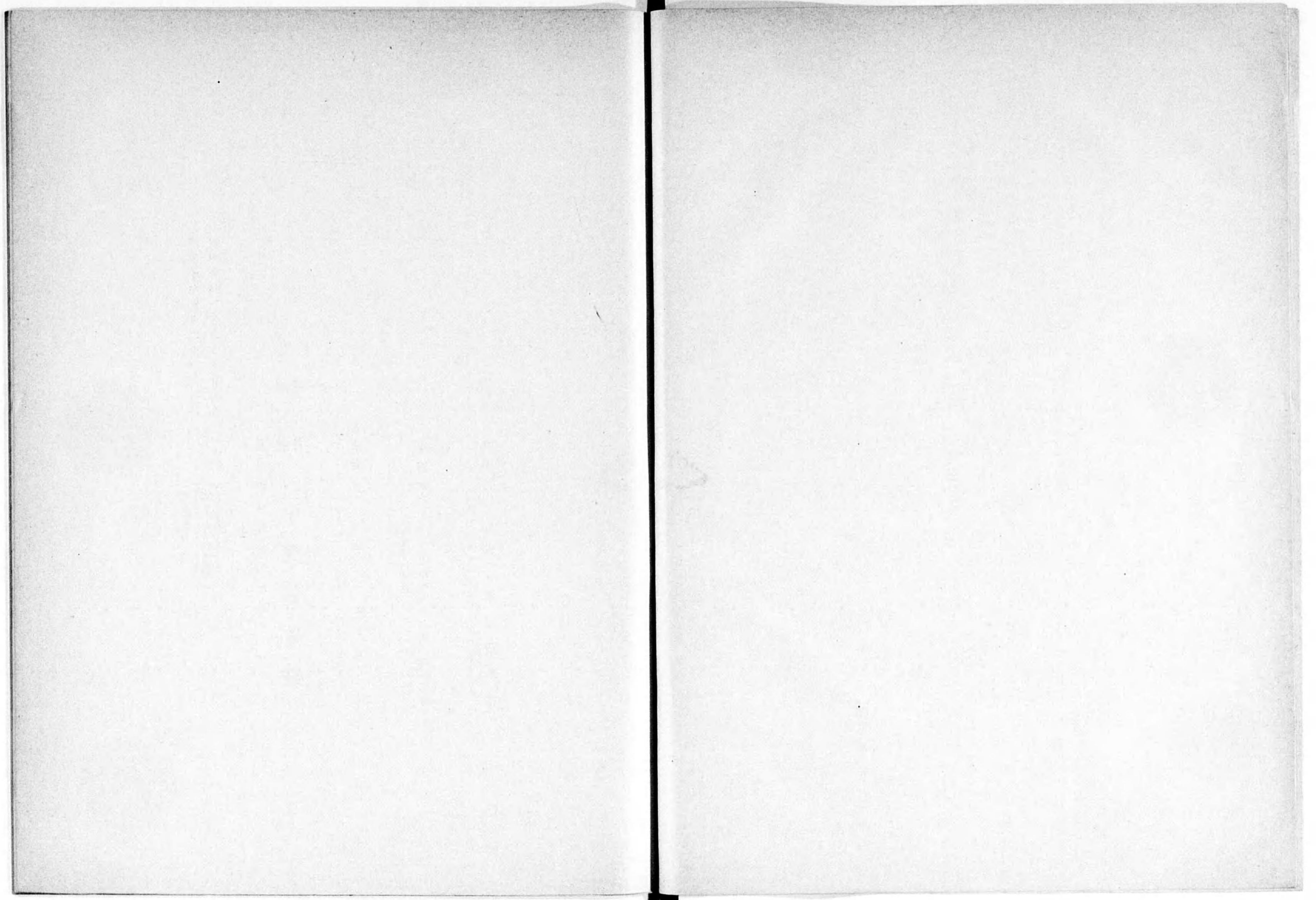
發行者兼編纂者
中央氣象臺

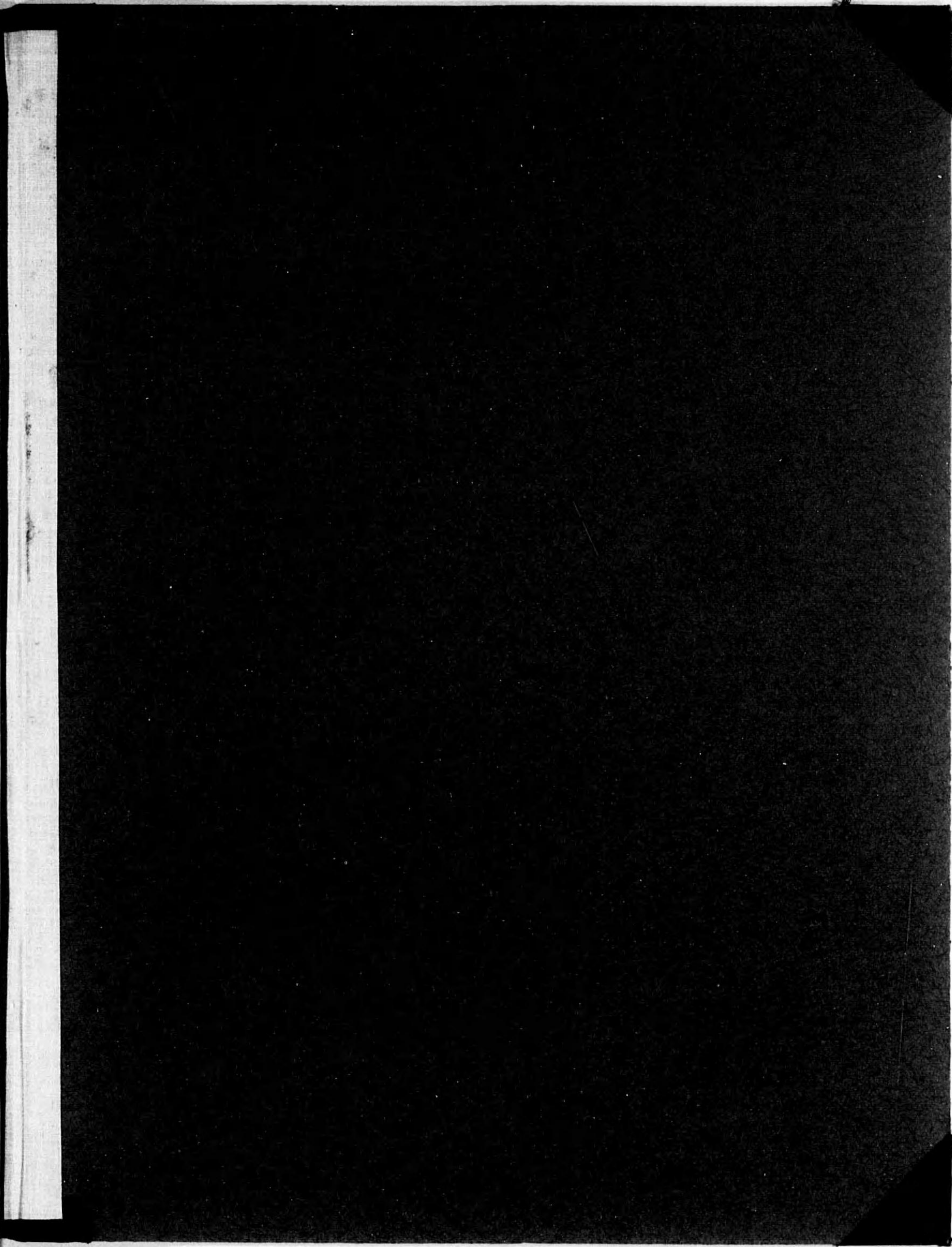
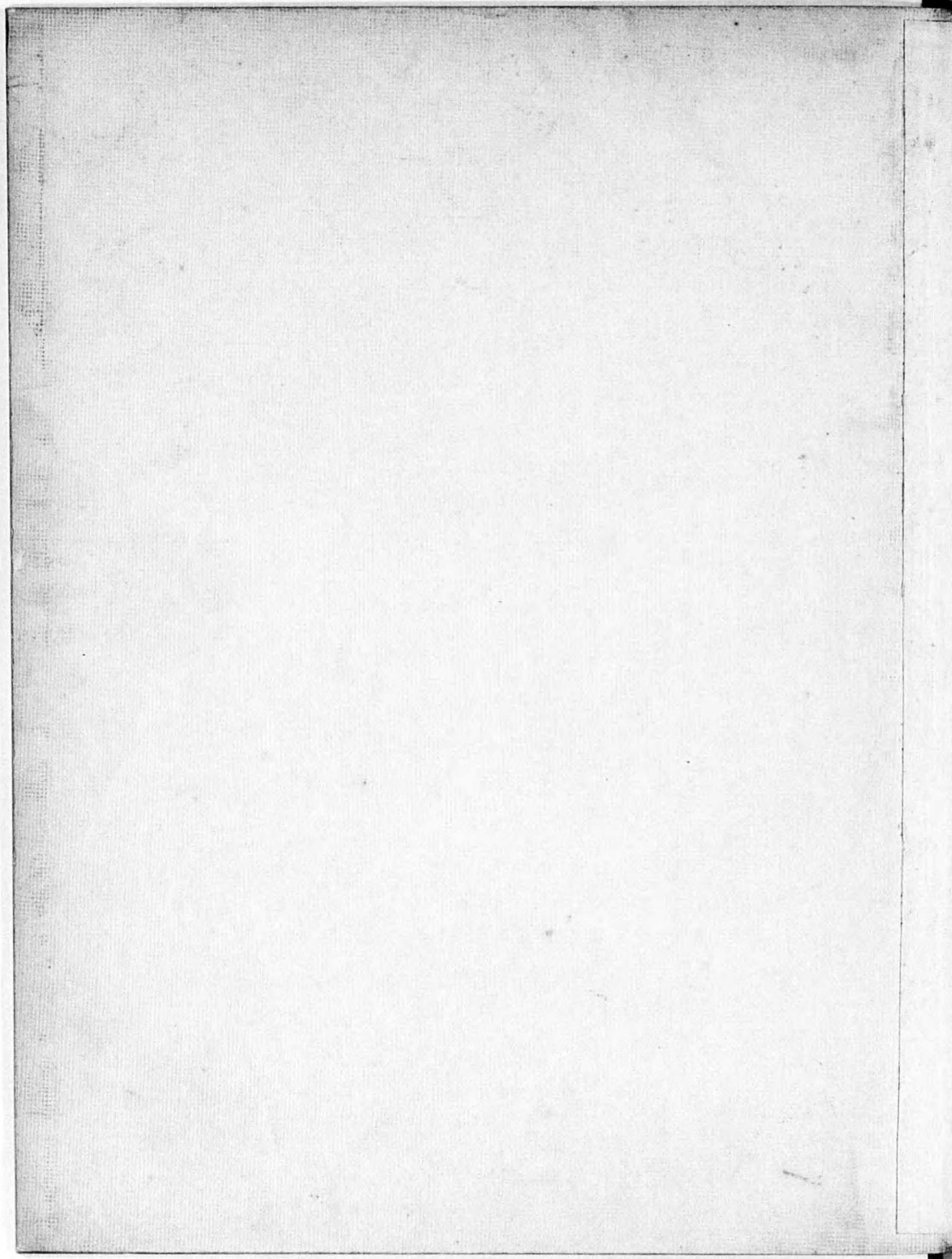
東京市麴町區大手町

印刷者 東京市本所區麴橋一丁目二十七番地ノ二 守岡 功

印刷所 東京市本所區麴橋一丁目二十七番地ノ二 凸版印刷株式會社本所分工場

販賣元 東京市麴町區大手町中央氣象臺構内 大日本氣象學會





14. 6二-276



1200501223657

116-

116

終